別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画									
事　項	記　入　欄								備　考
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更								
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾀｷｶﾜｶﾞｸｴﾝ 学校法人　滝川学園								
フリガナ 大学の名称	ﾅｺﾞﾔﾌﾞﾝﾘﾀﾞｲｶﾞｸ 名古屋文理大学（Nagoya Bunri University）								
大学本部の位置	愛知県稲沢市稲沢町前田365番地								
大学の目的	本学は、教育基本法ならびに学校教育法に基づき、かつ自由と責任を重んずる立学の精神に則って、幅広い教養を養成し、健康生活学、情報メディア学に関する教育研究を行い、もって学識深く心身健全にして社会有為な人材の育成を目的とし、学術の振興と科学文化の増進に寄与し、ひいては国家の発展と世界平和の実現に貢献することを使命とする。								
新設学部等の目的	以下の目的により、大学全体の収容定員を増加する。 ①情報メディア学部情報メディア学科は、情報の持つ社会的役割を多面的に教育研究し、情報社会で不可欠な知識と技術を身につけ、情報活用能力、コミュニケーション能力、創作能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成している。我が国においてもデジタル化を推進すべく、産官学をあげてデジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）の機運が高まっており、情報メディア学科で育成する人材は必要不可欠な存在となっている。このような背景を受け、情報メディア学部情報メディア学科の入学定員を増加する。 ②社会人や4年制大学以外の学校種からも、向学心を持った幅広く優秀な学生を受け入れるため、情報メディア学部情報メディア学科に3年次編入学定員を設置する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次 人	人		年　月 第　年次		
	健康生活学部 【School of Health and Human Life】			3年次					
	健康栄養学科 【Department of Health and Nutrition】	4	80	2 3年次	324	学士（栄養学）	平成15年4月 第1年次 平成31年4月 第3年次	愛知県稲沢市稲沢町前田365番地	
	フードビジネス学科 【Department of Food Business】	4	70		280	学士（フードビジネス学）	平成17年4月 第1年次	同上	
	情報メディア学部 【School of Information and Media Studies】			3年次					
	情報メディア学科 【Department of Information and Media Studies】	4	120 (100)	2 (0)	484 (400)	学士（情報メディア学）	令和6年4月 第1年次 令和6年4月 第3年次	同上	
	計		270 (250)	3年次 4 (2)	1088 (1004)				
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	名古屋文理大学短期大学部 食物栄養学科 栄養士専攻［定員減］（△30）（令和5年4月届出済） 製菓専攻　［定員減］（△10）（令和5年4月届出済）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計				
	ー	ー科目	ー科目	ー科目	ー科目		ー単位		

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設分	健康生活学部 健康栄養学科	人 9 (9)	人 2 (2)	人 0 (0)	人 4 (4)	人 15 (15)	人 6 (6)	人 30 (30)	
		フードビジネス学科	5 (5)	4 (4)	0 (0)	4 (4)	13 (13)	2 (2)	31 (31)	
		情報メディア学部 情報メディア学科	10 (10)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	18 (18)	0 (0)	36 (36)	
		計	24 (24)	11 (11)	0 (0)	11 (11)	46 (46)	8 (8)	ー (ー)	
	既設分	該当なし	ー (ー)	ー (ー)	ー (ー)	ー (ー)	ー (ー)	ー (ー)	ー (ー)	
			ー (ー)	ー (ー)	ー (ー)	ー (ー)	ー (ー)	ー (ー)	ー (ー)	
		計	ー (ー)	ー (ー)	ー (ー)	ー (ー)	ー (ー)	ー (ー)	ー (ー)	
	合計		24 (24)	11 (11)	0 (0)	11 (11)	46 (46)	8 (8)	ー (ー)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計
	事務職員	人 24 (24)	人 10 (10)	人 34 (34)
	技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	図書館専門職員	2 (2)	0 (0)	2 (2)
	その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	計	26 (26)	10 (10)	36 (36)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	名古屋文理大学短期大学部（必要面積3,800㎡）と共用<借用地>5,070.00㎡ R10.3.31まで以降、更新
	校舎敷地	33,277.68㎡	0㎡	6,402.54㎡	39,680.22㎡	
	運動場用地	0㎡	13,532.00㎡	0㎡	13,532.00㎡	
	小計	33,277.68㎡	13,532.00㎡	6,402.54㎡	53,212.22㎡	
	その他	1,925.00㎡	0㎡	1,242.78㎡	3,167.78㎡	
	合計	35,202.68㎡	13,532.00㎡	7,645.32㎡	56,380.00㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	16,559.67㎡ (16,559.67㎡)	0㎡ (0㎡)	10,809.86㎡ (10,809.86㎡)	27,369.53㎡ (27,369.53㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体
	19室	23室	17室	11室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)	

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数
	大学全体	60室

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点
	大学全体	79,214〔12,728〕	236〔 81 〕 (236〔 81 〕)	65〔 12 〕 (65〔 12 〕)	1,195 (1,195)	16 (16)	0 (0)
	計	79,214〔12,728〕 (79,194〔12,728〕)	236〔 81 〕 (236〔 81 〕)	65〔 12 〕 (65〔 12 〕)	1,195 (1,195)	16 (16)	0 (0)

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数
	1,974.65㎡	143	91,000

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要
	3,945.05㎡	なし

経費の見積り及び維持方法の概要										
経費の見積り	区　分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	経費の見積りは大学全体 図書費には電子ｼﾞｬｰﾅﾙ・ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの整備費（運用ｺｽﾄ）を含む
	教員１人当り研究費等		160千円	160千円	160千円	160千円	－千円	－千円	
	共同研究費等		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円	
	図書購入費	7,500千円	7,500千円	7,500千円	7,500千円	7,500千円	－千円	－千円	
	設備購入費	30,000千円	30,000千円	30,000千円	30,000千円	30,000千円	－千円	－千円	

		第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
学生１人当り納付金	①	1,380千円	1,180千円	1,180千円	1,180千円	－千円	－千円	①健康栄養学科 ②ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ学科 ③情報ﾒﾃﾞｨｱ学科
	②	1,330千円	1,130千円	1,130千円	1,130千円	－千円	－千円	
	③	1,380千円	1,180千円	1,180千円	1,180千円	－千円	－千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常費補助金、資産運用収入、寄付金収入等						

既設大学等の状況

大学の名称	名古屋文理大学							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員充足率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
健康生活学部			3年次			0.88		
健康栄養学科	4	80	2	324	学士（栄養学）	0.93	平成15年度	愛知県稲沢市稲沢町前田365番地
フードビジネス学科	4	70	－	280	学士（フードビジネス学）	0.82	平成17年度	
情報メディア学部						1.13		
情報メディア学科	4	100	－	400	学士（情報メディア学）	1.13	平成24年度	

既設大学等の状況

大学の名称	名古屋文理大学短期大学部								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
食物栄養学科						0.46			
栄養士専攻	2	150	－	300	短期大学士（食物栄養学）	0.44	平成17年度	愛知県名古屋市西区笹塚町二丁目1番地	令和6年4月より入学定員減（△30）令和5年4月届出済
製菓専攻	2	40	－	80	短期大学士（食物栄養学）	0.53	平成21年度		令和6年4月より入学定員減（△10）令和5年4月届出済

附属施設の概要	該当なし

（注）
1　共同学科等の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
2　「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。
3　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
4　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
5　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
6　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人滝川学園　設置認可等に関わる組織の移行表

収容定員変更

令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和6年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
名古屋文理大学				名古屋文理大学				
健康生活学部		3年次		健康生活学部		3年次		
健康栄養学科	80	2	324	健康栄養学科	80	2	324	
フードビジネス学科	70	－	280	フードビジネス学科	70	－	280	
情報メディア学部		3年次		情報メディア学部		3年次		
情報メディア学科	100	－	400	情報メディア学科	120	2	484	定員変更(20＋3年次編入学2)
		3年次				3年次		
計	250	2	1004	計	270	4	1088	
名古屋文理大学短期大学部				名古屋文理大学短期大学部				
食物栄養学科				食物栄養学科				
栄養士専攻	150	－	300	栄養士専攻	120	－	240	定員変更(△30)
製菓専攻	40	－	80	製菓専攻	30	－	60	定員変更(△10)
計	190	－	380	計	150	－	300	

(1)都道府県内における位置関係の図面



稲沢市地域図

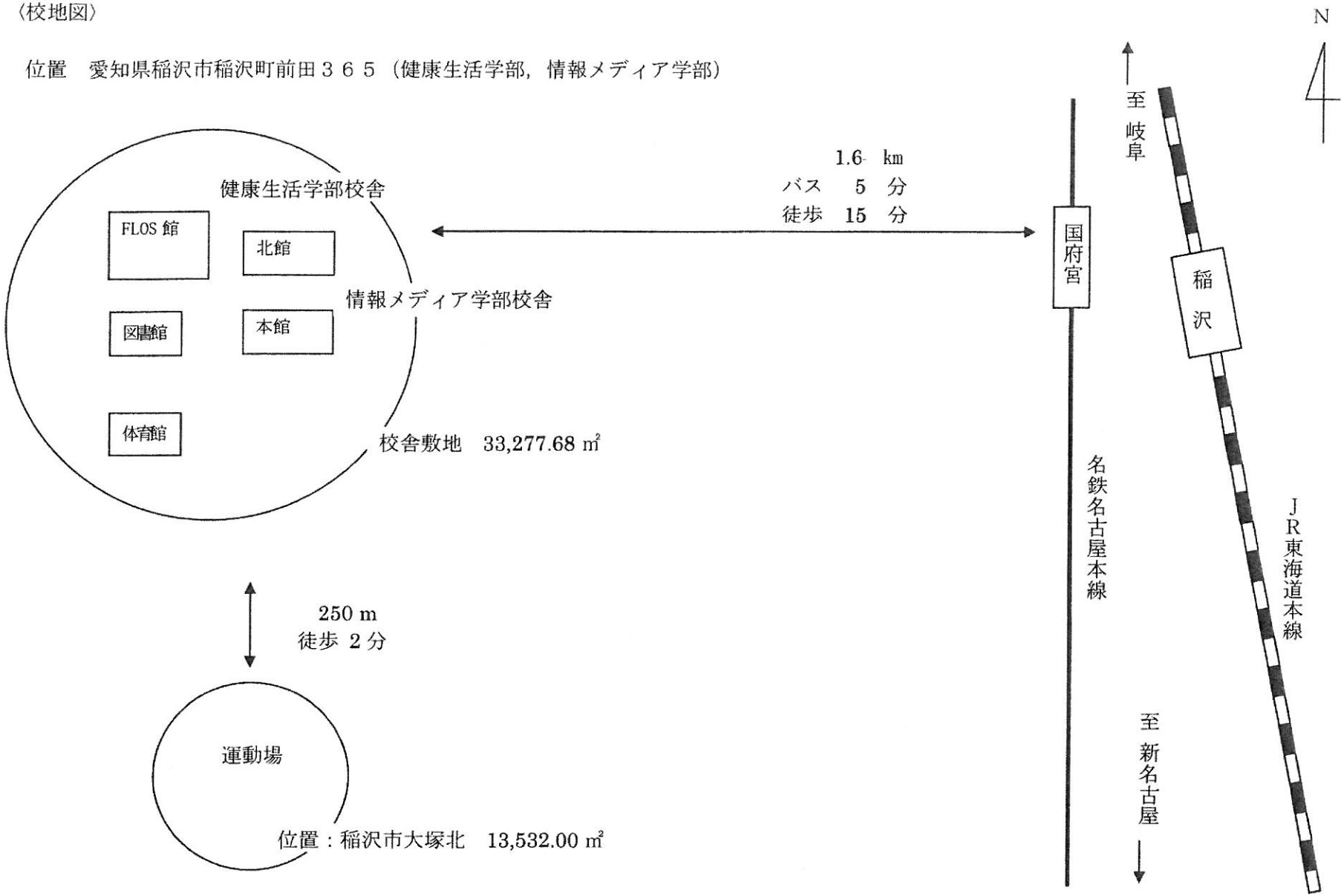
－名古屋文理大学所在地－



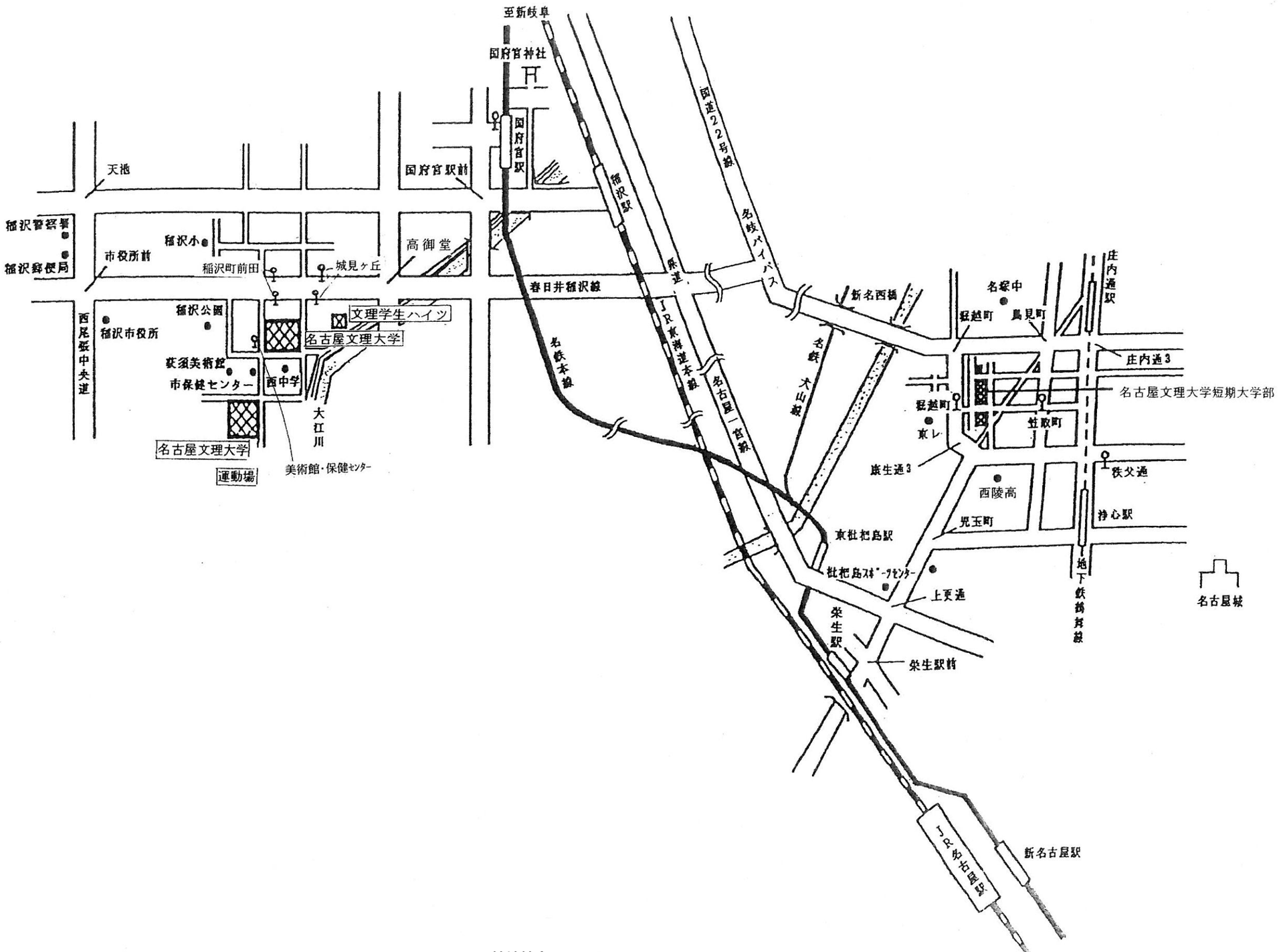
(2)最寄り駅からの距離,交通機関及び所要時間がわかる図面

〈校地図〉

位置　愛知県稲沢市稲沢町前田３６５（健康生活学部，情報メディア学部）

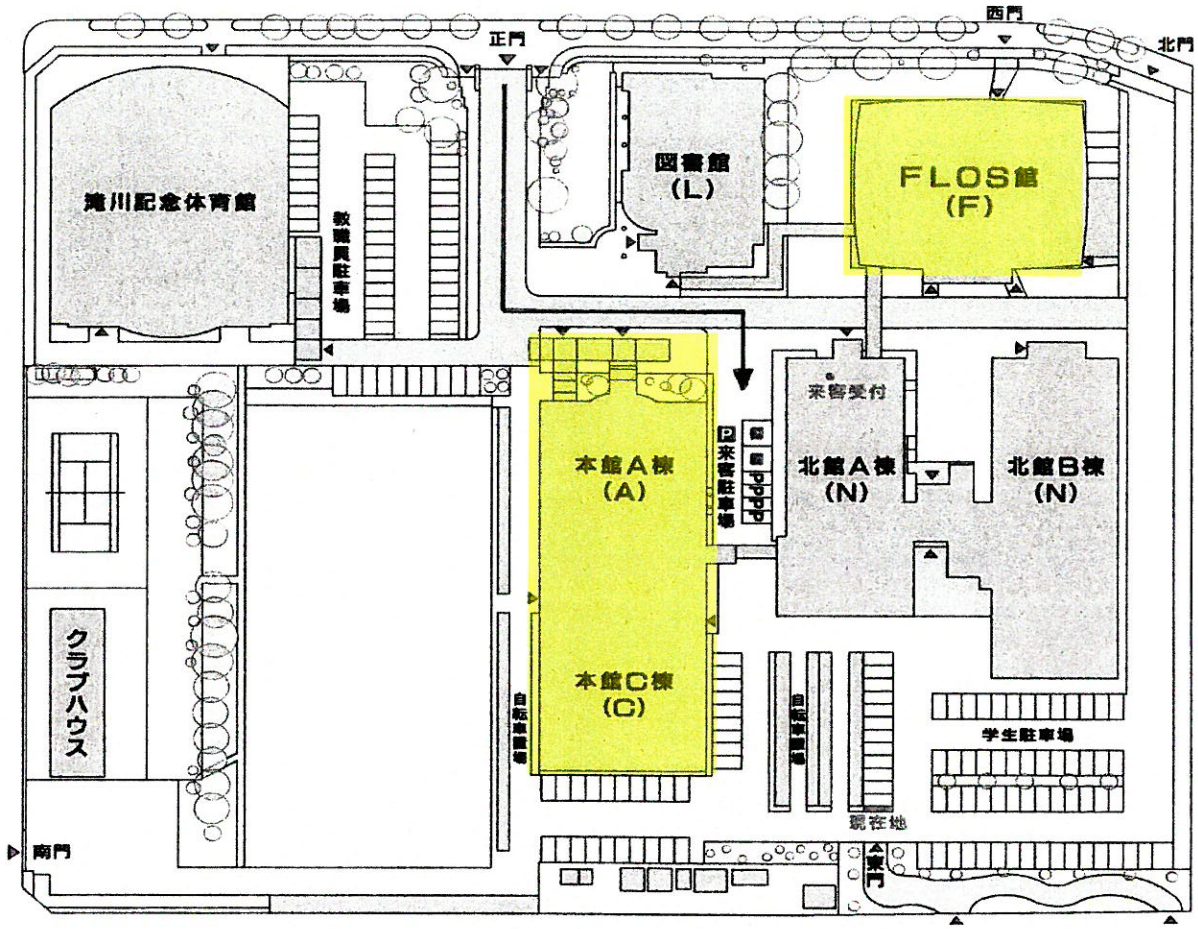


見取図


至新岐阜
国府宮神社
国府宮駅
国府宮駅前
天池
稲沢警察署
稲沢郵便局
市役所前
稲沢小
稲沢町前田
城見ヶ丘
高御堂
稲沢駅
国道22号線
名岐バイパス
東通
JR東海道本線
春日井稲沢線
名鉄本線
名古屋一宮線
名鉄犬山線
新名西橋
名古屋中
庄内通駅
稲越町
島見町
庄内通3
名古屋文理大学短期大学部
笠取町
東レ
旅生通3
西陵高
鉄父通
浄心駅
児玉町
東枇杷島駅
枇杷島スポーツセンター
上更通
地下鉄鶴舞線
名古屋城
栄生駅
栄生駅前
新名古屋駅
名古屋高速6号一宮線
稲沢公園
稲沢市役所
萩須美術館
市保健センター
西中学
西尾張中央道
大江川
名古屋文理大学
運動場
美術館・保健センター
文理学生ハイツ
名古屋文理大学

(3)校舎,運動場等の配置図

名古屋文理大学　校舎配置図



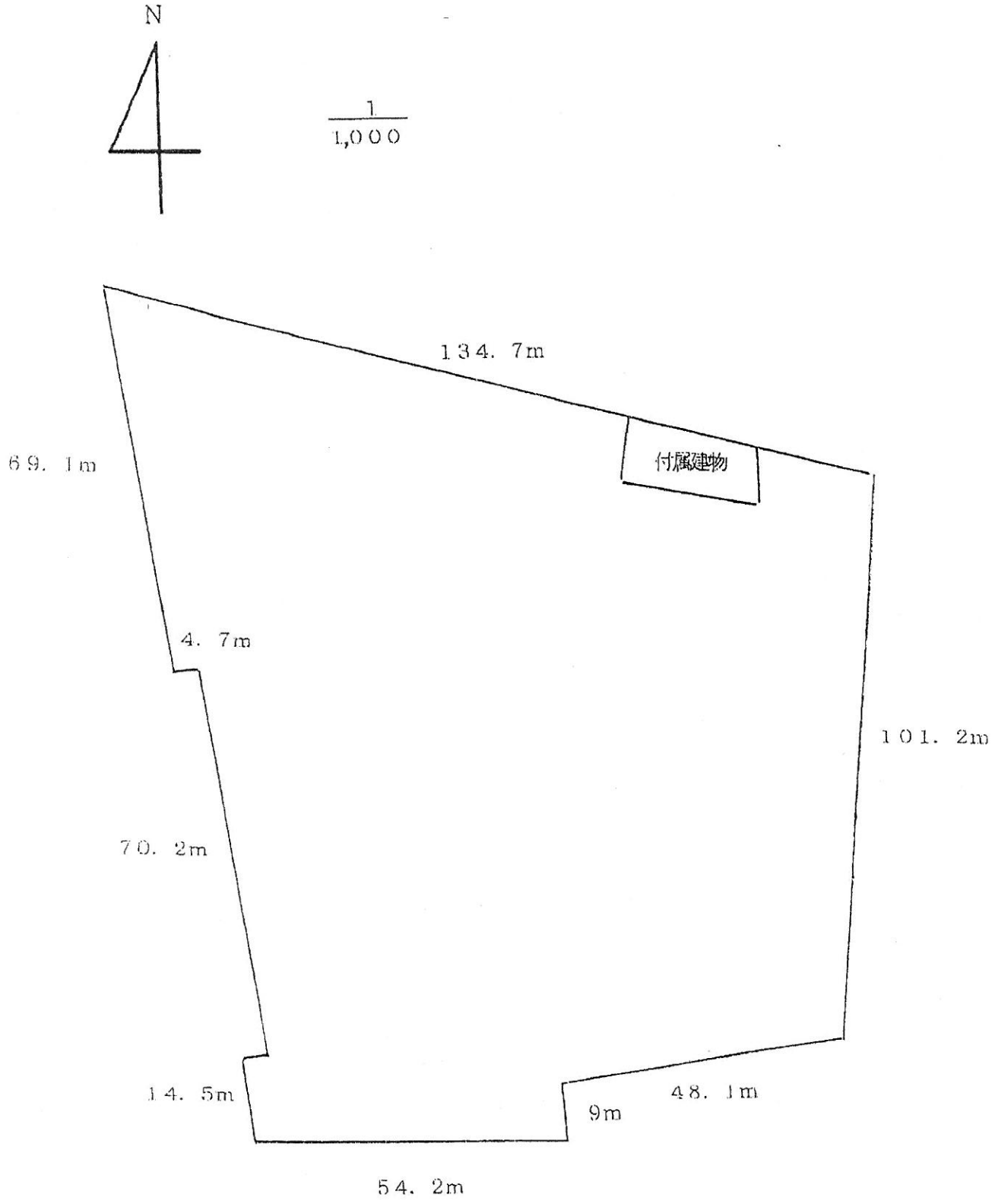
N

ＦＬＯＳ館校舎 2,900.91 ㎡

本館校舎 5,267.36 ㎡

運動場用地　　（稲沢市大塚町北２丁目１番）

13,532.00㎡



学　　則（案）

名 古 屋 文 理 大 学

（令和６年４月）

名古屋文理大学学則

第１章　総　則

（名　称）

第１条　本学は，名古屋文理大学と称する。

（目　的）

第２条　本学は，教育基本法ならびに学校教育法に基づき，かつ自由と責任を重んずる立学の精神に則って，幅広い教養を養成し，健康生活学，情報メディア学に関する教育研究を行い，もって学識深く心身健全にして社会有為な人材の育成を目的とし，学術の振興と科学文化の増進に寄与し，ひいては国家の発展と世界平和の実現に貢献することを使命とする。

（自己評価等）

第３条　本学は，教育水準の向上を図り，前条の目的および社会的使命を達成するため，教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行う。

２　前項の点検および評価を行うにあたっての項目の設定･実施体制等については，別に定める。

第２章　学部，学科とその教育研究上の目的および収容定員

（学部，学科と教育研究上の目的）

第４条　本学に次の学部および学科を置く。

健康生活学部　健康栄養学科
フードビジネス学科
情報メディア学部　情報メディア学科

２　前項の各学部・学科の人材の養成に関する目的とその他の教育研究上の目的は下記の通りとする。

健康生活学部

健康生活学部は，人々が心身ともに健康で“質の高い生活”を送るために必要な知識と見識を備え，食と栄養に関わる様々な課題に科学的に取り組み，問題解決を図ることのできる人材を育成する。

健康栄養学科

健康栄養学科は，人々の健康の維持・増進，疾病の予防と治療を目的として，様々なライフステージや臨床的要請に対応した栄養学の幅広い知識と技術を身につけ，的確な指導と教育を通して人々の健康な生活に貢献しうる管理栄養士を育成する。

フードビジネス学科

フードビジネス学科は，食品の製造－流通－消費の過程に関わる知識や，多様な食生活や食文化に関わる幅広い知識を学修し，高度な専門知識を備えた人

材となるため体系的にフードビジネスの専門知識を身につけ，食品製造業，食品流通業，外食産業などのフードビジネスの各分野で活躍できる応用力，実践力のある人材を育成する。

情報メディア学部

情報メディア学部は，情報の持つ社会的役割を多面的に教育研究し，情報社会で不可欠な情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ，情報活用能力，コミュニケーション能力，創作能力を磨き，社会で実践的な活動ができる人材を育成する。

情報メディア学科

情報メディア学科は，幅広い情報を自在に取り扱える能力を身につけ，社会で求められる問題解決能力，企画・立案能力，文化創造力を養う。情報システムの仕組みや特性を理解し，それらが持つ文化・社会への影響に十分配慮しながら，情報システムの構築やコンテンツの創造，企画・コミュニケーションに関わる総合的な能力の育成をめざす。

（収容定員）

第５条　前条の学部学科の収容定員は，次の通りとする。

学部	学科	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員
健康生活学部	健康栄養学科	８０	２	３２４
	ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	７０	―	２８０
情報ﾒﾃﾞｨｱ学部	情報ﾒﾃﾞｨｱ学科	１２０	２	４８４
合　　計		２７０	４	１０８８

第３章　学年，学期および休業日

（学　年）

第６条　学年は 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終る。

（学　期）

第７条　学年を分けて次の２学期とする。

前学期　4 月 1 日から 9 月 30 日まで

後学期　10 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで

２　学長は，学期の授業期間を変更することができる。

（休業日）

第８条　休業日は次の通りとする。

日曜日

国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日

学園創立記念日　11 月 8 日

夏期休業日　　8 月　1 日から 8 月 31 日まで

冬期休業日　　12 月 26 日から翌年 1 月 7 日まで

春期休業日　　3 月 26 日から 3 月 31 日まで

２　学長は，前項の休業日を変更することができる。

３　第１項に定めるもののほか，学長は臨時の休業日を定めることができる。

第４章　教育課程および単位の認定

（修業年限）

第９条　修業年限は４年とする。

２　学生は８年を超えて在学することができない。ただし，第 37 条第１項の規定により入学した学生は，在学すべき年数の２倍に相当する年数を超えて在学することができない。

３　前項の規定にかかわらず，在学年限を超えて在学を希望する者があるときは，教授会において学習意欲等を総合的に審議し，学長は在学の延長を認めることがある。
４　本学の学部に３年以上在学した者が，卒業要件単位を優秀な成績で修得し，別に定める基準をみたしたと認める場合には，第１項の規定にかかわらず，その卒業を認めることができる。

（授業科目の区分）

第 10 条　授業科目を分けて，基礎教育科目，および専門教育科目とする。
２　授業科目の種類・単位数は，別表第一および第二の通りとする。

（授業の方法）

第 10 条の 2　授業は，講義，演習，実験，実習若しくは実技のいずれかにより実施するものとする。
２　前項の授業は，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
３　第２項の規定による方法で履修し修得した単位は，60 単位を超えない範囲で卒業要件として認定することができる。

（教職課程）

第 11 条　前条に定めるもののほか教職課程に関する科目を置く。
２　授業科目の種類，単位数は別表第三の通りとする。

（履修すべき授業科目および修得すべき単位数）

第 12 条　修業年限は４年であるがその間に履修すべき授業科目および修得すべき単位数の最低限度は次の通り 124 単位とする。

（１）　健康生活学部
　　健康栄養学科・フードビジネス学科
　①　基礎教育科目は必修科目を含めて 30 単位以上
　②　専門教育科目は必修科目を含めて 82 単位以上
　③　基礎教育科目，専門教育科目から 12 単位以上

（２）　情報メディア学部
　　情報メディア学科
　①　基礎教育科目は必修科目を含めて 36 単位
　②　専門教育科目 36 単位
　③　基礎教育科目，専門教育科目から 52 単位以上

２　健康生活学部フードビジネス学科の専門教育科目の単位数には，情報メディア学部情報メディア学科において履修した専門教育科目について修得した単位数を 12 単位を限度として含めることができる。
３　情報メディア学部情報メディア学科の専門教育科目の単位数には，健康生活学部フードビジネス学科において履修した専門教育科目について修得した単位数を 12 単位を限度として含めることができる。

（進級の取扱い）

第 12 条の 2　学生が３年次に進級するためには，２年次後期終了時に各学科とも定められた単位数を修得するとともに，各学科ともＧＰＡが定められた基準以上でなければならない。
２　進級に関して必要な事項は別に定める。

（一年間の授業期間）

第 13 条　１年間の授業を行う期間は定期試験等の期間を含め 35 週を原則とする。

（他大学または短期大学における授業科目の履修）

第 14 条　教育上有益と認めるときは，他の大学または短期大学との協議に基づき，学生が当該大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位を，30 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　前項の規定は，本学の承認を受けて学生が外国の大学または短期大学に留学する場合に準用する。

（大学および短期大学以外の教育施設における学修）

第 15 条　教育上有益と認めるときは，学生が行う短期大学の専攻科または高等専門学校の専攻科における学修，その他文部科学大臣が別に定める学修を，本学における授業科目の履修とみなし，本学の定めるところにより単位を与えることができる。

２　前項により与えることのできる単位数は，前条第１項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 30 単位を超えないものとする。

（入学前の既修得単位等の認定）

第 16 条　教育上有益と認めるときは，学生が本学に入学する前に他の大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位（第 49 条により修得した単位を含む）を，本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　教育上有益と認めるときは，学生が本学に入学する前に行った短期大学の専攻科または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を，本学における授業科目の履修とみなし，本学の定めるところにより単位を与えることができる。

３　前２項により修得したものとみなし，または与えることができる単位数は，編入学の場合を除き，本学において修得した単位以外のものについては，合わせて 30 単位を超えないものとする。

４　前３項の規定により単位の認定を行った場合においても，修業年限の短縮は行わない。

（単位の計算）

第 17 条　各授業科目の単位数は１単位の履修時間を教室内および教室外を合わせて 45 時間とし，次の基準により計算するものとする。

（１）　講義および演習については 15 時間から 30 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって１単位とする。

（２）　実験・実習および実技については 30 時間から 45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって１単位とする。

第５章　入学，試験および卒業

（入学の時期）

第 18 条　入学の時期は学年の始めとする。ただし，情報メディア学部については，学年の途中においても学期の区分に従い入学させることができる。

（入学資格）

第 19 条　本学に入学することのできる者は，次の各項の一に該当する者とする。

１．高等学校を卒業した者

２．通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）

３．学校教育法施行規則第 150 条の規定により高等学校卒業者と同等以上の学力があると認められる者

（入学者の選考）

第 20 条　入学志願者については別に定めるところにより選考を行う。

（入学手続および入学許可）

第 21 条　前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は，所定の期日までに本学所定の手続を行う。

２　学長は前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

（試験）

第 22 条　試験は通常毎学期末において実施する。

２　試験について必要な事項は別に定める。

（学修の評価）

第 23 条　授業科目の成績は試験その他の成績により担当教員が判定する。

２　成績判定はＡ＋(100～90 点)・Ａ(89～80 点)・Ｂ(79～70 点)・Ｃ(69～60 点)・Ｄ(60 点未満)・Ｏ(認定)・Ｘ(不認定)の評価で表し，Ａ＋・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｏを合格，Ｄ・Ｘを不合格とする。

３　やむを得ぬ事情で前条の試験を受けなかった者には，教授会の議を経て学長が承認したときに追試験を行うことがある。

４　不合格科目については一定期間を経た後，再試験を行うことができる。

５　学修の評価に関して必要な事項は別に定める。

（卒　業）

第 24 条　４年以上在学し第 12 条に定める授業科目および単位数を修得した者については，教授会の議を経て学長が卒業を認定する。

２　本学に３年以上在学した者で，卒業単位を優秀な成績で修得したと認める者には，別に定める規定によりその卒業を認定することができる。

３　学長は卒業を認定した者に対して学位記を授与する。

（学士の学位）

第 25 条　前条により卒業した者には，学士の学位を授与する。

２　学士の名称は，次に定める区分とする。

健康生活学部	健康栄養学科	学士（栄養学）
	フードビジネス学科	学士（フードビジネス学）
情報メディア学部	情報メディア学科	学士（情報メディア学）

（教育職員免許状取得）

第 26 条　教育職員免許状を取得しようとする者は，教育職員免許法（昭和 24 年 5 月 31 日 法律第 147 号）および教育職員免許法施行規則（昭和 29 年 10 月 27 日 文部省令 第 26 号）に定めるほか，所要の単位を修得しなければならない。

２　本学において取得できる教育職員免許状の種類は次の通りとする。

健康生活学部	健康栄養学科	栄養教諭一種免許状
情報メディア学部	情報メディア学科	高等学校教諭一種免許状（情報）

（栄養士の資格および管理栄養士国家試験受験資格ならびに，食品衛生管理者・食品衛生監視員の任用資格）

第 27 条　栄養士法第２条第１項の規定に基づく栄養士の免許を得ようとする者および栄養士法第５条の３第４号の規定に基づく管理栄養士国家試験の受験資格を得ようとする者は，健康生活学部健康栄養学科に在籍し，栄養士法施行令，栄養士法施行規則および管理栄養士学校指定規則に定める授業科目および単位数を修得しなければならない。管理栄養士養成に関する細則は別に定める。

また，食品衛生管理者および食品衛生監視員の任用資格を得るには，同学科に在籍し，食品衛生法施行規則に定める別表一の一の授業科目および単位数を修得しなければならない。

第６章　休学，復学，留学，退学，再入学，転学，転入学，編入学，転学部・転学科お

よび除籍

（休　学）

第 28 条　疾病その他やむを得ない事由により１学期以上休学しようとするときはその事由を具し，学部長を経て学長に願い出て許可を得なければならない。ただし，疾病の場合は医師の診断書の添付を必要とする。

（休学の命令）

第 29 条　疾病の種類によっては休学を命ずることがある。

（休学の期間）

第 30 条　休学の期間は１年を超えることができない。ただし，特別の事由がある場合は引き続き更に延長することができる。

２　休学の期間は通算して４年を超えることができない。

３　休学の期間はこれを在学期間に算入しない。

（復　学）

第 31 条　休学中の者にしてその事由がやみ復学しようとするときは，学部長を経て学長に願い出て許可を得なければならない。

（留　学）

第 32 条　外国の大学に留学を志望する者は，学部長を経て学長に願い出て許可を得なければならない。

２　前項の許可を得て留学した期間は，第 24 条に定める在学期間に含めることができる。

（退　学）

第 33 条　退学しようとする者は，その理由を添えて，学部長を経て学長に願い出て許可を得なければならない。

（再入学）

第 34 条　退学した者で，再入学を願い出た者は，選考の上許可することがある。

（転　学）

第 35 条　他の大学の入学試験に応じまたは転学しようとする者は，その事由を添えて，学部長を経て学長に願い出て許可を得なければならない。

（転入学）

第 36 条　本学に転入学を志願する者があるときは，欠員のある場合に限り選考の上転入学を許可する。

２　転入学に関して必要な事項は別に定める。

（編入学）

第 37 条　本学に編入学を志願する者があるときは，選考の上３年次に入学を許可する。

２　編入学できる者は，次の各号の一に該当するものとする。

（１）　大学を卒業した者または大学に２年以上在籍し所定の単位を修得した者

（２）　短期大学を卒業した者

（３）　高等専門学校を卒業した者

（４）　外国の大学，短期大学を卒業または大学に２年以上在籍し所定の単位を修得した者

（５）　専修学校の専門課程（修業年限が２年以上でありかつ課程の修了に必要な総時間数が１７００時間以上であるものに限る）を修了した者

３　編入学に関して必要な事項は別に定める。

（転学部・転学科）

第 38 条　学生が本学の他の学部・学科への転学部・転学科を志願するときは，選

考の上教授会の議を経て学長が許可することがある。
２　転学部・転学科に関して必要な事項は別に定める。
（除　籍）
第 39 条　次の各号の一に該当する者は，教授会の議を経て学長が除籍する。
（１）　第９条に定める在学期間を超えた者
（２）　第 30 条に定める休学の期間を超えてなお修学できない者
（３）　授業料等の納付を怠り，督促してもなお納付しない者
（４）　長期にわたり行方不明の者

第７章　授業料，入学金および検定料

（授業料等）
第 40 条　授業料等は，別に定める金額を毎年前後２期に分けて徴収する。
２　徴収時期は前期分（４月～９月の分）は４月中，後期分（10 月～翌年３月の分）は 10 月中とし，それぞれ年額の２分の１を徴収する。
（退学，停学，休学時の授業料等）
第 41 条　退学の場合は該当期分の授業料等を徴収する。
２　停学を命ぜられたときはその期間中も授業料等を徴収する。
３　休学の期間は授業料等を徴収しない。
４　休学の期間の在籍料は別に定める。
（授業料未納時の扱い）
第 42 条　授業料等を所定の期間内に納めないときは，講義その他の課程に出席しまたは図書の閲覧・学内施設を利用することができない。
（入学検定料および入学金）
第 43 条　入学志願者は，別に定める検定料を納めなければならない。
２　入学手続きにあたっては，別に定める入学金を納めなければならない。
（入学金・授業料等の扱い）
第 44 条　既納の入学金・授業料等は返付しない。ただし，入学手続き後本学所定の期日までに入学辞退を申し出た者については， 入学金を除く学納金を返付することがある。

第８章　職員組織

（職　員）
第 45 条　本学に次の職員を置く。
学　　長
副 学 長
教　　授
准 教 授
助　　教
助　　手
講　　師
事務職員
技術職員
そ の 他
２　職員に関する規定は別に定める。
（事務部等）
第 46 条　本学に事務部および教学部を置く。

第９章　教授会

（教授会の構成）

第 47 条　各学部の教授会は，学長および専任の教授・准教授をもって組織し，必要に応じて専任の助教その他の職員を加えることができる。

２　学長は教授会を召集しその議長となる。ただし，学長に支障があるときは副学長が議長となる。

３　教授会の運営に関する事項は別に定める。

（教授会の審議事項）

第 48 条　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

（１）学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項

（２）学位の授与に関する事項

（３）教育研究の基本方針に関する事項

（４）教育課程の編成に関する事項

（５）学術研究の推進に関する事項

（６）学生の資格認定および身分に関する事項

（７）学生の厚生補導および賞罰に関する事項

（８）学則その他重要な規則等の制定および改廃に関する事項

第 10 章　科目等履修生，聴講生，外国人留学生，および長期履修学生

（科目等履修生）

第 49 条　本学の授業科目の履修を希望する者があるときは，本学の教育に支障のない限りにおいて科目等履修生として履修を許可することがある。

２　科目等履修生には，本学則第 22 条および第 23 条の規定を準用して単位を与えることができる。

３　科目等履修生に関して必要な事項は別に定める。

（聴講生）

第 50 条　本学の授業科目の聴講を希望する者があるときは，本学の教育に支障のない限りにおいて，選考のうえ，聴講生として許可することがある。

２　聴講生に関して必要な事項は別に定める。

（外国人留学生）

第 51 条　外国人で大学において教育を受ける目的をもって入国し，本学に入学を志願する者があるときは，選考の上外国人留学生として入学を許可することがある。

２　外国人留学生について必要な事項は別に定める。

（長期履修学生）

第 52 条　第９条の第１項に定める修業年限を超える一定の期間にわたり，授業科目を履修することを目的として本学に入学を志願するものがあるときは，選考の上長期履修学生として入学を許可する。

２　長期履修学生に関して必要な事項は別に定める。

第 11 章　懲戒および賞

（懲　戒）

第 53 条　本学の規則に違反し，または学生としての本分に反する行為をした者は，教授会の議を経て学長はこれを懲戒する。

（懲戒の種類）

第 54 条　懲戒の種類は譴責・停学・退学とする。

２　前項の退学は次の各号の一に該当する学生に対して行う。

（１）　性行不良で改善の見込がないと認められる者

（２）　学力劣等で成業の見込がないと認められる者

（３） 正当な理由がなく出席が常でない者
（４） 学内の秩序を乱し，その他学生としての本分に反した者
（賞）
第 55 条 学生で品行方正・学術優秀な者または学生の模範となるべき行いをした者は，教授会の議を経て学長はこれを賞する。

第 12 章 付属施設

（付属施設）
第 56 条 本学に次の付属施設を置く。
（１） 図書情報センター
（２） 体育館
（３） 学生寮
２ 前項の各付属施設に関する事項は別に定める。

第 13 章 公開講座

（公開講座）
第 57 条 本学は，教授会の議を経て，学術の理論と応用に関する知識・技術等を普及するため公開講座を随時に開催する。
２ 公開講座に関する科目・聴講料等はその都度これを定める。

第 14 章 特別の課程

（特別の課程）
第 58 条 本学は，教授会の議を経て，学校教育法第１０５条及び学校教育法施行規則第１６４条に規定する特別の課程として本学の学生以外の者を対象とした履修証明プログラムを編成し，これを修了した者に対し，修了の事実を証する証明書を交付するものとする。
２ 前項に定めるもののほか，履修証明プログラムに関して必要な事項は別に定める。

第 15 章 基礎教育センター

（基礎教育センター）
第 59 条 本学に基礎教育センターを置く。
２ 基礎教育センターに関して必要な事項は別に定める。

第 16 章 名古屋文理 食と栄養研究所

（名古屋文理 食と栄養研究所）
第 60 条 本学に名古屋文理 食と栄養研究所を置く。
２ 名古屋文理 食と栄養研究所に関して必要な事項は別に定める。

第 17 章 地域連携センター

（地域連携センター）
第 61 条 本学に地域連携センターを置く。
２ 地域連携センターに関して必要な事項は別に定める。

第 18 章 学則の改廃

（学則の改廃）
第 62 条 この学則の改廃は，教授会の意見を聴いて学長が承認し，理事会が行う。

附　則

本学則は，平成１１年４月１日から施行する。

附　則

本学則は，平成１４年４月１日から施行する。

附　則

本学則は，平成１５年４月１日から施行する。

附　則

本学則は，平成１６年４月１日から施行する。

附　則

１．本学則は平成１７年４月１日から施行する。

２．平成１７年４月１日から情報文化学部情報文化学科および社会情報学科の学生募集を停止する。

なお，当該学科は在学する者がいなくなるまで存続するものとし，教育課程に関する規定は従前によるものとする。

３．第５条の規定にかかわらず平成１７年４月１日から平成２０年３月３１日までの間においては，学部名，学科名，入学定員，収容定員は次の通りとする。

学　部	学　科	平成17年度		平成18年度		平成19年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
情報文化学部	情報文化学科	０	３８０	０	２６０	０	１３０
	社会情報学科	０	３８０	０	２６０	０	１３０
	情報ﾒﾃﾞｨｱ学科	１８０	１８０	１８０	３６０	１８０	５４０
健康生活学部	健康栄養学科	８０	２４０	８０	３２０	８０	３２０
	ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	７０	７０	７０	１４０	７０	２１０
合　　計		３３０	１２５０	３３０	１３４０	３３０	１３３０

附　則

本学則は，平成１９年４月１日から施行する。

附　則

本学則は，平成２０年４月１日から施行する。

附　則

本学則は，平成２１年４月１日から施行する。

附　則

１．本学則は，平成２２年４月１日から施行する。

２．情報文化学部社会情報学科は，当該学科に在籍する者がいなくなったため，平成２２年３月３１日をもって廃止する。

附　則

１．本学則は，平成２４年４月１日から施行する。

２．情報文化学部情報メディア学科およびＰＲ学科は，平成２４年４月１日から学生募集を停止し，在学生の卒業を待って廃止する。なお，情報文化学部は，在学する者がいなくなるまで存続するものとし，教育課程に関する規定は従前によるものとする。

３．第５条の規定にかかわらず平成２４年４月１日から平成２７年３月３１日までの間においては，学部名，学科名，入学定員，収容定員は次の通りとする。

学　部	学　科	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
健康生活学部	健康栄養学科	８０	３２０	８０	３２０	８０	３２０
	ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	７０	２８０	７０	２８０	７０	２８０
情報ﾒﾃﾞｨｱ学部	情報ﾒﾃﾞｨｱ学科	１００	１００	１００	２００	１００	３００
情報文化学部	情報ﾒﾃﾞｨｱ学科	０	３００	０	２００	０	１００
	ＰＲ学科	０	２４０	０	１６０	０	８０
合　　計		２５０	１２４０	２５０	１１６０	２５０	１０８０

附　則

１．本学則は，平成２５年４月１日から施行する。

２．情報文化学部情報文化学科は，当該学科に在籍する者がいなくなったため，平成２５年３月３１日をもって廃止する。

附　則

１．本学則は，平成２５年５月１日から施行する。

附　則

１．本学則は，平成２７年４月１日から施行する。

２．情報文化学部ＰＲ学科は，当該学科に在籍する者がいなくなったため，平成２７年３月３１日をもって廃止する。

附　則

１．本学則は，平成２８年４月１日から施行する。

附　則

１．本学則は，平成３１年４月１日から施行する。

２．第５条の規定にかかわらず平成３１年４月１日から平成３２年３月３１日までの間においては，学部名，学科名，入学定員，収容定員は次の通りとする。

学　部	学　科	平成31年度	
		入学定員	収容定員
健康生活学部	健康栄養学科	（２）８０	３２２
	ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	７０	２８０
情報ﾒﾃﾞｨｱ学部	情報ﾒﾃﾞｨｱ学科	１００	４００
合　　計		（２）２５０	１００２

備考

１．入学定員欄の（ ）内の数字は、第３年次編入学定員で外数である。

附　則

本学則は，令和２年４月１日から施行する。

附　則

本学則は，令和２年４月２３日から施行する。

附　則

１．本学則は，令和２年９月１２日から施行する。

２．情報文化学部情報メディア学科は，当該学科に在籍する者がいなくなったため，令和２年９月１１日をもって廃止する。

附　則

１．本学則は，令和３年４月１日から施行する。
２．改正後の第１２条の２の規定については、令和３年４月１日入学者から適用することとし、令和３年４月１日以前の入学者は従前の通りとする。

附　則

１．本学則は，令和４年４月１日から施行する。
２．改正後の第１２条の規定については、令和４年４月１日入学者から適用することとし、令和４年４月１日以前の入学者は従前の通りとする。

附　則

１．本学則は，令和５年４月１日から施行する。

附　則

１．本学則は，令和６年４月１日から施行する。
２．第５条の規定にかかわらず令和６年４月１日から令和８年３月３１日までの間においては，入学定員，収容定員は次の通りとする。

学　部	学　科	令和６年度		令和７年度		令和８年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
健康生活学部	健康栄養学科	（2）８０	３２４	（2）８０	３２４	（2）８０	３２４
	ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	７０	２８０	７０	２８０	７０	２８０
情報ﾒﾃﾞｨｱ学部	情報ﾒﾃﾞｨｱ学科	（2）１２０	４２２	（2）１２０	４４４	（2）１２０	４６４
合　　計		（4）２７０	１０２６	（4）２７０	１０４８	（4）２７０	１０６８

備考

１．入学定員欄の（ ）内の数字は、第３年次編入学定員で外数である。

別表第一
健康生活学部
（1）基礎教育科目

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	卒業要件単位数	備考
健康栄養学科	哲学		2		卒業要件
	心理学		2		基礎教育科目30単位以上
	人間関係論		2		専門教育科目82単位以上
	現代日本史		2		基礎教育科目、専門教育科目
	日本語力Ⅰ	1			いずれかから12単位以上
	日本語力Ⅱ	1			合計 124単位以上
	海外事情		2		
	海外研修Ⅰ		2		
	海外研修Ⅱ		2		
	法学		2		
	日本国憲法		2		
	経済学		2		
	経営学		2		
	社会学		2		
	数的処理Ⅰ	1			
	数的処理Ⅱ	1			
	自然科学Ⅰ(生物学)	2			
	自然科学Ⅱ(化学)	2			
	基礎理化学実験	1			
	生物特論		2		
	統計学		2		
	プラクティカル･イングリッシュⅠ	2			
	プラクティカル･イングリッシュⅡ	2			
	プラクティカル･イングリッシュⅢ		2		
	プラクティカル･イングリッシュⅣ		2		
	フランス語Ⅰ		2		
	フランス語Ⅱ		2		
	中国語Ⅰ		2		
	中国語Ⅱ		2		
	韓国語Ⅰ		2		
	韓国語Ⅱ		2		
	スポーツ科学		2		
	スポーツⅠ		1		
	スポーツⅡ		1		
	アウトドアスポーツⅠ		1		
	アウトドアスポーツⅡ		1		
	情報リテラシー	2			
	ＩＣＴ基礎	2			
	地域の課題		2		
	フレッシュマンセミナー(健康栄養)	2			
	キャリアデザインⅠ	1			
	キャリアデザインⅡ	1			
	総合科目Ａ		2		
	総合科目Ｂ		2	３０単位以上	

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	卒業要件単位数	備考
フードビジネス学科	哲学		2		卒業要件 基礎教育科目30単位以上 専門教育科目82単位以上 基礎教育科目、専門教育科目 いずれかから12単位以上 合計 124単位以上
	芸術		2		
	心理学		2		
	人間関係論		2		
	現代日本史		2		
	海外事情		2		
	海外研修Ⅰ		2		
	海外研修Ⅱ		2		
	日本国憲法		2		
	法学		2		
	経済学		2		
	経営学		2		
	社会学		2		
	自然科学Ⅰ		2		
	自然科学Ⅱ		2		
	統計学		2		
	プラクティカル･イングリッシュⅠ	2			
	プラクティカル･イングリッシュⅡ	2			
	プラクティカル･イングリッシュⅢ		2		
	プラクティカル･イングリッシュⅣ		2		
	フランス語Ⅰ		2		
	フランス語Ⅱ		2		
	中国語Ⅰ		2		
	中国語Ⅱ		2		
	韓国語Ⅰ		2		
	韓国語Ⅱ		2		
	健康と栄養	2			
	スポーツ科学		2		
	スポーツⅠ		1		
	スポーツⅡ		1		
	アウトドアスポーツⅠ		1		
	アウトドアスポーツⅡ		1		
	地域の課題		2		
	ボランティア活動		2		
	情報リテラシー	2			
	ＩＣＴ基礎	2			
	プレゼンテーション		2		
	フレッシュマンセミナーⅠ	1			
	フレッシュマンセミナーⅡ	1			
	基礎演習Ⅰ	2			
	基礎演習Ⅱ	2			
	日本語力Ⅰ	1			
	日本語力Ⅱ	1			
	数的処理Ⅰ	1			
	数的処理Ⅱ	1			
	キャリアデザインⅠ	1			
	キャリアデザインⅡ	1		３０単位以上	

（2）専門教育科目

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	卒業要件 単位数	備考
健康栄養学科	公衆衛生学	2			
	健康管理概論	2			
	社会福祉概論	2			
	看護・介護学概論		2		
	解剖生理学Ⅰ	2			
	解剖生理学Ⅱ	2			
	解剖生理学実験Ⅰ	1			
	解剖生理学実験Ⅱ	1			
	生化学Ⅰ	2			
	生化学Ⅱ	2			
	生化学実験	1			
	栄養生化学	2			
	栄養生化学実験	1			
	運動生理学		2		
	病気の成り立ちⅠ	2			
	病気の成り立ちⅡ	2			
	病気の成り立ちⅢ	2			
	食品学Ⅰ	2			
	食品学Ⅱ	2			
	食品学実験Ⅰ	1			
	食品学実験Ⅱ	1			
	加工食品学	2			
	食品衛生学	2			
	食品衛生学実験	1			
	調理学	2			
	調理学実験	1			
	調理学実習Ⅰ	1			
	調理学実習Ⅱ	1			
	栄養学Ⅰ	2			
	栄養学Ⅱ	2			
	基礎栄養学実験	1			
	ライフステージ栄養学Ⅰ	2			
	ライフステージ栄養学Ⅱ	2			
	ライフステージ栄養学Ⅲ	2			
	スポーツ栄養論		2		
	ライフステージ栄養学実習	1			
	栄養教育論Ⅰ	2			
	栄養教育論Ⅱ	2			
	栄養教育論Ⅲ	2			
	栄養教育実習Ⅰ	1			
	栄養教育実習Ⅱ	1			
	カウンセリング実習		1		
	病態栄養学Ⅰ	2			
	病態栄養学Ⅱ	2			
	臨床栄養管理論Ⅰ	2			
	臨床栄養管理論Ⅱ	2			
	臨床栄養管理実習Ⅰ	1			
	臨床栄養管理実習Ⅱ	1			
	栄養疫学	2			
	公衆栄養学	2			
	公衆栄養学実習	1			
	給食経営管理学		2		
	給食実務論	2			
	フードシステム論		2		
	給食経営管理実習Ⅰ	1			
	給食経営管理実習Ⅱ		1		
	総合演習Ⅰ		1		
	総合演習Ⅱ		1		
	臨地実習Ⅰ	1			
	臨地実習Ⅱ		2		
	臨地実習Ⅲ		1		
	卒業演習Ⅰ	2			
	卒業演習Ⅱ	2		８２単位以上	

区分 / 学科	授業科目	単位数		卒業要件単位数	備考
		必修	選択		
フードビジネス学科	フードビジネス学入門	2			
	簿記	2			
	食品学Ⅰ	2			
	フードスペシャリスト論	2			
	調理学	2			
	調理学実習		1		
	デザイン基礎	2			
	食品学Ⅱ	2			
	食社会学		2		
	商学		2		
	企業会計		2		
	デザイン応用		2		
	食品学実験		1		
	フードコーディネート論	2			
	フードサービス論Ⅰ	2			
	ホスピタリティ論		2		
	食文化論	2			
	マーケティング論		2		
	食品流通論	2			
	食品表示制度	2			
	栄養学	2			
	食品安全学	2			
	フードコーディネート実習		1		
	ヒューマンリソースマネジメント		2		
	国際商取引		2		
	広告論		2		
	加工食品学		2		
	フードサービス論Ⅱ		2		
	統計処理		2		
	商品開発Ⅰ		2		
	食とデザインⅠ		2		
	カフェ・レストランプロデュースⅠ(実習)		1		
	食品貿易論		2		
	リスクマネジメント		2		
	リテールマーケティング		2		
	アグリビジネス		2		
	製菓実習		1		
	商品開発Ⅱ		2		
	食とデザインⅡ		2		
	カフェ・レストランプロデュースⅡ		2		
	消費行動論	2			
	会社法		2		
	食品官能評価		2		
	フードビジネス･イングリッシュⅠ		2		
	チェーンストアシステム		2		
	食品衛生学		2		
	フードプランニング	2			
	応用フードコーディネート実習		1		
	食品産業論		2		
	応用フードコーディネート論		2		
	ビジネスコラボレーション		2		
	フードビジネス･イングリッシュⅡ		2		
	フードビジネス･イングリッシュⅢ		2		
	専門演習Ⅰ	2			
	専門演習Ⅱ	2			
	卒業演習Ⅰ	2			
	卒業演習Ⅱ	2			
	卒業研究	2			
	国際会計		2		
	インターンシップⅠ		2		
	インターンシップⅡ		2		
	フードビジネス特別講義Ⅰ		2		
	フードビジネス特別講義Ⅱ		2		
	フードビジネス特別演習Ⅰ		2		
	フードビジネス特別演習Ⅱ		2	８２単位以上	

別表第二
情報メディア学部
（１）基礎教育科目

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	卒業要件単位数	備考
情報メディア学科	哲学		2		卒業要件
	芸術		2		基礎教育科目36単位
	心理学		2		専門教育科目36単位
	人間関係論		2		基礎教育科目、専門教育科
	現代日本史		2		目のいずれかから52単位
	海外事情		2		以上
	海外研修Ⅰ		2		合計 124単位以上
	海外研修Ⅱ		2		
	日本国憲法		2		
	法学		2		
	経済学		2		
	経営学		2		
	社会学		2		
	自然科学Ⅰ		2		
	自然科学Ⅱ		2		
	統計学		2		
	プラクティカル･イングリッシュⅠ	2			
	プラクティカル･イングリッシュⅡ	2			
	プラクティカル･イングリッシュⅢ		2		
	プラクティカル･イングリッシュⅣ		2		
	フランス語Ⅰ		2		
	フランス語Ⅱ		2		
	中国語Ⅰ		2		
	中国語Ⅱ		2		
	韓国語Ⅰ		2		
	韓国語Ⅱ		2		
	健康と栄養	2			
	スポーツ科学		2		
	スポーツⅠ		1		
	スポーツⅡ		1		
	アウトドアスポーツⅠ		1		
	アウトドアスポーツⅡ		1		
	地域の課題		2		
	ボランティア活動		2		
	情報リテラシー	2			
	ＩＣＴ基礎	2			
	フレッシュマンセミナーⅠ	1			
	フレッシュマンセミナーⅡ	1			
	基礎演習Ⅰ	2			
	基礎演習Ⅱ	2			
	日本語力Ⅰ	1			
	日本語力Ⅱ	1			
	数的処理Ⅰ	1			
	数的処理Ⅱ	1			
	キャリアデザインⅠ	1			
	キャリアデザインⅡ	1		３６単位	

（２）専門教育科目

（専門基礎科目）

区分／学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	卒業要件単位数	備考
情報メディア学科	プログラミング入門	2			
	情報学概論	2			
	情報メディア論	2			
	プログラム演習Ⅰ	2			
	ＩＴマネジメント	2			
	情報処理演習		2		
	情報と社会		2		
	情報管理		2		
	ＩＴストラテジ	2			
	ソフトウェア基礎		2		
	情報と職業		2		
	データサイエンス		2		
	情報倫理		2		
	情報と教育		2		
	人工知能		2		
	アート＆デザイン演習		2		
	基本情報技術		2		
	情報メディア特別演習Ⅰ		2		
	情報メディア特別演習Ⅱ		2		
	インターンシップ		2		
	専門演習Ⅰ	2			
	専門演習Ⅱ	2			
	卒業演習Ⅰ	2			
	卒業演習Ⅱ	2			
	ＩＴパスポート		2		

（専門科目）

区分／学科	授業科目		単位数 必修	単位数 選択	卒業要件単位数	備考
情報メディア学科	情報システムコース	情報システム入門	2			所属するコース以外の必修及び選択科目を修得した場合は選択科目の単位として取り扱う。
		情報基礎理論	2			
		プログラム演習Ⅱ	2			
		アルゴリズムとデータ構造	2			
		Ｗｅｂプログラミング		2		
		メディア情報技術	2			
		コンピュータネットワークⅠ	2			
		ゲームプログラミング		2		
		システム開発論	2			
		データベース	2			
		プログラム演習Ⅲ		2		
		サウンドプログラミング		2		
		コンピュータネットワークⅡ		2		
		プログラム演習Ⅳ		2		
		知識情報学		2		
		モバイル情報論		2		

（専門科目）つづき

区分／学科	授業科目		単位数 必修	単位数 選択	卒業要件単位数	備考
情報メディア学科	映像メディアコース	デジタルアート入門	2			所属するコース以外の必修及び選択科目を修得した場合は選択科目の単位として取り扱う。
		アニメーション	2			
		ＣＧ基礎	2			
		映像制作演習Ⅰ	2			
		映像史とアーカイブ	2			
		色彩学	2			
		映像制作演習Ⅱ	2			
		ＣＧ演習		2		
		写真技術		2		
		映像加工技術	2			
		ドキュメンタリー・シナリオ		2		
		ＣＭ制作		2		
		マルチメディア		2		
		メディアアート		2		
		ドキュメンタリー演習		2		
		放送・配信論		2		
	サウンド制作コース	デジタルサウンド入門	2			
		ＭＩＤＩ制作演習Ⅰ	2			
		音響実務	2			
		ＭＩＤＩ制作演習Ⅱ	2			
		音楽理論	2			
		音響学	2			
		聴能・音感演習	2			
		サウンドクリエーション	2			
		照明技術		2		
		音響制作演習		2		
		サウンドプログラミング		2		
		マルチメディア		2		
		サウンドプロダクション		2		
		レコーディング演習		2		
		舞台制作		2		
		放送・配信論		2		
	メディアデザインコース	メディアデザイン入門	2			
		グラフィックデザイン	2			
		メディアデザイン演習Ⅰ	2			
		色彩学	2			
		Ｗｅｂプログラミング	2			
		ＣＧ基礎		2		
		メディアデザイン演習Ⅱ	2			
		Ｗｅｂデザイン	2			
		ＣＡＤ		2		
		メディア文化論		2		
		マルチメディア	2			
		デジタルファブリケーション		2		
		Ｗｅｂ解析		2		
		ドキュメンタリー・シナリオ		2		
		暮しとデザイン		2		
		ドキュメンタリー演習		2	３６単位	

別表第三
教職課程に関する科目
（１）健康生活学部健康栄養学科（栄養教諭一種免許状）
①栄養に係る教育に関する科目

授業科目	単位数		要修得単位数	備考
	必修	選択		
学校食教育論	2		2	
学校栄養教育論	2		2	

②教育の基礎的理解に関する科目等

授業科目	単位数		要修得単位数	備考
	必修	選択		
教育原理	2		2	
教師論	2		2	
教育の制度と経営	2		2	
教育心理学	2		2	
特別支援教育	1		1	
教育課程論	1		1	
道徳教育	1		1	
特別活動・総合的な学習の時間	1		1	
教育の方法と技術(情報通信技術の活用含む)	2		2	
生徒指導論	2		2	
教育相談論	2		2	
栄養教育実習指導	1		1	
栄養教育実習	1		1	
教職実践演習(栄養教諭)	2		2	

（２）情報メディア学部情報メディア学科（高等学校教諭一種免許状(情報)）
①教科及び教科の指導法に関する科目

授業科目	単位数		要修得単位数	備考
	必修	選択		
情報と社会	2		2	
情報倫理	2		2	
情報学概論	2		2	
ソフトウェア基礎	2		2	
プログラミング入門	2		2	
情報処理演習	2		2	
情報管理	2		2	
データベース	2		2	
アルゴリズムとデータ構造	2		2	
知識情報学	2		2	
コンピュータネットワークⅠ	2		2	
コンピュータネットワークⅡ	2		2	
モバイル情報論	2		2	
マルチメディア	2		2	
デジタルアート入門	2		2	
Ｗｅｂデザイン	2		2	
情報と職業	2		2	
情報と教育	2		2	
情報科教育法Ⅰ	2		2	
情報科教育法Ⅱ	2		2	

②教育の基礎的理解に関する科目等

授業科目	単位数		要修得単位数	備考
	必修	選択		
教育原理	2		2	
教師論	2		2	
教育の制度と経営	2		2	
教育心理学	2		2	
特別支援教育	1		1	
教育課程論	2		2	
総合的な学習の時間の指導法	1		1	
特別活動論	2		2	
教育の方法と技術(情報通信技術の活用含む)	2		2	
生徒進路指導論	2		2	
教育相談論	2		2	
教育実習指導	1		1	
教育実習	2		2	
教職実践演習(高校)	2		2	

学則変更事項について

１，学則変更（入学定員及び収容定員変更）の内容
令和６年度名古屋文理大学学則第５条の「収容定員」の記載を次の通り変更する。

・情報メディア学部情報メディア学科の入学定員及び収容定員の変更
入学定員を 100 名から 120 名とし、また新たに「編入学定員３年次２名」を設け、４年間の収容定員を 400 名から 484 名とする。

２，学則変更に伴う入学定員及び収容定員変更

・情報メディア学部情報メディア学科

	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和8年度	令和9年度
入学定員	１００	１２０	１２０	１２０	１２０
3 年次編入学定員	0	2	2	2	2
収容定員	４００	４２２	４４４	４６４	４８４

以　上

名古屋文理大学学則一部改正(案)新旧対照表

新

第１章　総　則

（名　称）

第１条　本学は，名古屋文理大学と称する。

第２条 ～ 第４条　（省略）

第５条　前条の学部学科の収容定員は，次の通りとする。

学部	学科	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員
健康生活学部	健康栄養学科	８０	2	３２４
	ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	７０	—	２８０
情報ﾒﾃﾞｨｱ学部	情報ﾒﾃﾞｨｱ学科	１２０	2	４８４
合　計		２７０	4	１０８８

附　則　（省略）

附　則

１．本学則は，令和６年４月１日から施行する。

２．第５条の規定にかかわらず令和６年４月１日から令和８年３月３１日までの間においては，入学定員，収容定員は次の通りとする。

学　部	学　科	令和６年度		令和７年度		令和８年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
健康生活学部	健康栄養学科	(2)８０	３２４	(2)８０	３２４	(2)８０	３２４
	ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	７０	２８０	７０	２８０	７０	２８０
情報ﾒﾃﾞｨｱ学部	情報ﾒﾃﾞｨｱ学科	(2)１２０	４２２	(2)１２０	４４４	(2)１２０	４６４
合　計		(4)２７０	１０２６	(4)２７０	１０４８	(4)２７０	１０６８

備考

１．入学定員欄の( )内の数字は、第３年次編入学定員で外数である。

旧

第１章　総　則

（名　称）

第１条　本学は，名古屋文理大学と称する。

第２条 ～ 第４条　（省略）

第５条　前条の学部学科の収容定員は，次の通りとする。

学部	学科	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員
健康生活学部	健康栄養学科	８０	2	３２４
	ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	７０	—	２８０
情報ﾒﾃﾞｨｱ学部	情報ﾒﾃﾞｨｱ学科	１００	—	４００
合　計		２５０	2	１００４

附　則　（省略）

学則の変更の趣旨等を記載した書類

目　次

１，学則変更（入学定員及び収容定員変更）の内容・・・・・・・・・・・・　２
２，学則変更（入学定員及び収容定員変更）の必要性　・・・・・・・・・・　２
３．学則変更（入学定員及び収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容
（１）情報メディア学科の教育課程の変更内容について　・・・・・・・・　４
（２）情報メディア学科の教育方法及び履修指導方法の変更内容について・　４
（３）教員組織の変更内容について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
（４）大学全体の施設・設備の変更内容について・・・・・・・・・・・・・　５

学則の変更の趣旨等を記載した書類

１，学則変更（入学定員及び収容定員変更）の内容

令和６年度名古屋文理大学学則第５条の「収容定員」の記載を次の通り変更する。

・情報メディア学部情報メディア学科の入学定員及び収容定員の変更
入学定員を 100 名から 120 名とし、また新たに「編入学定員３年次２名」を設け、４年間の収容定員を 400 名から 484 名とする。

２，学則変更（入学定員及び収容定員変更）の必要性

（１）入学定員及び収容定員変更

○情報メディア学部情報メディア学科

	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
入学定員	１００	１２０	１２０	１２０	１２０
3 年次編入学定員	０	２	２	２	２
収容定員	４００	４２２	４４４	４６４	４８４

（２）情報メディア学科の入学定員及び編入学定員設定の必要性

本学では、令和 4 年度に発表した「文理中長期戦略プラン BSP-15 第 3 期計画」において、「ICT・AI 技術の発展による教育のデジタル化に対応した教育手法の開発・推進及び DX に対応した教育内容の変容」、「持続可能な大学経営を実現するための教育組織の改編」、「学生募集における新たなマーケットへのチャレンジ」および「本学の主領域である食・栄養・情報を融合した教育」、「大学院開設を目指した研究力の向上」を挙げ、教育の情報化・DX の推進と学科の垣根を越えた新しい教育の創造、そして多様な学生の受け入れを推進することが謳っている。

「ICT・AI 技術の発展による教育のデジタル化に対応した教育手法の開発・推進及び DX に対応した教育内容の変容」では、情報メディア学科が本学の中でも重要な役割を担い、学科として対応できる情報技術の深化や教育のデジタル化、IT・AI 人材の育成などが求められている。このためには、情報メディア学科において、さらなる教育コンテンツの充実が必要であり、今ある学科の資産を最大限活かすとともに、新たな資源の充実とともに、それを予算的にも支えられる学生の在籍が必要である。

また、中期計画の中でも、学園全体の方向性として、「リモート教育の拡大」が謳われており、オンラインでの教育が十分な学修成果とともにより効果的に実施できるように体制を整えたいと考えている。この体制が整うことにより、受け入れられる学生の数も増加するものと考えられる。

「持続可能な大学経営を実現するための教育組織の改編」においては、短期大学部での定

員を、近年の志願者の傾向から若干整理することによって充足率を上げるとともに、AI・データサイエンス分野の需要が現状のみならず、将来に向けても見込めることから、この分野を充実させることによって、経営の安定化を図りたいと考えている。将来的には、さらに新たな部門の新設も視野に入れており、今回の定員変更はその第一ステップである。

「学生募集における新たなマーケットへのチャレンジ」においては、中期計画において、外国人、社会人を含む多様な入学者を受け入れることとしている。情報メディア学科では、令和 4 年度よりスタートしたコース制度において「情報システムコース」、「映像メディアコース」、「サウンド制作コース」、「メディアデザインコース」の 4 つのコースを設定している。学生は、これらのコースを選択してその内容に習熟するとともに、他のコースの学修内容についても選択科目として学び、また、学生プロジェクト活動を通して、コースを越えた協働による学修を行っている。情報メディア学科のカリキュラムにおいては、極端に特定の分野に特化して学ぶのではなく、スペシャリストでありながら、広く他分野に通じる複合スキルを身につけた人材の育成を行っている。

こうした学修内容は、結果として多様な分野に関心を持つ学生が集まり、そうした多様な受験生が情報メディア学科を志願することにつながっている。これらの学生の需要に応えるため、カリキュラムにも多彩な専門分野の学修が盛り込まれている。このカリキュラムに沿った学修を実現するのに最適な環境のため、適正な学生数を設定したいと考えている。

「本学の主領域である食・栄養・情報を融合した教育」、「大学院開設を目指した研究力の向上」では、本学各学科の専門性を活かし、それらを融合した分野の大学院開設を目指している。その中でも、AI やデータサイエンスは重要な柱となるため、情報メディア学科における基盤もより充実させておきたいところである。

一方、入試における志願者の状況を顧みると、入試改革による一時的な志願者増は一段落ついたものの、情報メディア学科は依然として相当数の志願者を確保しており、現定員の入学者数とするため、一部の入試区分では必要以上に厳しい選抜を余儀なくされている状況である。特に総合型選抜などの専願の入試区分においても、一部厳しい選抜を避けられない。本学への入学を強く希望する志願者に対して、十分学力のある場合は積極的に受け入れていきたいと考えている。一般選抜においても、連携校や中堅の進学校から多く受験しているが、現入学定員を守るために、一部の区分では大変厳しい選抜を行っている。一般選抜においても、学力が十分ある場合は、できるだけ積極的に受け入れるようにするとともに、こうした進学校からの志願者を確保することは、少子化の進んだ将来における経営基盤を安定させることにつながると考える。

また、編入学は定員を充足していない場合に受け入れることを従来行っていたが、近年定員を超えた入学者となっており、編入学の受け入れを何年も行っていない。しかし、一部の情報系専門学校の学生などから問い合わせや編入学の希望があり、本学としても編入学を制度化することとしたい。中には、本学への入学がかなわず、専門学校などへ進学したものの、そこでの学びを通じてやはり本学へ入学したいと考える学生の存在が推測され、実際、

一部の学生からそのような経緯があることを確認している。本学情報メディア学科の学びは、前述のように、多様な専門分野に触れられるという特徴があり、一般的な情報の技能を身につけたあと本学での専門的な学びを希望する学生を幅広く受け入れたい。

さらに、同様の理由により、社会人となってから学び直したいという需要にも、こうした制度を通じて応えたいと考えている。社会人の学修については、前述のリモート教育を充実させることで、学習時間の自由度を高め、働きながら学ぶことが少しでも容易となるように学習環境を整備したいと考えている。

以上により、入学定員増および編入学定員設定によって、情報メディア学科の学修基盤を充実し、より多くの多様な学生の需要に応えていくことができるようになると考える。

３．学則変更（入学定員及び収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（１）情報メディア学科の教育課程の変更内容について

情報メディア学科の教育課程は、「基礎教育科目」、「専門教育科目」によって編成しているが、今回の収容定員の変更では、教育課程の変更を意図するものではないことから、現行の教育課程を適用する。**【資料１】**なお、「基礎教育科目」については、各学科共通科目も設定されているが、基本的には本学各学科独自の教育課程及び授業時間割を編成しており、入学定員及び編入学定員が変更されても他学科教育課程には影響はない。

また、講義科目については、定員を収容するに十分な教室を持ち特段問題はないが、情報系の実習室においては、他学部の使用頻度の低い情報実習室も活用することにより、変更前と比しても学生指導に関して問題はなく、教育の質は十分確保されるものとなる。

（２）情報メディア学科の教育方法及び履修指導方法の変更内容について

情報メディア学科の卒業要件及び履修方法は、必修科目を含めて、「基礎教育科目」から 36 単位以上、「専門教育科目」から 36 単位以上、両者の選択科目から 52 単位以上、合計 124 単位以上を修得することとしている。

入学定員が増加することによる教室の収容人数には余裕を持ち、特段問題はない。情報系の実習室においては、他学部の使用頻度の低い情報実習室も活用することにより、変更前と比しても学生指導に関して問題はない。また、教育方法及び履修指導方法に特段変更はない。

編入学受入れに伴う既修得単位の認定については、過去の編入学実績モデルを例にとると、編入学前の教育機関での履修体系を尊重し、本学での教育目標の達成にふさわしい履修が可能になるよう、そして、編入学後 2 年間で無理なく卒業できるよう、基礎教育科目及び専門教育科目から合計 62 単位を卒業要件算入として単位を認定した。過去のモデルケースを資料に添付した。**【資料２】**なお、過去の実績において、編入学後 2 年を超えて在学した編入学生はいない。

履修指導については、学生が卒業後の目標に向かって、体系的・計画的な履修計画を立

てることができるように入学時や編入学オリエンテーション時及び各年度において、履修ガイダンスをきめ細かく実施するとともに、フレッシュマンセミナーやゼミによる個別指導を活用するなど手厚い履修指導を行っている。併せて、低学年から順次制のある学修を促すべく、履修の手引き及び履修ガイダンスにおいて履修モデル（過去の編入学生の実績例）**【資料３】**を提示するとともにシラバスやオフィスアワーの充実を図り、きめ細やかな指導体制を整備している。

このことにより、編入学生のために教育方法及び履修指導方法を別途講ずることはないが、以上の取組みを継続して行うことにしており、収容定員増に伴う学生が増えても学修支援体制を維持・向上することができると考える。

（３）教員組織の変更内容について

令和５年度現在、情報メディア学科は教授 10 人、准教授 5 人、助教 3 人の計 18 人の教員組織を編成している。

現状において、収容定員が増加した場合でも大学設置基準に定める教員数を上回っており、きめ細やかな教育が十分可能であると考える。従って収容定員増に伴う教員組織の変更は行わないが、各教員の意識を高めるのはもちろんのこと、ステューデント・アシスタント（ＳＡ）を積極的に活用するなどして、変更前と同等以上の教育の質を確保するよう努めることとしている。

（４）大学全体の施設・設備の変更内容について

本学は愛知県稲沢市に設置しており、名鉄名古屋本線国府宮駅を最寄り駅として、同駅からバスで 5 分程度の場所にある。

本学には、健康生活学部、情報メディア学部の 2 学部があり、キャンパス内には、講義室・研究室棟に加えて、図書館棟、体育館棟、学生食堂等が設置されているＦＬＯＳ館がある。

研究室、講義室、演習室、実験室、実習室など各学部・学科の特色を生かした授業展開が出来るよう設置している。特に、情報メディア学科では、音楽レコーディングやサウンド編集、映像制作が行える「レコーディングスタジオ」や「撮影スタジオ」等の施設設備（及び関連する機器備品）を有しており、これらを有効活用し、教育環境として必要な施設・設備については十分に整備されている。

以上により、大学全体の施設・設備については、入学定員及び編入学定員が設定され収容定員が増えた場合でも、これまでと同等以上の教育研究を展開し、教育の質を十分に確保することができると考える。

学則の変更の趣旨等を記載した書類

資料目次

【資料１】教育課程等の概要（情報メディア学部情報メディア学科）・・・・　７
【資料２】単位認定編入実績モデル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０
【資料３】過去の履修モデル（過去の編入学生の実績例）・・・・・・・・・・　１１

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報メディア学部情報メディア学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教育科目	哲学	1･2･3･4前		2		○								兼1
	芸術	1･2･3･4後		2		○						1		兼2
	心理学	1･2･3･4前		2		○								兼1
	人間関係論	1･2･3･4後		2		○								兼1
	現代日本史	1･2･3･4後		2		○								兼1
	海外事情	1･2･3･4後		2		○								兼1
	海外研修Ⅰ	1･2･3･4通		2		○				1				
	海外研修Ⅱ	1･2･3･4通		2		○				1				
	日本国憲法	1･2･3･4前		2		○								兼1
	法学	1･2･3･4前		2		○								兼1
	経済学	1･2･3･4後		2		○								兼1
	経営学	1･2･3･4前		2		○								兼1
	社会学	1･2･3･4後		2		○								兼1
	自然科学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○			1					
	自然科学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○			1					
	統計学	1･2･3･4前		2		○			1					
	プラクティカル･イングリッシュⅠ	1前	2			○								兼2
	プラクティカル･イングリッシュⅡ	1後	2			○								兼2
	プラクティカル･イングリッシュⅢ	2前		2		○								兼1
	プラクティカル･イングリッシュⅣ	2後		2		○								兼1
	フランス語Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1
	フランス語Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1
	中国語Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1
	中国語Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1
	韓国語Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1
	韓国語Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1
	健康と栄養	1前	2			○								兼1
	スポーツ科学	1･2･3･4後		2		○			1					
	スポーツⅠ	1･2･3･4前		1				○	1					
	スポーツⅡ	1･2･3･4後		1				○	1					
	アウトドアスポーツⅠ	1･2･3･4前		1				○	1					兼1 共同
	アウトドアスポーツⅡ	1･2･3･4後		1				○	1					兼1 共同
	地域の課題	1･2･3･4後		2		○			1					兼1
	ボランティア活動	1･2･3･4通		2			○		1					
	情報リテラシー	1前	2			○						1		
	ＩＣＴ基礎	1後	2			○			1					
	フレッシュマンセミナーⅠ	1前	1				○		5	4		2		
	フレッシュマンセミナーⅡ	1後	1				○		5	4		2		
	基礎演習Ⅰ	2前	2				○		6	3		2		
	基礎演習Ⅱ	2後	2				○		6	3		2		
	日本語力Ⅰ	2前	1			○								兼2 共同
	日本語力Ⅱ	2前	1			○								兼2 共同
	数的処理Ⅰ	1後	1			○								兼2 共同
	数的処理Ⅱ	1後	1			○								兼2 共同
	キャリアデザインⅠ	2後	1			○			4	1				兼3 オムニバス
	キャリアデザインⅡ	3前	1			○			3					兼2 オムニバス
	小計（46科目）	－	22	58	0	－			10	5	0	3	0	兼19

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報メディア学部情報メディア学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	コース共通	プログラミング入門	1前	2			○								兼1
		情報学概論	1前	2			○			1					
		情報メディア論	1前	2			○			1					
		プログラム演習Ⅰ	1後	2				○		1					兼1
		ＩＴマネジメント	1後	2			○								兼1
		情報処理演習	1後		2			○		1					
		情報と社会	1後		2		○				1				
		情報管理	1後		2		○				1				
		ＩＴストラテジ	2前	2			○								兼1
		ソフトウェア基礎	2前		2		○			1					
		情報と職業	2前		2		○				1				
		データサイエンス	2後		2		○			1					
		情報倫理	2後		2		○				1				
		情報と教育	2後		2		○			1					
		人工知能	3前		2		○			1					
		アート＆デザイン演習	4前		2			○					1		
		基本情報技術	1･2･3･4通		2		○								兼1　集中
		情報メディア特別演習Ⅰ	1･2･3･4通		2			○		1			1		兼3
		情報メディア特別演習Ⅱ	1･2･3･4通		2			○		1			1		兼3
		インターンシップ	1･2･3･4通		2			○			1				
		専門演習Ⅰ	3前	2				○		7	4		1		
		専門演習Ⅱ	3後	2				○		7	4		1		
		卒業演習Ⅰ	4前	2				○		8	4		1		
		卒業演習Ⅱ	4後	2				○		8	4		1		
		ＩＴパスポート	1･2･3･4通		2		○				1				兼1　集中
	情報システムコース	情報システム入門	1前	2			○			1					
		情報基礎理論	1後	2			○						1		
		プログラム演習Ⅱ	2前	2				○							兼1
		アルゴリズムとデータ構造	2前	2			○			1					
		Ｗｅｂプログラミング	2前		2		○			1					
		メディア情報技術	2後	2			○			1					
		コンピュータネットワークⅠ	2後	2			○								兼1
		ゲームプログラミング	2後		2		○				1				
		システム開発論	3前	2			○								兼1
		データベース	3前	2			○				1				
		プログラム演習Ⅲ	3前		2			○							兼1
		サウンドプログラミング	3前		2		○								兼1
		コンピュータネットワークⅡ	3前		2		○			1					
		プログラム演習Ⅳ	3後		2			○							兼1
		知識情報学	3後		2		○			1					
		モバイル情報論	3後		2		○			1					
	映像メディアコース	デジタルアート入門	1前	2			○			1			1		
		アニメーション	1後	2			○								兼1
		ＣＧ基礎	2前	2			○			1					
		映像制作演習Ⅰ	2前	2				○					1		兼1
		映像史とアーカイブ	2前	2			○				1				
		色彩学	2前	2			○								兼1
		映像制作演習Ⅱ	2後	2				○			1		1		
		ＣＧ演習	2後		2			○		1					
		写真技術	2後		2		○			1					
		映像加工技術	3前	2			○								兼1
		ドキュメンタリー・シナリオ	3前		2		○				1				
		ＣＭ制作	3前		2		○			1					
		マルチメディア	3前		2		○						1		兼1
		メディアアート	3後		2		○				1				
		ドキュメンタリー演習	3後		2			○			1				
		放送・配信論	3後		2		○								兼1

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報メディア学部情報メディア学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専門教育科目	サウンド制作コース	デジタルサウンド入門	1前	2			○			1					
		ＭＩＤＩ制作演習Ⅰ	1後	2				○			1				
		音響実務	2前	2			○								兼1
		ＭＩＤＩ制作演習Ⅱ	2前	2				○			1				
		音楽理論	2前	2			○								兼1
		音響学	2後	2			○			1					
		聴能・音感演習	2後	2				○							兼1
		サウンドクリエーション	2後	2			○				1				
		照明技術	2後		2		○						1		兼1 オムニバス
		音響制作演習	3前		2			○							兼1
		サウンドプログラミング	3前		2		○								兼1 集中
		マルチメディア	3前		2		○						1		兼1
		サウンドプロダクション	3後		2		○								兼1
		レコーディング演習	3後		2			○							兼1
		舞台制作	3後		2		○								兼1
		放送・配信論	3後		2		○								兼1
	メディアデザインコース	メディアデザイン入門	1前	2			○				1				
		グラフィックデザイン	1後	2			○								兼1
		メディアデザイン演習Ⅰ	2前	2				○					1		
		色彩学	2前	2			○								兼1
		Ｗｅｂプログラミング	2前	2			○			1					
		ＣＧ基礎	2前		2		○			1					
		メディアデザイン演習Ⅱ	2後	2				○							兼1
		Ｗｅｂデザイン	2後	2			○						1		
		ＣＡＤ	2前		2		○			1					
		メディア文化論	2後		2		○								兼1
		マルチメディア	3前	2			○						1		兼1
		デジタルファブリケーション	3前		2		○						1		
		Ｗｅｂ解析	3前		2		○			1					
		ドキュメンタリー・シナリオ	3前		2		○				1				
		暮しとデザイン	3後		2		○						1		兼1
		ドキュメンタリー演習	3後		2			○			1				
		小計（89科目）	－	84	94	0	－			9	4	0	3	0	兼19
合計（135科目）			－	106	152	0	－			10	5	0	3	0	兼36

学位又は称号	学士（情報メディア学）	学位又は学科の分野	経済学・文学

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基礎教育科目：必修科目を含め36単位以上 専門教育科目：必修科目を含め36単位以上 基礎教育科目及び専門教育科目から52単位以上 を修得し、124単位以上修得すること ○履修科目の登録の上限は半期24単位	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

5　「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

6　課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。

（1）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。

（2）「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。

（3）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

情報メディア学科編入学実績モデル

履修科目の区分				卒業要件			認定科目		今後取得する単位		
科目区分		選択/必修	上限／超過	(単位)	小計	合計	科目対応認定/ 包括認定	単位	(単位)	小計	合計
基礎教育科目		必修		22	36単位	124単位以上	科目対応認定	19	3	3単位	62単位以上
		選択		14			包括認定	14			
専門教育科目	コース共通	必修		20	36単位		科目対応認定	4	16	32単位	
	コース科目	必修		16					16		
卒業に必要な その他の科目	基礎教育科目	選択	14単位を超える分 10単位まで	52	52単位以上		包括認定	3	27	27単位以上	
	専門教育科目 コース共通 自・他コース	選択					包括認定	22			
	他学科履修科目	選択	12単位まで								
合計単位数				１２４単位以上			６２単位		６２単位以上		

【資料3】

基礎教育科目　(開講年次配当科目)

科目名	単位数		科目対応認定
	必修	選択	
プラクティカル・イングリッシュⅠ	2		認定
プラクティカル・イングリッシュⅡ	2		認定
プラクティカル・イングリッシュⅢ		2	
プラクティカル・イングリッシュⅣ		2	
健康と栄養	2		
情報リテラシー	2		認定
ＩＣＴ基礎	2		認定
フレッシュマンセミナーⅠ	1		認定
フレッシュマンセミナーⅡ	1		認定
基礎演習Ⅰ	2		認定
基礎演習Ⅱ	2		認定
日本語力Ⅰ	1		認定
日本語力Ⅱ	1		認定
数的処理Ⅰ	1		認定
数的処理Ⅱ	1		認定
キャリアデザインⅠ	1		認定
キャリアデザインⅡ	1		

基礎教育科目　(開講年次配当科目)

科目名	単位数		科目対応認定
	必修	選択	
哲学		2	
芸術		2	
心理学		2	
人間関係論		2	
現代日本史		2	
海外事情		2	
海外研修Ⅰ＊		2	
海外研修Ⅱ＊		2	
日本国憲法		2	
法学		2	
経済学		2	
経営学		2	
社会学		2	
自然科学Ⅰ		2	
自然科学Ⅱ		2	
統計学		2	
フランス語Ⅰ		2	
フランス語Ⅱ		2	
中国語Ⅰ		2	
中国語Ⅱ		2	
韓国語Ⅰ		2	
韓国語Ⅱ		2	
スポーツ科学		2	
スポーツⅠ		1	
スポーツⅡ		1	
アウトドアスポーツⅠ（集中）		1	
アウトドアスポーツⅡ（集中）		1	
地域の課題		2	
ボランティア活動＊		2	

専門教育科目 （コース共通）

科目名	単位数		科目対応認定
	必修	選択	
プログラミング入門	2		認定
情報学概論	2		認定
情報メディア論	2		
プログラム演習Ⅰ	2		
ＩＴマネジメント	2		
情報処理演習		2	
情報と社会		2	
情報管理		2	
ＩＴストラテジ	2		
ソフトウェア基礎		2	
情報と職業		2	
データサイエンス		2	
情報倫理		2	
情報と教育		2	
人工知能		2	
ヒューマンインフォメーション		2	
アート&デザイン演習		2	
専門演習Ⅰ	2		
専門演習Ⅱ	2		
卒業演習Ⅰ	2		
卒業演習Ⅱ	2		
ＩＴパスポート		2	
基本情報技術		2	
情報メディア特別演習Ⅰ＊		2	
情報メディア特別演習Ⅱ＊		2	
インターンシップ＊		2	

専門教育科目 （情報システムコース）

科目名	単位数		科目対応認定
	必修	選択	
情報システム入門	2		
情報基礎理論	2		
プログラム演習Ⅱ	2		
アルゴリズムとデータ構造	2		
Ｗｅｂプログラミング		2	
メディア情報技術	2		
コンピュータネットワークⅠ	2		
ゲームプログラミング		2	
システム開発論	2		
データベース	2		
プログラム演習Ⅲ		2	
サウンドプログラミング		2	
コンピュータネットワークⅡ		2	
プログラム演習Ⅳ		2	
知識情報学		2	
モバイル情報論		2	

専門教育科目　（映像メディアコース）

科目名	単位数		科目対応認定
	必修	選択	
デジタルアート入門	2		
アニメーション	2		
ＣＧ基礎	2		
映像制作演習Ⅰ	2		
映像史とアーカイブ	2		
色彩学	2		
映像制作演習Ⅱ	2		
ＣＧ演習		2	
写真技術		2	
映像加工技術	2		
ドキュメンタリー・シナリオ		2	
ＣＭ制作		2	
マルチメディア		2	
メディアアート		2	
ドキュメンタリー演習		2	
放送・配信論		2	

専門教育科目　（サウンド制作コース）

科目名	単位数		科目対応認定
	必修	選択	
デジタルサウンド入門	2		
ＭＩＤＩ制作演習Ⅰ	2		
音響実務	2		
ＭＩＤＩ制作演習Ⅱ	2		
音楽理論	2		
音響学	2		
聴能・音感演習	2		
サウンドクリエーション	2		
照明技術		2	
音響制作演習		2	
サウンドプログラミング		2	
マルチメディア		2	
サウンドプロダクション		2	
レコーディング演習		2	
舞台制作		2	
放送・配信論		2	

専門教育科目　（メディアデザインコース）

科目名	単位数		科目対応認定
	必修	選択	
メディアデザイン入門	2		
グラフィックデザイン	2		
メディアデザイン演習I	2		
色彩学	2		
Ｗｅｂプログラミング	2		
ＣＧ基礎		2	
メディアデザイン演習II	2		
Ｗｅｂデザイン	2		
ＣＡＤ		2	
メディア文化論		2	
マルチメディア	2		
デジタルファブリケーション		2	
Ｗｅｂ解析		2	
ドキュメンタリー・シナリオ		2	
暮しとデザイン		2	
ドキュメンタリー演習		2	

学生の確保の見通し等を記載した書類

目　次

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取り組み状況
ア　定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析・・・・・・　２
イ　地域・社会的動向等の現状把握・分析・・・・・・・・・・・・・・・　２
ウ　新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等・・・・・・・・・・・　４
エ　学生確保の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６
Ａ．学生確保の見通しの調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６
Ｂ．新設学部等の分野の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０
Ｃ．中期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向 ・・・・・・・・・・・　１０
Ｄ．競合校の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０
Ｅ．既存学部の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１
オ　学生確保に向けた具体的な取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・　１１

（２）人材需要の動向等社会の要請
①人材育成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）・・・・・・・　１３
②社会的、地域的な人材需要の
動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠・・・・・　１４

学生の確保の見通し等を記載した書類

（１） 学生の確保の見通し及び申請者としての取り組み状況

本学は昭和１６年に設立された農林省財団食糧科学研究所を前身として役員であった滝川一益氏が、昭和３１年に研究機関所在地に名古屋栄養専門学院という栄養士養成施設を開学。この専門学校から短期大学、大学の併設へと繋げ、６７年の歴史と伝統を有している。

本学は立学の精神として「自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である」を掲げ、健康生活学部と情報メディア学部の２学部の体制下で、２１世紀に貢献する科学文化を基礎、応用の両面から修得し、教養と見識を深めた人材を輩出してきた。現在、本学の在学生９９１名、学園全体の卒業生は１５，０００名を超えている。

本学の２０２３年度の入学試験結果では全学部の入学定員２５０名に対し志願者が６５６名、志願倍率が２．６２倍であった。過去５年間の２学部の志願者・合格者・入学者の推移（名古屋文理大学２学部の志願者・合格者・入学者数の推移）【資料１】によって明らかなように、若干コロナ禍の影響を受けた側面を考慮しても１８歳人口が減少している中で、安定した受験生および入学者を確保し得てきている。

ア　定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

情報メディア学部情報メディア学科（以下、情報メディア学科）の直近 5 年間（平成 31（2019）年度～令和 5（2023）年度）の志願倍 率は 3.91 倍～7.78 倍（平均：5.30 倍)、入学定員超過率は 1.08 倍～1.24 倍（平均：1.17 倍） であり、この 5 年間に実施した入学定員（100 名）を安定的に確保しており、実際には平均 119 名の入学者数で推移している。【資料１】

このことから、入学定員 100 名から 20 名の入学定員増とした 120 名の入学定員としても十分確保は可能と考える。

さらには、現在定員充足をしているが、これからの情報分野の社会ニーズの背景を考え、他分野学部ならびに社会人からの受入れ体制を考え 3 年次編入学（2 名）の定員枠の増員を計画する。

イ　地域・社会的動向の現状把握・分析

現代社会の高度情報化を背景に、今後更なる発展が見込まれる IT 技術を最大限活用することを通じて、我々の生活や社会の在り方の転換、新たな価値創造に向けた取り組みが国家戦略として加速度的に進められている。人々に豊かさをもたらす「超スマート社会」を未来社会の姿として、 Society5.0 の実現にあたっては、サイバー空間（仮想

空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムが必要とされ、そのために不可欠なIoT（Internet of Things）やビッグデータ、人工知能（AI）に精通した技術者に対する需要は、今後ますます増大することは間違いない。このことは「日本再興戦略 2016」において、IoT・ビッグデータ・人 工知能等の進展に対応した未来社会を創造する人材の育成・確保に向け、高等教育において高度なレベルのデータサイエンティストなどを育成する学部・大学院の整備を促進していくことが明示されている。

しかしながら、現在、IT 人材の不足は深刻であり、独立行政法人情報処理推進機構（以下、「IPA」という。）が令和 2（2020）年 8 月に公表した「IT 人材白書 2020」では、「IT 人材の “量”に対する過不足感」の調査結果について、IT 企業の 26.2%が「大幅に不足している」、66.8% が「やや不足している」と回答している。

また、総務省の令和4年（2022）「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」では、各国の企業でデジタル人材が不足する理由については、日本企業は両デジタル人材に共通して「デジタル人材を採用する体制が整っていない」と「デジタル人材を育成する体制が整っていない」が約40%と多く、また、各国の企業のデジタル人材の確保に向けた取組について質的側面（必要なスキルの確保）から調査したところ、米国企業は「採用（新規・中途両方を含む）」が最も多い一方、日本企業は「社内の既存人材の配置転換や育成」が最も多い調査結果を報告している。

このことは、社会人の学び直しのニーズが高まる可能性を示唆しており、近年は AI 人材の即戦力育成プログラムを展開する大学も出始めている。さらに、令和 2（2020）年度から始まった小学校におけるプログラミング教育の必修化に代表される初等教育における情報教育の高度化により、大学の情報系学部・学科を志望する受験生の情報スキルの高度化並びに多様化が予測され、そのような受験生にとって魅力ある教育内容にシフトしていかなければならない。

また、仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムを用いるSociety5.0の実現にあたっては、分野を超えて様々な人々と協働して経済発展と社会的課題の解決を図っていく力を涵養することが必要であり、IT 技術に関する知識だけでなく、幅広い素養を身につけた技術者の養成が求められている。

情報メディア学科は、平成 17（2005）年度の設置以降、最先端の情報通信技術・情報処理技術を中心に、次代の「ものづくり」を支える情報メディア学の教育・研究を推進するとともに、学び得たテクノロジーを用いて産業界に貢献できるスペシャリストの育成・輩出に努めており、他学科（健康栄養学科、フードビジネス学科）との連携を深めながら情報教育の先駆的・先導的な役割を果たしてきた。今後、高度情報社会の急速な進展等を背景に、学生たちが送り出される社会は先行き不透明であり、求められる人材像も大きく変わっていくことが想定される。「超スマート社会」という未来像において、様々な領域・産業分野が IT 技術により枠を超えて繋がり、イノベーションを起

こしていくためには、日進月歩の情報通信技術・情報処理技術等に関する専門知識の修得だけでなく、他の専門分野や背景の異なる多様な人々と連携・協働していくための素養を身につけることが必要である。また、急速な社会変化や技術の進化に敏感に反応しつつ、課題解決や新たな価値創造に取り組んでいくために、知識の新たな修得や情報技術の応用を試行するといった学びの継続性がより重要となってくる。

多様な学問領域を教育・研究の対象とする本学において、情報メディア学科が培ってきた教育・研究力を礎に、これまで以上に全学的な学部間相互の連携を深め、社会が求める IT 技術の作り手や使い手、繋ぎ手を養成していくことが必要である。これらのことは、本学の「文理中長期戦略プラン BSP-15 第 3 期計画」における「本学の主領域である食・栄養・情報を融合した教育」及び「ICT・AI 技術の発展による教育のデジタル化に対応した教育手法の開発・推進」といった同戦略プランに掲げる価値観と深く関係するものである。

このような観点から検討した結果、情報メディア学科の入学定員増を計画する。社会創造の担い手となる人材養成の機能を更に強化することを目指していく。情報メディア学科では、企業や自治体等との連携の下、実社会での業務や地域課題と関わりの強い実践的な題材をテーマに据え、最先端のツールを用いつつチームで課題に取り組む活動を推奨し、他者と協働して問題解決にあたる能力の育成や企業の方々との交流によるキャリア意識の醸成などを図っていく。

ウ　新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設置等

本学では、令和 4 年度に発表した「文理中長期戦略プラン BSP-15 第 3 期計画」において、「ICT・AI 技術の発展による教育のデジタル化に対応した教育手法の開発・推進及び DX に対応した教育内容の変容」、「持続可能な大学経営を実現するための教育組織の改編」、「学生募集における新たなマーケットへのチャレンジ」および「本学の主領域である食・栄養・情報を融合した教育」、「大学院開設を目指した研究力の向上」を挙げ、教育の情報化・DX の推進と学科の垣根を越えた新しい教育の創造、そして多様な学生の受け入れを推進することを謳っている。

「ICT・AI 技術の発展による教育のデジタル化に対応した教育手法の開発・推進及び DX に対応した教育内容の変容」では、情報メディア学科が本学の中でも重要な役割を担い、学科として対応できる情報技術の深化や教育のデジタル化、IT・AI 人材の育成などが求められている。このためには、情報メディア学科において、さらなる教育コンテンツの充実が必要であり、今ある学科の資産を最大限活かすとともに、新たな資源の充実とともに、それを予算的にも支えられる学生の在籍が必要である。

また、「文理中長期戦略プラン BSP-15 第 3 期計画」でも、学園全体の方向性として、「リモート教育の拡大」が謳われており、オンラインでの教育が十分な学修成果とともにより効果的に実施できるように体制を整えたいと考えている。この体制が整う

ことにより、受け入れられる学生の数も増加するものと考えられる。

「持続可能な大学経営を実現するための教育組織の改編」においては、短期大学部での定員を、近年の志願者の傾向から若干整理することによって充足率を上げるとともに、AI・データサイエンス分野の需要が現状のみならず、将来に向けても見込めることから、この分野を充実させることによって、経営の安定化を図りたいと考えている。将来的には、さらに新たな部門の新設も視野に入れており、今回の定員変更はその第一ステップである。

「学生募集における新たなマーケットへのチャレンジ」においては、外国人、社会人を含む多様な入学者を受け入れることとしている。情報メディア学科では、令和４年度よりスタートしたコース制度において「情報システムコース」、「映像メディアコース」、「サウンド制作コース」、「メディアデザインコース」の４つのコースを設定している。学生は、これらのコースを選択してその内容に習熟するとともに、他のコースの学修内容についても選択科目として学び、また、学生プロジェクト活動を通して、コースを越えた協働による学修を行っている。情報メディア学科のカリキュラムにおいては、極端に特定の分野に特化して学ぶのではなく、スペシャリストでありながら、広く他分野に通じる複合スキルを身につけた人材の育成を行っている。

こうした学修内容は、結果として多様な分野に関心を持つ学生が集まり、そうした多様な受験生が情報メディア学科を志願することにつながっている。これらの学生の需要に応えるため、カリキュラムにも多彩な専門分野の学修が盛り込まれている。このカリキュラムに沿った学修を実現するのに最適な環境のため、適正な学生数を設定したいと考えている。

「本学の主領域である食・栄養・情報を融合した教育」、「大学院開設を目指した研究力の向上」では、本学各学科の専門性を活かし、それらを融合した分野の大学院開設を目指している。その中でも、AI やデータサイエンスは重要な柱となるため、情報メディア学科における基盤もより充実させておきたいところである。

一方、入試における志願者の状況を顧みると、入試改革による一時的な志願者増は一段落ついたものの、情報メディア学科は依然として相当数の志願者を確保しており、現定員の入学者数とするため、一部の入試区分では必要以上に厳しい選抜を余儀なくされている状況である。特に総合型選抜などの専願の入試区分においても、一部厳しい選抜を避けられない。本学への入学を強く希望する志願者に対して、十分学力のある場合は積極的に受け入れていきたいと考えている。一般選抜においても、連携校や中堅の進学校から多く受験しているが、現入学定員を守るために、一部の区分では大変厳しい選抜を行っている。一般選抜においても、学力が十分ある場合は、できるだけ積極的に受け入れるようにするとともに、こうした進学校からの志願者を確保することは、少子化の進んだ将来における経営基盤を安定させることにつながると考える。

また、編入学は定員を充足していない場合に受け入れることを従来行っていたが、近

年定員を超えた入学者となっており、編入学の受け入れを何年も行っていない。しかし、一部の情報系専門学校の学生などから問い合わせや編入学の希望があり、本学としても編入学を制度化することとしたい。中には、本学への入学がかなわず、専門学校などへ進学したものの、そこでの学びを通じてやはり本学へ入学したいと考える学生の存在が推測され、実際、一部の学生からそのような経緯があることを確認している。本学情報メディア学科の学びは、前述のように、多様な専門分野に触れられるという特徴があり、一般的な情報の技能を身につけたあと本学での専門的な学びを希望する学生を幅広く受け入れたい。

さらに、同様の理由により、社会人となってから学び直したいという需要にも、こうした制度を通じて応えたいと考えている。社会人の学修については、前述のリモート教育を充実させることで、学習時間の自由度を高め、働きながら学ぶことが少しでも容易となるように学習環境を整備したいと考えている。

以上により、入学定員増および編入学定員設定によって、情報メディア学科の学修基盤を充実し、より多くの多様な学生の需要に応えていくことができるようになると考える。

・学生納付金の設定の考え方

情報メディア学科の学生納付金は以下の通り、4 年間総額で 4,920,000 円（初年度 1,380,000 円）に設定している。この学生納付金の設定を東海地区の競合校と比較すると比較的低く設定されており、これまでの学生募集状況等を鑑みれば、本学が提供する教育内容ならびに学修環境等に関し妥当な金額として社会から理解を得ていると考える。【資料２】

情報メディア学部　情報メディア学科

2023年度入学者

	1年次						2年次/3年次/4年次（各年次の学費）			4年間合計
	入学手続納入金			前期（4月）	後期（10月）	初年度合計（入学手続金と1年次の合計）	前期（4月）	後期（10月）	各年次合計	
	1回目	2回目	計							
入学金	200,000円	—	200,000円	—	—	200,000円	—	—	—	200,000円
授業料	—	—	—	375,000円	375,000円	750,000円	375,000円	375,000円	750,000円	3,000,000円
教育充実費	—	80,000円	80,000円	—	80,000円	160,000円	80,000円	80,000円	160,000円	640,000円
施設設備費	—	100,000円	100,000円	—	100,000円	200,000円	100,000円	100,000円	200,000円	800,000円
実習費	—	—	—	35,000円	35,000円	70,000円	35,000円	35,000円	70,000円	280,000円
合　計	200,000円	180,000円	380,000円	410,000円	590,000円	1,380,000円	590,000円	590,000円	1,180,000円	4,920,000円

エ　学生確保の見通し

Ａ．学生確保の見通しの調査結果

情報メディア学科の収容定員増加構想に伴い、入学定員が 100 名から 120 名に増加するにあたって、学生確保の見通しを確認するため、第三者機関である株式会社高等教育総合研究所に依頼し、高校生に対するアンケート調査を実施した。（調査期間：2023（令和 5）年 3 月～6 月）【資料３】。

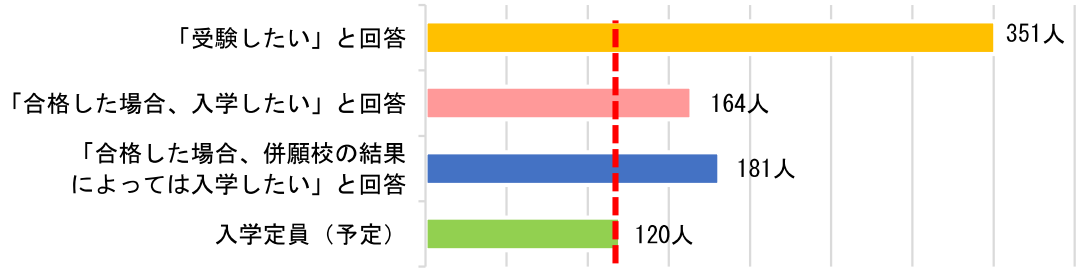
調査結果の概要及び結果（抜粋）を以下に示す。

（１）「収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査」の概要

調査目的	名古屋文理大学が 2024（令和 6）年度に情報メディア学部情報メディア学科の収容定員増加構想に伴い、入学定員が 100 名から 120 名に増加するにあたって、学生確保の見通しを第三者機関によりアンケート調査を用いて計ることを目的とする。
調査対象	2024（令和 6）年度に大学入試を受験する可能性が最も高い高校生（2024 年 3 月卒業予定者）をアンケートの対象とした。当該学部学科の学生確保の基盤となる愛知県を中心に、大学進学実績等も考慮して抽出した高校にアンケート調査実施を依頼した。また、6 月 11 日のオープンキャンパス参加者にもアンケート調査を実施した。高等学校 55 校 6,134 件とオープンキャンパス参加者 42 件、合計 6,176 件の回答を得た。
調査内容	● 問 1～2：回答者の基本情報（居住地、性別） ● 問 3～4：高校卒業後の希望進路、興味・関心のある学問分野 ● 問 5：当該学部学科の特色に対する興味・関心 ● 問 6：当該学部学科への受験意欲 ● 問 7：当該学部学科において取得したい資格 ● 問 8：当該学部学科への入学意欲 ● 問 9：当該学部学科を受験しない理由 以上、全 9 問で主に選択肢式。
調査時期	2023（令和 5）年 3 月～6 月
調査方法	アンケート調査実施の了承が得られた高校にアンケート用紙及び概要説明プリント（必要部数）を送付。教職員から調査対象者（2024 年 3 月卒業予定者）に配布の上、WEB 調査またはアンケート調査用紙により回答いただいた。6 月 11 日のオープンキャンパス参加者にはアンケート調査用紙により、回答をいただいた。 ※オープンキャンパス参加者のアンケート調査では、高校名と学年を記入してもらい、高等学校で実施した 55 校と重複する高等学校の在籍者分は除外した。
回収件数	有効回答数 6,176 件 （アンケート用紙：4,805 件、WEB 回答：1,371 件）

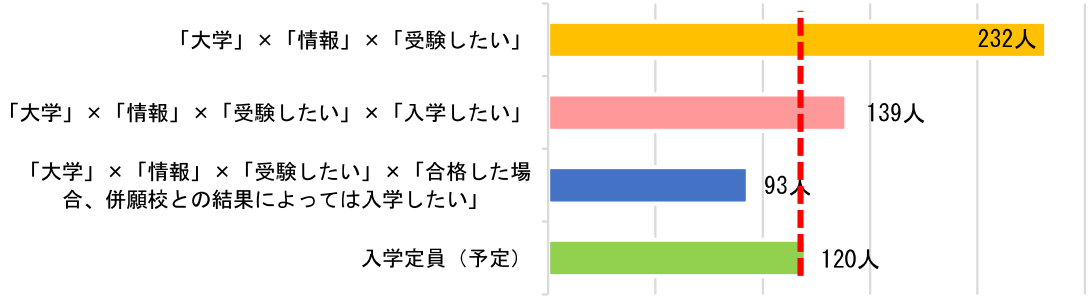
（２）「収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査」結果（抜粋）

【グラフ】当該学部学科への受験意欲・入学意欲について（全体集計）



上記の学生確保の見通し調査において、本学の情報メディア学科を問 6 で「受験したい」（受験意欲）と回答した者は 351 人であり、その内、問 8 で「合格した場合、入学したい」（入学意欲）と回答した者は 164 人であった。

【グラフ】当該学部学科への受験意欲・入学意欲について（クロス集計）



また、①大学に進学を希望する者（問 3）、②当該学部学科の学問分野（情報）に興味のある者（問 4）、③当該学部学科を受験したい者（問 6）、④当該学部学科を受験し、合格した場合、入学したい者（問 8）で、①～④すべてに当てはまる回答をした者は 139 人であった。

以上のアンケート調査結果から、本学の情報メディア学科では、予定する定員数を上回る志願者および入学希望者を確保し、入学定員の 120 人を充足することが十分にできると考えられる。

また、情報メディア学科の 3 年次編入学（入学定員：2 名）の構想における短期大学生、専門学校生等のニーズを把握し、学生確保の見通しを確認するため、第三者機関である株式会社高等教育総合研究所に依頼し、高校生に対するアンケート調査を実施した（調査期間：2023（令和 5）年 4 月～5 月）【資料４】。

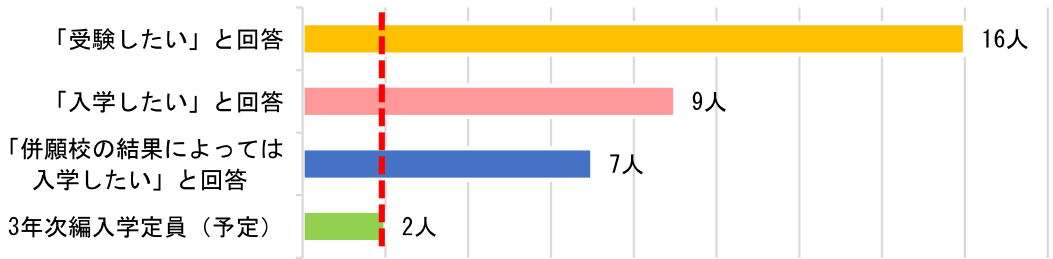
調査結果の概要及び結果（抜粋）を以下に示す。

（１）「収容定員増加構想（3 年次編入学）に関するアンケート調査」の概要

調査目的	名古屋文理大学が 2024（令和 6）年度に情報メディア学部情報メディア学科の収容定員増加構想に伴い、3 年次編入学（入学定員：2 名）を設けるにあたって、学生確保の見通しを第三者機関によりアンケート調査を用いて計ることを目的とする。
調査対象	2023（令和 5）年度に 3 年次編入学を受験する可能性が最も高い短期大学生、専門学校生等（2024 年 3 月卒業予定者）をアンケートの対象とした。当該学部学科の学生確保の基盤となる愛知県を中心に抽出した短期大学、専門学校等にアンケート調査実施を依頼し、6 校 399 件の回答を得た。
調査内容	● 問 1～3：回答者の基本情報（居住地、性別、在籍する学校） ● 問 4～5：卒業後の希望進路、興味のある学問分野 ● 問 6：当該学部学科の特色に対する興味・関心 ● 問 7：当該学部学科への受験意欲 ● 問 8：当該学部学科への入学意欲 ● 問 9：当該学部学科を受験しない理由 以上、全 9 問で主に選択肢式。
調査時期	2023（令和 5）年 3 月～5 月
調査方法	アンケート調査実施の了承が得られた専門高等学校専攻科、短期大学、専門学校等にアンケート用紙及び概要説明プリント（必要部数）を送付。教職員から調査対象者に配布の上、アンケート調査用紙により回答いただいた。
回収件数	有効回答数 399 件

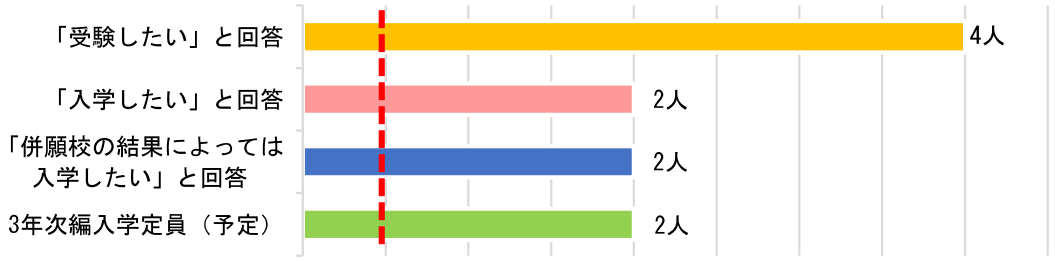
（２）「収容定員増加構想（3 年次編入学）に関するアンケート調査」結果（抜粋）

【グラフ】「情報メディア学部情報メディア学科（仮称）」への受験意欲・入学意欲について



上記の学生確保の見通し調査において、本学の情報メディア学科の 3 年次編入学を、問 7 で「受験したい」（受験意欲）と回答した者は 16 人であり、その内、問 8 で「入学したい」（入学意欲）と回答した者は 9 人であった。

【グラフ】当該学部学科への受験意欲・入学意欲について（クロス集計）



また、①大学（編入学）を希望する者（問 4）、②当該学部学科の学問分野（情報）に興味のある者（問 5）、③当該学部学科を受験したい者（問 7）、④当該学部学科に入学したい者（問 8）で、①～④のすべてに当てはまる回答をした者は 2 人であった。

以上のアンケート調査結果から、本学の情報メディア学科では、予定する編入学の定員数を上回る志願者および入学希望者を確保し、3 年次編入学定員の 2 人を充足することができると考えられる。

B．新設学部等の分野の動向

令和 5 年度(2023 年度)の河合塾第 1 回共通テスト模試（令和 5 年 5 月実施）における情報系分野の一般選抜の志願動向調査の結果から本学情報メディア学科は、近隣大学の志願状況と比較しても十分に定員充足できると思われる。【資料５】

C．中期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向

『リクルート進学総研マーケットリポート（2023 年 2 月号)』によれば全国の 18 歳人口は 2022 年の 112.1 万人から 2034 年には 100.6 万人（11.5 万人減少）となる。そのうち東海エリアでは、18 歳人口は 2022 年の 140,510 人から 2034 年には 124,083 人（16,427 人減少）と厳しい状況である。ただし、『地元残留率』は大学で、2013 年 48.4%から 2022 年 49.9%（1.5 ポイント上昇）となっている。本学入学者のほとんどは地元定着率の高い東海エリア出身者である。18 歳人口は減るものの、地元志向性および分野特性を生かすことにより、新規高校卒業者層の入学者確保は可能と判断する。

【資料６】

D．競合校の状況

情報メディア学科の競合校として「愛知工業大学　情報科学部」「大同大学　情報学部」「中部大学　工学部（情報工学科)」「名古屋学芸大学　メディア造形学部」「愛知工科大学　工学部（情報メディア学科)」のほか芸術系の「名古屋造形大学　造形学部、造形学科」「愛知淑徳大学　人間情報学部、創造表現学部」などが挙げられる。競合校

の情報系学部 7 校の入試状況は、令和 4 年度の総定員 1,715 名に対し受験者総数は 12,059 名（令和 3 年度の総定員 1,705 名に対し受験者総数 12,733 名）であり、いずれの学部も入学定員の 3.5 倍～11.5 倍（令和３年度 4.6 倍～12.6 倍）の受験者を集め、入学定員を満たしている。入学定員超過率は、102～121%（令和３年度 101～128%）である。情報分野全体の希望者が毎年少しずつ膨らんでいく中で、特に理系情報分野の希望が堅調であることから安定的な志願者確保が見込まれ、定員充足は十分可能と判断される。また、これら競合校は、1 校を除き名古屋市内中心から見てからすべてが東部もしくは北東部地域のエリアに所在し、名古屋市西部や尾張地区エリアでは本学のみである。【資料７】

Ｅ．既存学部の状況

情報メディア学科における直近５年間の志願者数は平均 500 名を超えており、実志願者数でも平均 300 名程あり、安定的に志願者を確保している。志願者倍率も実人数で平均約３倍である。入学定員超過率も、直近 5 年は 100%を超えている。引き続き情報分野への学びの需要も高く、入学定員を 20 人増の 120 人としても十分入学定員を充足できる見通しである。【資料１】

他の既存学部の健康生活学部（健康栄養学科・フードビジネス学科）においては、18 歳人口の減少や、分野希望者減少の影響はあるものの、直近５年の平均定員充足率は健康栄養学科では 100.6%、フードビジネス学科では 83.2%となっており、健康生活学部全体で 91.9%の状況である。【資料１】

情報メディア学科 3 年次編入学

情報メディア学科 3 年次編入学定員 2 名の設定については、現在の IT 人材不足に対しリカレント教育やリスキリング教育に大学が取り組むことが必要と求められていることによる。2 名の 3 年次編入学定員を充足ができるかどうか可能な限りの客観的データとするために入学意向に関するアンケートを実施した。その結果、編入学定員を上回る入学意向が確認できた。

オ　学生確保に向けた具体的な取組状況

①多様な入試方式の実施

本学では、「総合型選抜」では、ワークショップ入試等により、多様な観点から受験者の評価に努めている。また、「学校推薦型選抜」「一般選抜」では、本学キャンパス以外に 6 地方試験会場を設定し、受験者の負担軽減、並びに多様な学生の確保を図っている。

②広報活動について

本学では、学生確保や社会への理解活動のため、入試広報・学事課を中心に、積極的に広報活動を展開している。

また、本学ウェブサイト等の広報媒体、オープンキャンパスをはじめとする各種説明会等を通し、学生確保に向け組織的な取り組みを展開している。新型コロナウイルス感染症発生後は従来の対面形式での広報活動が困難となったが、オンライン形式 での実施が可能な活動は実施方法を変更し、本学の特色や入試に関する情報提供を行い、受験生、保護者、高校関係者等の本学に対する理解を促進するとともに、志願者の確保に努めている。

ア）オープンキャンパス　【資料８】

オープンキャンパスにおいて、学部紹介・入試相談会・キャンパスツアー等の企画を行い、毎年 1,300 人を超える来場者数である。一時新型コロナウイルス感染症で中止していた対面形式のオープンキャンパスも令和３年度からは対面実施を再開し、オンライン形式とのハイブリット式の企画を実施した。

イ）進学懇談会　【資料９】

毎年、高等学校の進路担当教員等と本学教職員との意見交換、及び本学の特色や入試に関する情報提供を内容とする進学懇談会を実施している。

ウ）高校訪問　【資料１０】

高等学校と本学との相互理解の促進を目的に、本学の入試広報担当職員が主に中部地区の高等学校を 訪問し、進路担当教員に対して本学の特色や入試に関する情報提供を行っている。

エ）キャンパス見学会　【資料１１】

進路検討の一環として、本学キャンパスの見学を希望する高等学校を対象に、大学紹介・施設見学等を内容とするキャンパス見学会を実施している。

オ）進学相談会　【資料１２】

高校生の進学意欲醸成を目的に、本学の入試広報担当職員が高等学校等を訪問し、本学への進学希望者に本学の特色や入試に関する説明・質疑応答を行う進学相談会を実施している。

カ）出前講義　【資料１３】

本学の知的財産を地域社会に還元し社会貢献に寄与することを目的に、学校及び自治体等からの依頼 に基づき、本学教職員を派遣している。高校生には大学の模擬授業を通じた「学び」への関心の高まり による進学意欲の醸成・向上が期待できる。

本学独自の給付型奨学金制度による経済的支援について 本学では、学部生等を対象とした独自の給付型奨学金制度を設けており、経済的理由により修学が困難な学生や学業優秀学生に対し、経済的支援を行っている。また、本学は「高等教育の修学支援新制度」の対象機関に認定されており、支援要件に該当する学生は本制度による支援を受

けられる。

（２） 人材需要の動向等社会の要請

①人材育成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

情報メディア学科では情報の持つ社会的役割を多面的に教育研究し、情報社会で不可欠な情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用能力、コミュニケーション能力、創作能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成する。また、「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の４つの専修コースでの学修を深め、幅広い情報を自在に取り扱える能力を身につけ、社会で求められる問題解決能力、企画・立案能力、文化創造力を養う。

情報メディア学科のディプロマポリシー（学位授与の方針）は次のとおりである。

情報メディア学部情報メディア学科

情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の 4 つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。

情報メディア学科

各コースでは以下の内容を学んでいきます。

1. 情報システムコース

モバイルアプリやゲームなどユーザー向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。

2. 映像メディアコース

映像制作を中心として、アニメーション、CG などを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。

3. サウンド制作コース

音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI 技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエータ、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。

4. メディアデザインコース

グラフィックデザイン、Web デザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタル

ファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。

②社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

１．デジタル人材に関する社会的、地域的な人材需要動向

内閣に設置されている「統合イノベーション戦略 2022」が令和 4 年に決定し、大学改革や STEAM 教育が拓く知的資産を科学技術・イノベーション政策の一つの柱とし、知の基盤（研究力）と人材育成の強化の実現を掲げた。「AI 戦略 2019」 においては、Society 5.0 の実現を通じた世界規模の課題解決への貢献、並びに我が国自身の社会課題 も克服するための基盤作りの一つとして、「教育改革と研究開発体制の再構築」の必要性が示された。令和 7 年までの具体的目標として、「データサイエンス・AI を理解し、各専門分野で応用できる人材を 育成（約 25 万人/年)」等が掲げられ、教育機関には当該知識・技術を有する人材を養成することが求められている。また、愛知県が今後の県内の情報通信技術の指針を示すため、令和 2 年 12 月に策定した「あいち DX 推進プラン 2025」（計画期間：令和 3 年度～令和 7 年度）では、県行政及び社会全体のデジタル化を推進するために、DX 対応に必要となる数理、データサイエンス、AI、ICT 等の知識・技術を有するデジタル人材の育成・確保に取り組む必要があることが示されている。

一例として愛知県内の産業の維持・発展に不可欠な IoT 人材を育成するため、県内の情報系学 部・学科を有する大学や県内経済団体と連携した PBL（課題解決型学習）の実施を調整することが取り組みとして示されている。

大学の機能強化により、基礎研究・学術研究を振興し、全国に面的・多層的な知の基盤を構築、分野にとらわれず、創造的な研究をリードする多様な人材の育成や、社会ニーズを捉え、学び続ける姿勢に応える教育の推進により、大学等が生み出す知的資産を社会に還流することが求められる。

以上のことから、これからの社会では情報系分野における情報メディア学の教育の必要性ならびに数理、データサイエンス、AI 等の教育の充実の必要性、重要性から、社会的、地域的な人材需要があると言える。

２．卒業生の就職状況

情報メディア学科の直近 5 年間（平成 30(2018) 年度～令和 4 (2022) 年度卒業生）の就職率は 100%～ 95.1 %である。【資料１４】

これは文部科学省及び厚生労働省が毎年公表する「大学等卒業者及び高校卒業者の就職状況調査」における対象大学全体の直近 5 年間の就職率である 98.0%～95.8%を上回る水準であることから、安定期な人材需要の見込みがあると分析する。【資料１５】

また、人材需要の見通しを確認するため、第三者機関である株式会社高等教育総合研究所に依頼し、卒業生の就職先として想定される企業に対するアンケート調査を実施した（調査期間：2023（令和 5）年 3 月～5 月）【資料１６】。

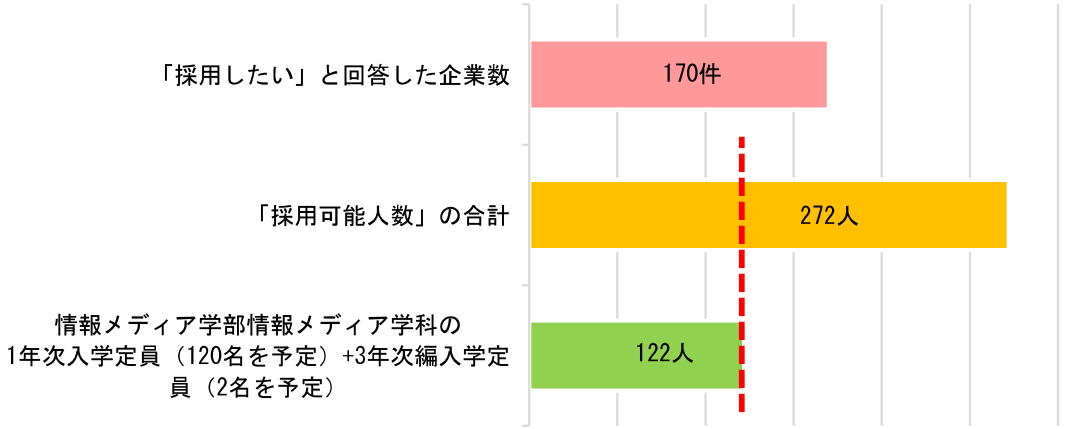
調査結果の概要及び結果（抜粋）を以下に示す。

（１）「収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査」の概要

調査目的	名古屋文理大学が 2024（令和 6）年度に情報メディア学部情報メディア学科の収容定員増加構想（1 年次入学定員：100 名から 120 名、3 年次編入学定員：0 名から 2 名）における人材需要の見通しを第三者機関によりアンケート調査を用いて計ることを目的とする。
調査対象	当該学部学科の卒業生の採用が期待される愛知県を中心に、これまでの就職実績等も考慮して抽出した企業計 1,779 件を対象とした。
調査内容	● 問 1～3：回答企業の基本情報（本社所在地、業種、従業員数） ● 問 4：当該学部学科に対する社会的ニーズ ● 問 5：採用者の資質・能力に対する関心 ● 問 6・7：当該学部学科の卒業生に対する採用の意向・採用可能人数 ● 問 8：本学に対する期待・要望 以上、全 8 問で主に選択肢式。一部記述を含む。 （問 9 は、施設・法人名称をたずねる設問である為、省略する）
調査時期	2023（令和 5）年 3 月～5 月
調査方法	調査対象先の人事・採用担当者宛に依頼状・アンケート調査用紙各 1 部、概要説明プリント、返送用封筒を送付した。ご協力いただける場合は、WEB 調査またはアンケート調査用紙により回答いただいた。
回収件数	有効回答数 196 件（アンケート用紙：72 件、WEB 回答：124 件） 配布 1,779 件に対し、回収率 11.0%

（２）「収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査」結果（抜粋）

【グラフ】当該学部学科の卒業生の採用の意向・採用可能人数について



上記の人材需要の見通し調査において、本学の情報メディア学科の卒業生を採用したいと回答した企業 170 件に採用可能人数を乗じた合計は、272 人であった。これは、本学科の 1 年次入学定員 120 人と 3 年年次編入学定員 2 人の合計 122 人の約 2.2 倍にあたる。

なお、当該学部学科の養成する人材の社会的ニーズについてたずねた設問（問 4）では、全体の 43.9%が「ニーズは極めて高い」、50.5%が「ニーズはある程度高い」と回答しており、高いニーズがあることが示された。

以上のアンケート調査結果において、予定する 1 年次入学定員 120 人と 3 年年次編入学定員 2 人の合計 122 人を大きく上回る回答を得られたため、本学の情報メディア学科に対する社会的・地域的人材需要及び採用需要は十分にあると考えられる。

以上

学生の確保の見通し等を記載した書類

資料目次

【資料１】入学試験動向　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１８
【資料２】周辺地域における類似の学部・学科の学生納付金一覧・・・・・　２０
【資料３】収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査・・・・・・・　２１
【資料４】収容定員増加構想（３年次編入学）
に関する高校生アンケート調査・・・・・・・　４５
【資料５】2023 年度河合塾第１回共通テスト模試志望動向（情報）・・・・　６６
【資料６】リクルート進学総研マーケットレポート（2023 年２月号）・・・　６７
【資料７】競合校の入学状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７０
【資料８】オープンキャンパスの参加状況 ・・・・・・・・・・・・・・・　７１
【資料９】進学懇談会参加校一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７２
【資料１０】高校訪問一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７３
【資料１１】キャンパス見学一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７６
【資料１２】進学相談会一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７７
【資料１３】出前講義一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８２
【資料１４】就職状況（過去５年間） ・・・・・・・・・・・・・・・・・　８４
【資料１５】大学等卒業者及び高校卒業者の就職状況調査 ・・・・・・・　８５
【資料１６】収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査 ・・・　８６

資料1

情報メディア学科入学試験動向

（　）は実人数

	入学定員(A)	志願者数(B)	志願者倍率 (B)/(A)	受験者数	合格者数(C)	入学者数(D)	実質競争率 (B)/(C)	入学定員超過率 (D)/(A)
2023年度 (令和5年度)	100	391(228)	3.91(2.28)	379(222)	159(142)	109	2.46(1.61)	1.09
2022年度 (令和４年度)	100	422(246)	4.22(2.46)	395(230)	166(143)	108	2.54(1.72)	1.08
2021年度 (令和３年度)	100	570(328)	5.70(3.28)	557(318)	149(142)	121	3.83(2.31)	1.21
2020年度 (令和２年度)	100	778(423)	7.78(4.23)	761(412)	158(150)	124	4.92(2.82)	1.24
2019年度 (平成31年度)	100	491(303)	4.91(3.03)	476(296)	219(184)	122	2.24(1.65)	1.22

健康栄養学科入学試験動向

（　）は実人数

	入学定員(A)	志願者数(B)	志願者倍率 (B)/(A)	受験者数	合格者数(C)	入学者数(D)	実質競争率 (B)/(C)	入学定員超過率 (D)/(A)
2023年度 (令和5年度)	80	178(130)	2.23(1.63)	174(128)	155(121)	70	1.15(1.07)	0.88
2022年度 (令和４年度)	80	145(112)	1.81(1.40)	138(107)	119(102)	70	1.22(1.10)	0.88
2021年度 (令和３年度)	80	300(189)	3.75(2.36)	288(180)	141(126)	81	2.13(1.50)	1.01
2020年度 (令和２年度)	80	288(204)	3.60(2.55)	282(200)	220(178)	88	1.31(1.15)	1.10
2019年度 (平成31年度)	80	295(208)	3.69(2.60)	287(203)	232(181)	93	1.27(1.15)	1.16

フードビジネス学科入学試験動向

（　）は実人数

	入学定員(A)	志願者数(B)	志願者倍率 (B)/(A)	受験者数	合格者数(C)	入学者数(D)	実質競争率 (B)/(C)	入学定員超過率 (D)/(A)
2023年度 (令和5年度)	70	87(68)	1.24(0.97)	87(68)	83(68)	53	1.05(1.00)	0.76
2022年度 (令和４年度)	70	96(65)	1.37(0.93)	95(65)	83(63)	48	1.16(1.03)	0.69
2021年度 (令和３年度)	70	89(67)	1.27(0.96)	87(67)	83(67)	52	1.07(1.00)	0.74
2020年度 (令和２年度)	70	114(94)	1.63(1.34)	110(91)	99(88)	66	1.15(1.07)	0.94
2019年度 (平成31年度)	70	123(87)	1.76(1.24)	123(87)	113(86)	72	1.09(1.01)	1.03

情報メディア学科入学編試験動向

	入学定員(A)	志願者数(B)	受験者数	合格者数(C)	入学者数(D)	実質競争率 (B)/(C)	入学定員超過率 (D)/(A)
2023年度 (令和5年度)	-	-	-	-	-	-	-
2022年度 (令和４年度)	-	-	-	-	-	-	-
2021年度 (令和３年度)	-	-	-	-	-	-	-
2020年度 (令和２年度)	-	-	-	-	-	-	-
2019年度 (平成31年度)	-	1	1	1	0	1.00	-

健康栄養学科編入学試験動向

	入学定員(A)	志願者数(B)	受験者数	合格者数(C)	入学者数(D)	実質競争率 (B)/(C)	入学定員超過率 (D)/(A)
2023年度 (令和5年度)	2	7	7	6	6	1.17	3.00
2022年度 (令和４年度)	2	4	4	3	3	1.33	1.50
2021年度 (令和３年度)	2	2	2	2	2	1.00	1.00
2020年度 (令和２年度)	2	21	19	19	14	1.11	7.00
2019年度 (平成31年度)	2	6	6	3	3	2.00	1.50

フードビジネス学科編入学試験動向

	入学定員(A)	志願者数(B)	受験者数	合格者数(C)	入学者数(D)	実質競争率 (B)/(C)	入学定員超過率 (D)/(A)
2023年度 (令和5年度)	-	7	7	7	7	1.00	-
2022年度 (令和４年度)	-	1	1	1	1	1.00	-
2021年度 (令和３年度)	-	2	2	2	2	1.00	-
2020年度 (令和２年度)	-	0	0	0	0	-	-
2019年度 (平成31年度)	-	0	0	0	0	-	-

資料2

周辺地域における類似の学部・学科の学生納付金一覧

情報メディア学部　　情報メディア学科

大学	学部	学科（専攻）	入学金	授業料	教育充実・施設設備費	実習費	その他（諸会費）	初年度合計
大同大学	情報学部	情報システム学科	300,000	890,000	315,000	ー	56,300	1,561,300
愛知工業大学	情報科学部	情報科学科	250,000	880,000	460,000	ー	81,010	1,671,010
中部大学	工学部	情報工学科	280,000	930,000	410,000	ー	53,300	1,673,300
名古屋学芸大学	メディア造形学部	映像メディア学科	200,000	975,000	400,000	100,000	ー	1,675,000
愛知工科大学	工学部	情報メディア学科	300,000	840,000	350,000	ー	85,000	1,575,000
愛知淑徳大学	創造表現学部	創造表現学科 メディアプロデュース専攻	200,000	760,000	370,000	ー	15,000	1,345,000

（各大学　募集要項、ホームページ参照）

資料3

名古屋文理大学
情報メディア学部　情報メディア学科
学生確保の見通し調査
【収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査】
報告書

令和５年６月１５日

株式会社高等教育総合研究所

目次

１．　「収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査」概要　2

２．　「収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査」集計結果　3

３．　「収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査」集計結果のポイント　6

４．　「収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査」集計結果の分析　11

添付資料　13

名古屋文理大学
「概要説明プリント」　14
「収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査用紙」　18
「収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査用紙(Web フォーム)」　20

１.「収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査」概要

調査目的	名古屋文理大学が 2024（令和 6）年度に情報メディア学部情報メディア学科の収容定員増加構想に伴い、入学定員が 100 名から 120 名に増加するにあたって、学生確保の見通しを第三者機関によりアンケート調査を用いて計ることを目的とする。
調査対象	2024（令和 6）年度に大学入試を受験する可能性が最も高い高校生（2024 年 3 月卒業予定者）をアンケートの対象とした。当該学部学科の学生確保の基盤となる愛知県を中心に、大学進学実績等も考慮して抽出した高校にアンケート調査実施を依頼した。また、6 月 11 日のオープンキャンパス参加者にもアンケート調査を実施した。高等学校 55 校 6,134 件とオープンキャンパス参加者 42 件、合計 6,176 件の回答を得た。
調査内容	● 問 1～2：回答者の基本情報（居住地、性別） ● 問 3～4：高校卒業後の希望進路、興味・関心のある学問分野 ● 問 5：当該学部学科の特色に対する興味・関心 ● 問 6：当該学部学科への受験意欲 ● 問 7：当該学部学科において取得したい資格 ● 問 8：当該学部学科への入学意欲 ● 問 9：当該学部学科を受験しない理由 以上、全 9 問で主に選択肢式。
調査時期	2023（令和 5）年 3 月～6 月
調査方法	アンケート調査実施の了承が得られた高校にアンケート用紙及び概要説明プリント（必要部数）を送付。教職員から調査対象者（2024 年 3 月卒業予定者）に配布の上、WEB 調査またはアンケート調査用紙により回答いただいた。6 月 11 日のオープンキャンパス参加者にはアンケート調査用紙により、回答をいただいた。 ※オープンキャンパス参加者のアンケート調査では、高校名と学年を記入してもらい、高等学校で実施した 55 校と重複する高等学校の在籍者分は除外した。
回収件数	有効回答数 6,176 件 （アンケート用紙：4,805 件、WEB 回答：1,371 件）

２.「収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査」集計結果

※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。

問１　あなたのお住まいをお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	愛知県	3,880	62.8%
2	岐阜県	1,768	28.6%
3	三重県	510	8.3%
4	その他	8	0.1%
	無回答	10	0.2%
合計		6,176	100.0%

問２　あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	男性	2,391	38.7%
2	女性	3,645	59.0%
3	回答しない	131	2.1%
	無回答	9	0.1%
合計		6,176	100.0%

問３　高校卒業後の希望進路についてお答えください（あてはまるもの全てにマーク）

No	選択項目	回答数	回答率
1	大学	3,623	58.7%
2	短期大学	486	7.9%
3	専門学校	1,615	26.1%
4	就職	1,108	17.9%
5	その他	56	0.9%

※複数回答項目のため、回答数は延べ。回答率は回答件数／回答者数（6,176 人）

問 4　あなたが関心のある学問分野をお答えください。（あてはまるもの全てにマーク）

No	選択項目	回答数	回答率
1	情報	906	14.7%
2	理学・工学	619	10.0%
3	教育・保育	878	14.2%
4	スポーツ・体育	713	11.5%
5	文学・歴史・心理	930	15.1%
6	経済・経営・ビジネス	1,170	18.9%
7	法学・政治	341	5.5%
8	社会・社会福祉・観光	435	7.0%
9	外国語・国際関係	601	9.7%
10	医学・歯学・薬学	382	6.2%
11	看護・医療	912	14.8%
12	栄養・家政	570	9.2%
13	芸術	671	10.9%
14	その他	968	15.7%

※複数回答項目のため、回答数は延べ。回答率は回答件数／回答者数（6,176 人）

問 5　本学の情報メディア学部情報メディア学科には次のような特色があります。あなたの興味・関心があるものを選んでください。（あてはまるもの全てにマーク）

No	選択項目	回答数	回答率
1	大学生としての基礎学力と教養を高めるための基礎教育科目と、情報メディアの各分野において即戦力となる人材を育成するための専門教育科目をバランスよく学ぶことができる	1,938	31.4%
2	情報システム開発、映像コンテンツ制作、サウンド制作、メディアデザインを目的とする各専修コースには、高度な専門科目が設置され、コースや複合スキルを意識した学修の実践とキャリアデザインに即した専門知識を修得が可能である	1,442	23.3%
3	卒業研究・卒業制作を通して、情報システム技術者、映像や音響などメディアコンテンツに関わる制作者やデザイナー・技術者など、目標とするキャリアの実践力を身につけることができる研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる	1,196	19.4%
4	コースごとの専門科目のほか、各コース共通の専門科目を設置し、情報システムやメディアコンテンツ・メディア技術、メディアデザインなど多種の研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる	1,342	21.7%

※複数回答項目のため、回答数は延べ。回答率は回答件数／回答者数（6,176 人）

問 6　あなたは本学の情報メディア学部情報メディア学科を受験したいと思いますか。（あてはまるもの 1 つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	受験したい	351	5.7%
2	受験したいと思わない	5,546	89.8%
	無回答	279	4.5%
合計		6,021	100.0%

問 7・問 8 は、問 6 で「1. 受験したい」とした 351 人が回答対象である。

問 7　あなたが情報メディア学部情報メディア学科において取得したい資格を選んでください。（あてはまるもの全てにマーク）

No	選択項目	回答数	回答率
1	IT パスポート（i パス）	124	35.3%
2	基本情報技術者	148	42.2%
3	応用情報技術者	86	24.5%
4	高度情報処理技術者	74	21.1%
5	MIDI 検定	39	11.1%
6	マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）	54	15.4%
7	TOEIC や TOEFL などの語学系資格	61	17.4%
8	その他	14	4.0%

※複数回答項目のため、回答数は延べ。回答率は回答件数／回答者数（351 人）

問 8　あなたは本学の情報メディア学部情報メディア学科を受験し、合格した場合、入学したいと思いますか。（あてはまるもの 1 つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	合格した場合、入学したい	164	46.7%
2	合格した場合、併願校の結果によっては入学したい	181	51.6%
3	無回答	6	1.7%
合計		351	100.0%

問 9 は、問 6 で「2. 受験したいと思わない」とした 5,546 人が回答対象である。

問 9　あなたが情報メディア学部情報メディア学科を「受験したいと思わない」と回答された理由をお答えください。（あてはまるもの全てにマーク）

No	選択項目	回答数	回答率
1	興味・関心のある分野ではないから	4061	73.2%
2	興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから	719	13.0%
3	興味・関心のある分野だが、さらに詳細を知った上で検討したいから	332	6.0%
4	通学が不便そうだから	305	9.1%
5	学費が高いから	383	6.9%
6	その他	173	3.1%

※複数回答項目のため、回答数は延べ。回答率は回答件数／回答者数（5,546 人）

３．「収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査」集計結果のポイント

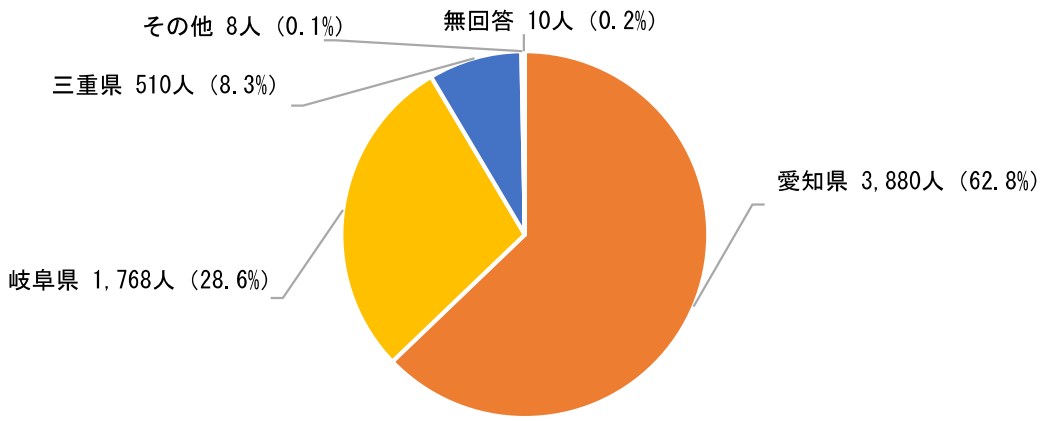
※「構成比（%）」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。

● 回答者の居住地は、当該学部学科が所在する愛知県が約 6 割を占める結果となった。

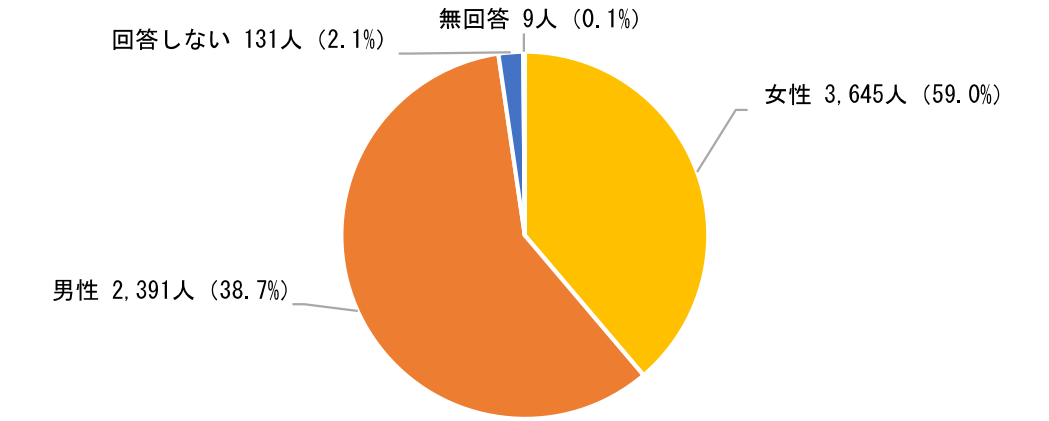
名古屋文理大学が 2024（令和 6）年度に構想している情報メディア学部情報メディア学科の入学定員増に係る「収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査」において、有効回答 6,176 件の集計を行った。

その結果、回答者の居住地については、「愛知県」が 3,880 人（62.8%）で最も多く、次いで「岐阜県」が 1,768 人（28.6%）、「三重県」が 510 人（8.3%）、「その他」が 8 人（0.1%）、無回答が 10 人（0.2%）となった。回答者の性別については、「女性」が 3,645 人（59.0%）、「男性」が 2,391 人（38.7%）、「回答しない」が 131 人（2.1%）、無回答が 9 人（0.1%）となった。

【グラフ】回答者の居住地について＜問 1 の結果より＞



【グラフ】回答者の性別について＜問 2 の結果より＞

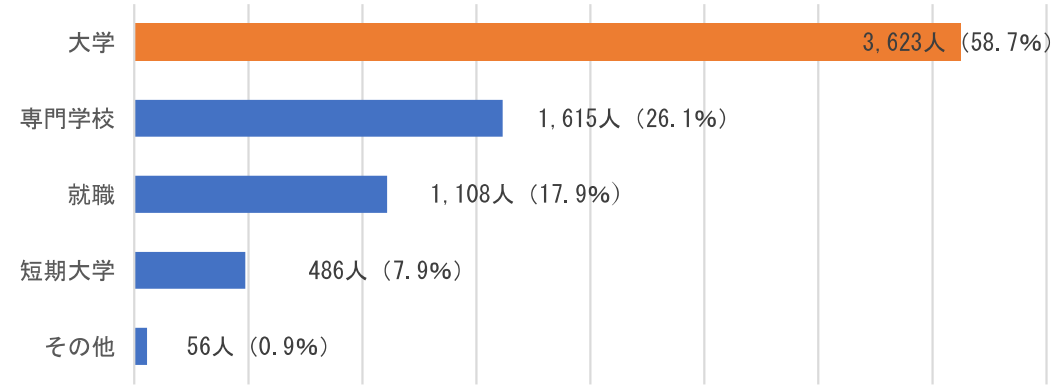


● 大学進学を希望する者は 3,623 人（58. 7%）、情報の分野に興味・関心のある者は 906 人（14.7%）であった。

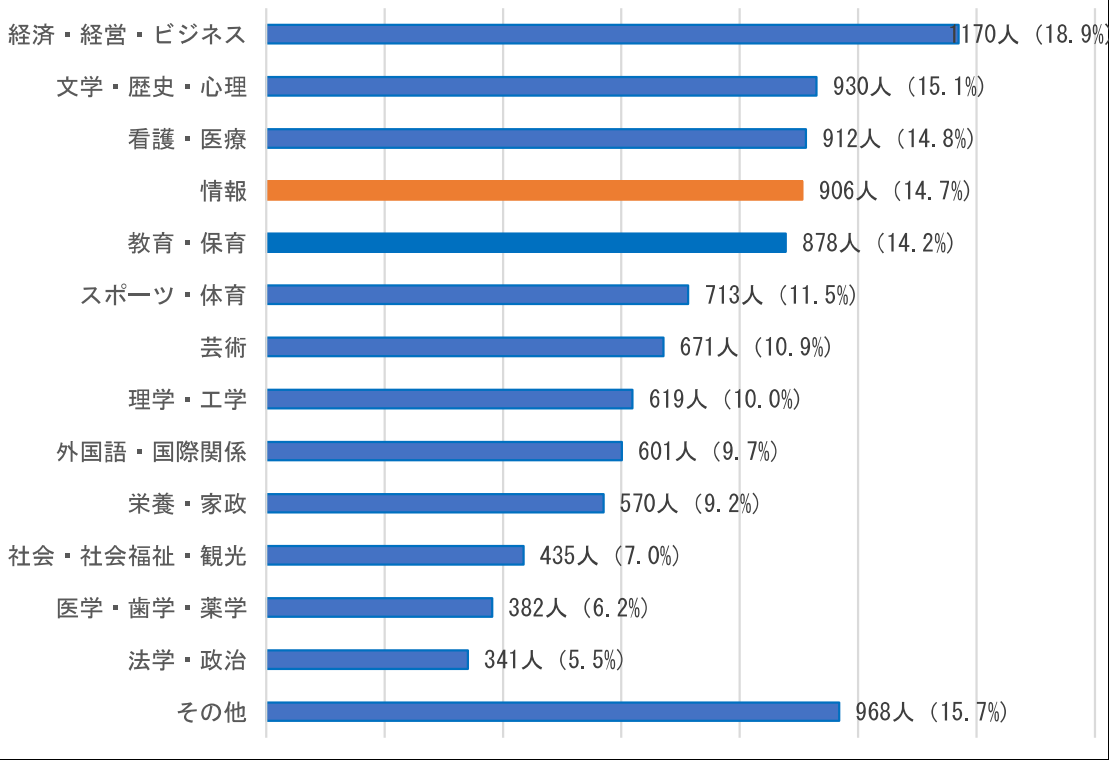
卒業後の希望進路については、「大学」が 3,623 人（58.7%）で最も多く、次いで「専門学校」が 1,615 人（26.1%）、「就職」が 1,108 人（17.9%）、「短期大学」が 486 人（7.9%）、「その他」が 56 人（0.9%）となった。

興味・関心のある学問分野については、当該学部学科に関連する学問分野である「情報」に対し、906 人（14.7%）の者が興味を示した。

【グラフ】高校卒業後の希望進路について＜問 3 の結果より＞



【グラフ】興味・関心のある学問分野について＜問 4 の結果より＞



● 当該学部学科の 4 つの特色、それぞれに魅力を感じる結果となった。

当該学部学科の特色の中で興味・関心のあるものをたずねた質問では、回答の多い順に「大学生としての基礎学力と教養を高めるための基礎教育科目と、情報メディアの各分野において即戦力となる人材を育成するための専門教育科目をバランスよく学ぶことができる」が 1,983 人（31.4%）、「情報システム開発、映像コンテンツ制作、サウンド制作、メディアデザインを目的とする各専修コースには、高度な専門科目が設置され、コースや複合スキルを意識した学修の実践とキャリアデザインに即した専門知識を修得が可能である」が 1,442 人（23.3%）、「コースごとの専門科目のほか、各コース共通の専門科目を設置し、情報システムやメディアコンテンツ・メディア技術、メディアデザインなど多種の研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる」が 1,342 人（21.7%）、「卒業研究・卒業制作を通して、情報システム技術者、映像や音響などメディアコンテンツに関わる制作者やデザイナー・技術者など、目標とするキャリアの実践力を身につけることができる研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる」が 1,196 人（19.4%）、であった。

【表】当該学部学科の特色に対する興味・関心について＜問 5 の結果より＞

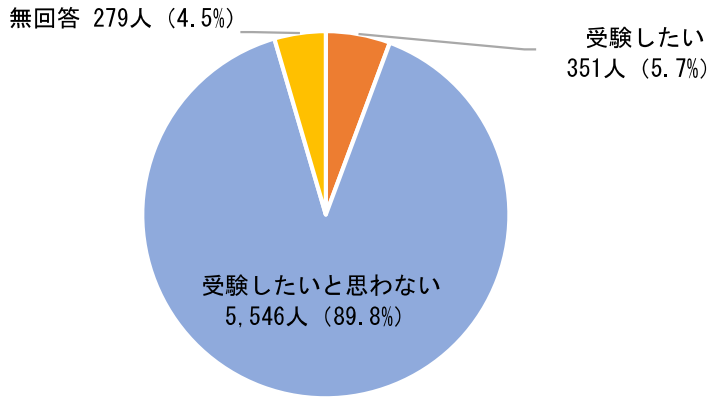
No	選択項目	回答数	回答率
1	大学生としての基礎学力と教養を高めるための基礎教育科目と、情報メディアの各分野において即戦力となる人材を育成するための専門教育科目をバランスよく学ぶことができる	1,938	31.4%
2	情報システム開発、映像コンテンツ制作、サウンド制作、メディアデザインを目的とする各専修コースには、高度な専門科目が設置され、コースや複合スキルを意識した学修の実践とキャリアデザインに即した専門知識を修得が可能である	1,442	23.3%
3	卒業研究・卒業制作を通して、情報システム技術者、映像や音響などメディアコンテンツに関わる制作者やデザイナー・技術者など、目標とするキャリアの実践力を身につけることができる研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる	1,196	19.4%
4	コースごとの専門科目のほか、各コース共通の専門科目を設置し、情報システムやメディアコンテンツ・メディア技術、メディアデザインなど多種の研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる	1,342	21.7%

● 予定している入学定員 120 名を上回る 164 人が入学意欲を示した。

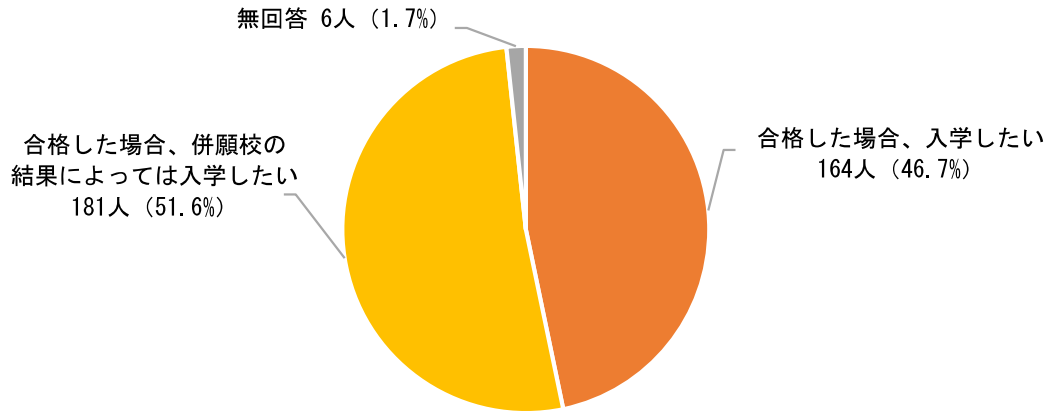
当該学部学科の概要を示し、受験・入学意欲について回答を求めた。その結果、351 人（5.7%）が当該学部学科を「受験したい」と回答した。「受験したい」と回答した 351 人に入学意欲を問う設問においては、強い入学意欲をもつと考えられる「合格した場合、入学したい」の回答は 164 人（上記 351 人の 46.7%）であった。また「合格した場合、併願校の結果によっては入学したい」と回答したのは 181 人（51.6%）であった。

当該学部学科の入学定員は 120 名であり、それを十分に上回る受験・入学意欲を得た。

【グラフ】当該学部学科への受験意欲について＜問 6 の結果より＞



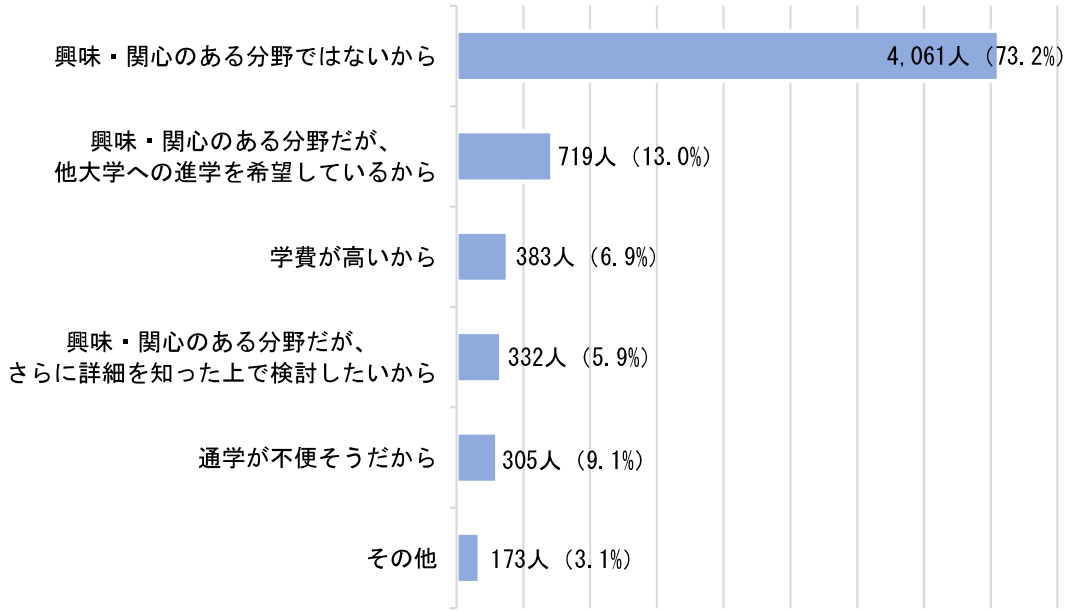
【グラフ】当該学部学科への入学意欲について＜問 8 の結果より＞



● 受験しない理由については、「興味・関心のある分野ではないから」が約 7 割。

問 6 で「受験したいと思わない」と回答した 5,546 人に、当該学部学科を受験しない理由について質問した。その結果、回答の多い順に「興味・関心のある分野ではないから」が 4,061 人（73.2%）、「興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから」が 719 人（13.0%）、「学費が高いから」が 383 人（6.9%）、「興味・関心のある分野だが、さらに詳細を知った上で検討したいから」が 332 人（6.0%）、「通学が不便そうだから」が 305 人（9.1%）、「その他」が 173 人（3.1%）となった。

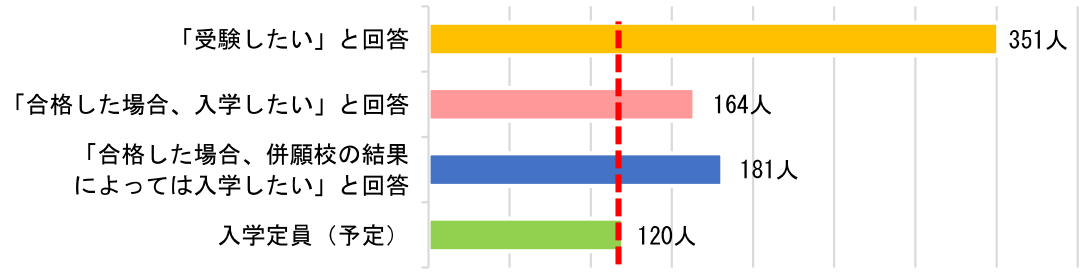
【グラフ】受験しない理由について＜問 9 の結果より＞



４．「収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査」集計結果の分析

アンケートの集計結果より当該学部学科への受験・入学意欲がある者の数は、以下の通りである。

【グラフ】当該学部学科への受験意欲・入学意欲について（全体集計）

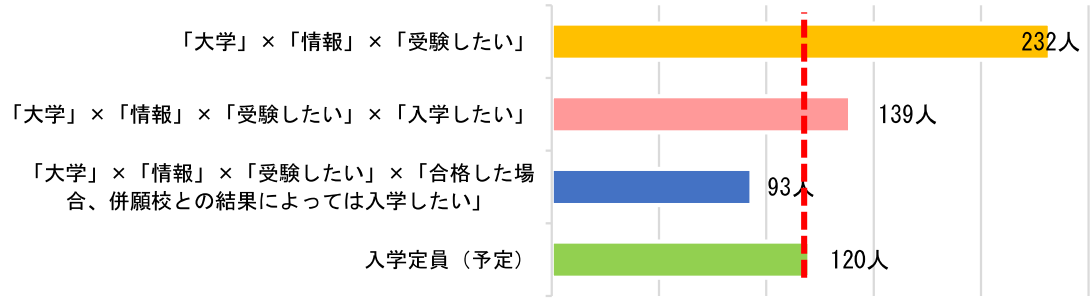


また、当該学部学科への受験・入学意欲がある者の希望進路（問 3)、学問分野（問 4)、受験意欲（問 6)、入学意欲（問 8）のクロス集計結果は、以下の通りである。

【表】当該学部学科への受験・入学意欲について（クロス集計）

希望進路（問 3）		学問分野（問 4）		受験意欲（問 6）		入学意欲（問 8）	
選択項目	回答数	選択項目	回答数	選択項目	回答数	選択項目	回答数
大学	3,623	情報	613	受験したい	232	合格した場合、入学したい	139
						合格した場合、併願校の結果によっては入学したい	93

【グラフ】当該学部学科への受験意欲・入学意欲について（クロス集計）



以上の結果より、名古屋文理大学が 2024（令和 6）年 4 月に構想する「情報メディア学部情報メディア学科」の収容定員増加に係るアンケート調査では、全体では「受験したい」と回答した 351 人のうち、164 人が「合格した場合、入学したい」と回答した。また、クロス集計結果では「大学」×「情報」×「受験したい」と回答した 232 人のうち、139 人が「合格した場合、入学したい」と強い入学意欲をした。

予定する入学定員 120 名を十分に上回る回答結果を得られため、当該学部学科の学生確保の見通しは問題なしと判断できる。

以上

添付資料

名古屋文理大学

「概要説明プリント」

「収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査用紙」

「収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査用紙(Web フォーム)」

【概要説明プリント（1/4)】

名古屋文理大学

NAGOYA BUNRI

情報メディア学部 情報メディア学科

情報メディア学部 情報メディア学科では、

2024年４月に収容定員増加を予定しています。



【概要説明プリント（2/4)】

情報メディア学部 情報メディア学科【概要】

収容定員増加時期	所在地	入学定員	取得学位
2024年4月	愛知県稲沢市稲沢町前田365	120名 / 3年次編入 2名 (収容定員484名)	学士（情報メディア学）

2024年4月より入学定員を100名から120名に増員、３年次編入学定員を2名を設け、収容定員の増加を予定しています。

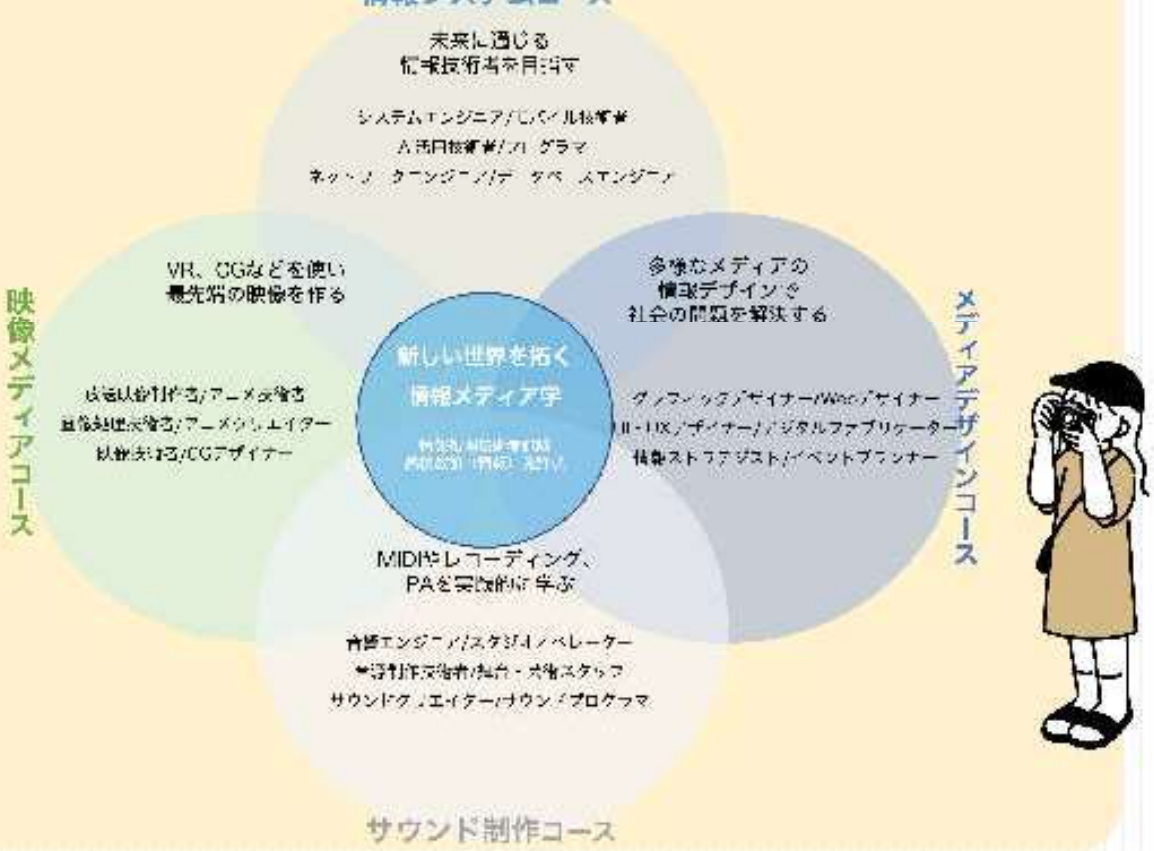
01

養成する人材像

情報メディア学部は、情報の持つ社会的役割を多面的に教育研究し、情報社会で不可欠な情報システウやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用能力、コミュニケーション能力、創作能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を養成します。

02

各コースについて



【概要説明プリント（3/4)】

03

カリキュラムの特徴

- 大学生としての基礎学力と教養を高めるための基礎教育科目と、情報メディアの各分野において、即戦力となる人材を育成するための専門教育科目をバランスよく学ぶことができる
- 情報システム開発、映像コンテンツ制作、サウンド制作、メディアデザインを目的とする各専修コースには、高度な専門科目が設置され、コースや複合スキルを意識した学習の実践とキャリアデザインに即した専門知識の修得が可能である
- コースごとの専門科目のほか、各コース共通の専門科目を設置。情報システムやメディアコンテンツ・メディア技術、メディアデザインなど多種の研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる
- 卒業研究・卒業制作を通して、情報システム技術者、メディアコンテンツに関わる制作者やデザイナー・技術者など、目標とするキャリアの実践力を身につけることができる研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる

04

取得可能な資格と卒業後の進路



【取得可能な資格】

ITパスポート試験 / 基本情報技術者試験

→上記の資格を取得すると、対応する科目の単位が認定されます。

応用情報技術者試験 / 高度情報処理技術者試験 / 高等学校教諭一種免許状［情報］

MIDI検定 / 色彩検定 / MOS（マイクロソフトオフィス スペシャリスト） / TOEIC®

日本漢字能力検定 / マルチメディア検定 / CGエンジニア検定 / CGクリエイター検定

画像処理エンジニア検定 / Webデザイナー検定 / 日本語ワープロ検定

文書デザイン検定 / 情報処理技能検定[表計算、データベース] /

プレゼンテーション作成検定 / 文章入力スピード認定試験 / Pro Tools技術認定試験

【卒業後の進路】

情報通信業会をはじめ、様々な業種で活躍しています。2022年度就職率**94.0%**！

情報通信 / CG・映像・サウンド・クリエイティブ / 製造業 / サービス / 公務員・公的機関

教育・団体・・・・など

【概要説明プリント（4/4）】

初年度学費

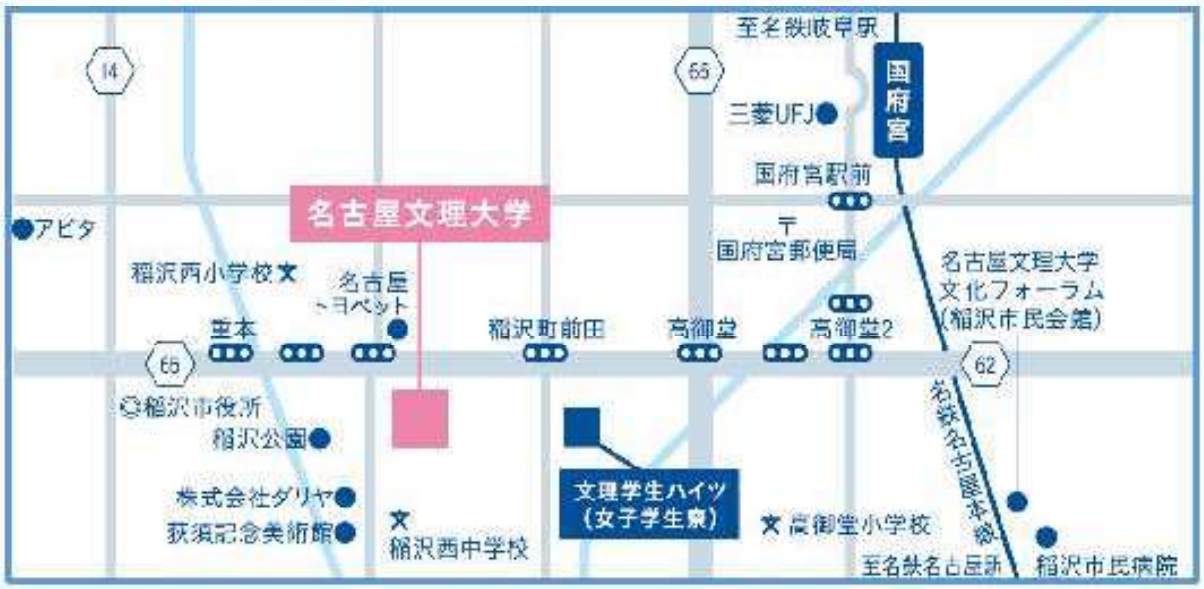
大学名	学部名	学科名	入学金	授業料	施設設備費	その他	初年次合計
名古屋文理	情報メディア	情報メディア	200,000円	750,000円	200,000円	230,000円	1,380,000円
【以下、名古屋文理大学情報メディア学部情報メディア学科に類似する学部・学科一覧】							
名城	都市情報	都市情報	200,000円	835,000円	310,000円		1,345,000円
愛知淑徳	人間情報	人間情報	200,000円	760,000円	-	435,000円	1,395,000円
人間環境	環境科学	データサイエンス	200,000円	700,000円	-	430,000円	1,330,000円
大同	情報学	情報デザイン	300,000円	890,000円	315,000円		1,505,000円

※その他には、実習費や教育充実費が含まれます。※他大学の学費は大学ホームページより掲載。

Access

▷名鉄「名鉄名古屋」駅から

名鉄名古屋本線、名鉄一宮・名鉄岐阜方面行きに乗車、特急11分・急行16分、「国府宮」駅下車。
※注意：「犬山経由名鉄岐阜行き」は「国府宮」を通りません。ご乗車にならないようご注意下さい。
JRを利用される方は、名古屋駅で名鉄電車への乗り換えが必要です



＼大学ホームページはこちら／

NAGOYA BUNRI

名古屋文理大学　情報メディア学部 情報メディア学科
〒492-8520
愛知県稲沢市稲沢町前田365　TEL: 0587-23-2400

【収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査用紙（1/2)】

名古屋文理大学　情報メディア学部 情報メディア学科　収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査

対象：2022年度高校２年生の皆様（2023年度高校3年生の皆様）

名古屋文理大学では、現在、情報メディア学部情報メディア学科（定員100名）を設置しています。2024年4月より、情報メディア学部情報メディア学科の入学定員を100名から120名へ増員することを構想しています。本学では、2024年に進学時期を迎える皆様から、ご意見をお聞きし、今後の構想内容に反映したいと考えております。なお、回答いただいた皆様から得られた情報は、統計資料及び文部科学省への提出書類の一部としてのみ活用いたします。本アンケートでは、個人が特定されることはございません。つきましては、別紙の概要をご覧いただいた上で、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

※このアンケート調査は名古屋文理大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※概要及びアンケートに記載されている学則変更内容については予定であり、変更される可能性があります。

【アンケート記入にあたっての注意事項】

①記入はあず黒鉛筆で、○の中を正確にマークしてください。

②訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。

③回答用紙（マークシート）を汚したり、破損したりしないでください。



正しい回答のように丁寧にマークしてください。誤った回答のような場合、正確に読み込めず判別できない場合があります。

問１ あなたのお住まいをお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

○ 愛知県　○ 岐阜県　○ 三重県　○ その他 [　　]

問２ あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

○ 男性　○ 女性　○ 回答しない

問３ 高校卒業後の希望進路についてお答えください（あてはまるもの全てにマーク）

○ 大学　○ 短期大学　○ 専門学校　○ 就職　○ その他 [　　]

問４ あなたが関心のある学問分野をお答えください。（あてはまるもの全てにマーク）

○ 情報	○ 理学・工学	○ 教育・保育	○ スポーツ・体育
○ 文学・歴史・心理	○ 経済・経営・ビジネス	○ 法学・政治	○ 社会・社会福祉・観光
○ 外国語・国際関係	○ 医学・歯学・薬学	○ 看護・医療	○ 栄養・家政
○ 芸術	○ その他		

問５ 本学の情報メディア学部情報メディア学科には次のような特色があります。あなたの興味・関心があるものを選んでください。（あてはまるもの全てにマーク）

○ 大学生としての基礎学力と教養を高めるための基礎教育科目と、情報メディアの各分野において即戦力となる人材を育成するための専門教育科目をバランスよく学ぶことができる

○ 情報システム開発、映像コンテンツ制作、サウンド制作、メディアデザインを目的とする各専修コースには、高度な専門科目が設置され、コースや複合スキルを意識した学修の実践とキャリアデザインに即した専門知識を修得が可能である

○ コースごとの専門科目のほか、各コース共通の専門科目を設置し、情報システムやメディアコンテンツ・メディア技術、メディアデザインなど多種の研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる

○ 卒業研究・卒業制作を通して、情報システム技術者、映像や音響などメディアコンテンツに関わる制作者やデザイナー・技術者など、目標とするキャリアの実践力を身につけることができる研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる

1

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

【収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査用紙（2/2）】

問６ あなたは本学の情報メディア学部を受験したいと思いますか。（あてはまるもの１つにマーク）

- ○ 受験したい　→問7・問8にお答えください
- ○ 受験したいと思わない　→問9にお答えください

問7・問8は問６で「受験したい」と回答した方のみにお尋ねします。
問７ あなたが情報メディア学部情報メディア学科において取得したい資格を選んでください。（あてはまるもの全てにマーク）

- ○ ITパスポート（iパス）
- ○ 基本情報技術者
- ○ 応用情報技術者
- ○ 高度情報処理技術者
- ○ MIDI検定
- ○ マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）
- ○ TOEICやTOEFLなどの語学系資格
- ○ その他

問８ あなたは本学の情報メディア学部情報メディア学科を受験し、合格した場合、入学したいと思いますか。（あてはまるもの１つにマーク）

- ○ 合格した場合、入学したい
- ○ 合格した場合、併願校の結果によっては入学したい

問9は、問６で「受験したいと思わない」と回答した方のみにお尋ねします。
問９ あなたが情報メディア学部情報メディア学科を「受験したいと思わない」と回答された理由をお答えください。（あてはまるもの全てにマーク）

- ○ 興味・関心のある分野ではないから
- ○ 興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから
- ○ 興味・関心のある分野だが、さらに詳細を知った上で検討したいから
- ○ 通学が不便そうだから
- ○ 学費が高いから
- ○ その他

アンケートは以上です。ご協力いただきありがとうございました。

2

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

【収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査用紙(Web フォーム）（1/4)】



名古屋文理大学　情報メディア学部情報メディア学科収容定員増加構想に関する
高校生アンケート調査

対象：2022年度高校２年生の皆様（2023年度高校3年生の皆様）

1ページ目（全4ページ）

名古屋文理大学では、現在、情報メディア学部情報メディア学科（定員100名）を設置しています。2024年4月より、情報メディア学部情報メディア学科の入学定員を100名から120名へ増員することを構想しています。本学では、2024年に進学時期を迎える皆様から、ご意見をお聞きし、今後の構想内容に反映したいと考えております。なお、回答いただいた皆様から得られた情報は、統計資料及び文部科学省への提出書類の一部としてのみ活用いたします。

本アンケートでは、個人が特定されることはございません。つきましては、別紙の概要をご覧いただいた上で、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

※このアンケート調査は名古屋文理大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。※概要及びアンケートに記載されている学則変更内容については予定であり、変更される可能性があります。

規約に同意する 必須

このアンケートは、おひとりにつき、一回までとなります。

同意する

次へ

【収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査用紙(Web フォーム）(2/4)】



名古屋文理大学　情報メディア学部情報メディア学科収容定員増加構想に関する
高校生アンケート調査

対象：2022年度高校２年生の皆様（2023年度高校3年生の皆様）

2ページ目（全4ページ）

問１あなたのお住まいをお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）
必須

- ☐ 愛知県
- ☐ 岐阜県
- ☐ 三重県
- ☐ その他

その他を選択された方は、お住いの都道府県をご記入ください。

問２あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの１つにマーク） 必須

- ◯ 男性
- ◯ 女性
- ◯ 回答しない

問３高校卒業後の希望進路についてお答えください（あてはまるもの全てにマーク） 必須

- ☐ 大学
- ☐ 短期大学
- ☐ 専門学校
- ☐ 就職
- ☐ その他

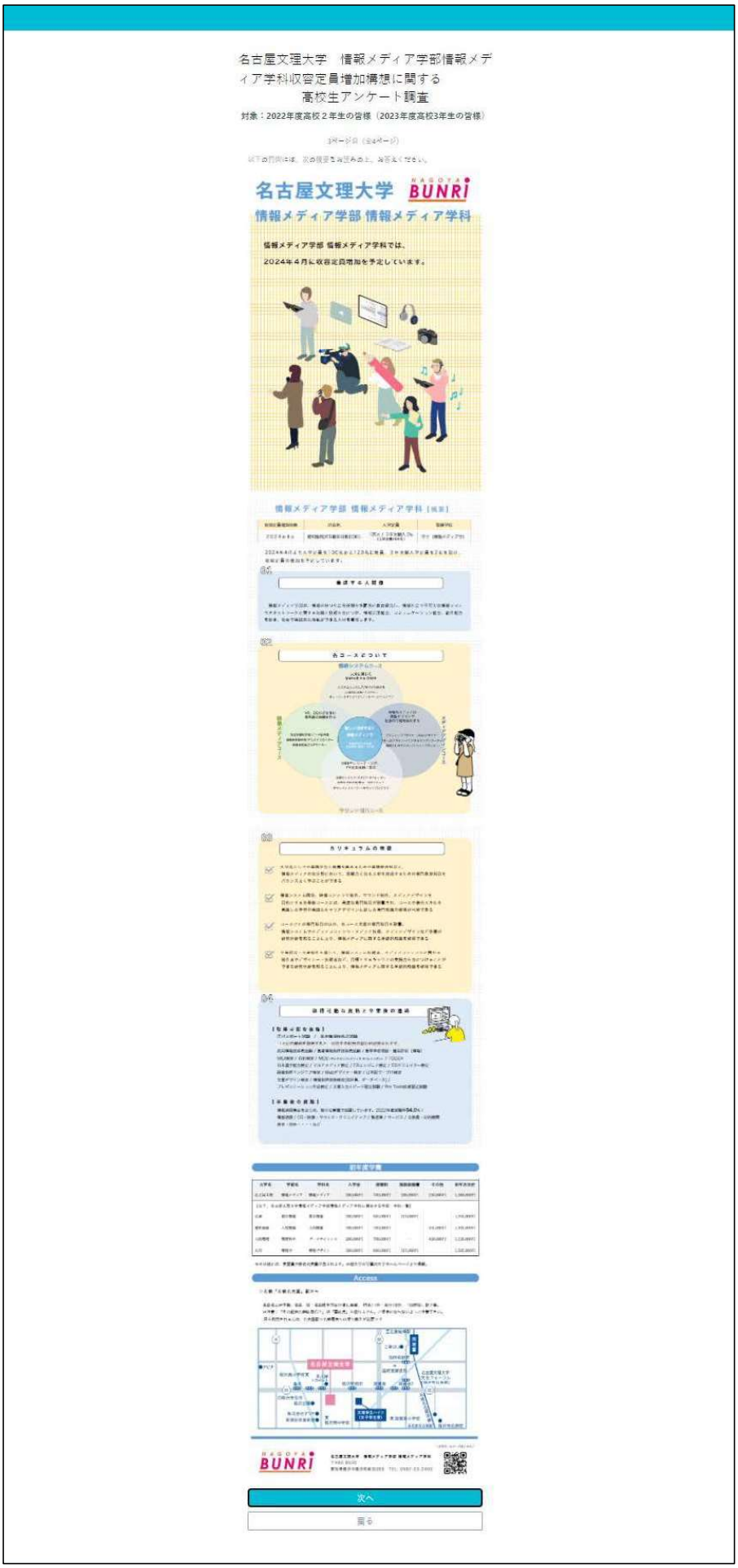
問４あなたが関心のある学問分野をお答えください。（あてはまるもの全てにマーク） 必須

- ☐ 情報
- ☐ 理学・工学
- ☐ 教育・保育
- ☐ スポーツ・体育
- ☐ 文学・歴史・心理
- ☐ 経済・経営・ビジネス
- ☐ 法学・政治
- ☐ 社会・社会福祉・観光
- ☐ 外国語・国際関係
- ☐ 医学・歯学・薬学
- ☐ 看護・医療
- ☐ 栄養・家政
- ☐ 芸術
- ☐ その他

次へ

戻る

【収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査用紙(Web フォーム）(3/4)】


名古屋文理大学　情報メディア学部情報メディア学科収容定員増加構想に関する
高校生アンケート調査

対象：2022年度高校２年生の皆様（2023年度高校3年生の皆様）

名古屋文理大学 BUNRI

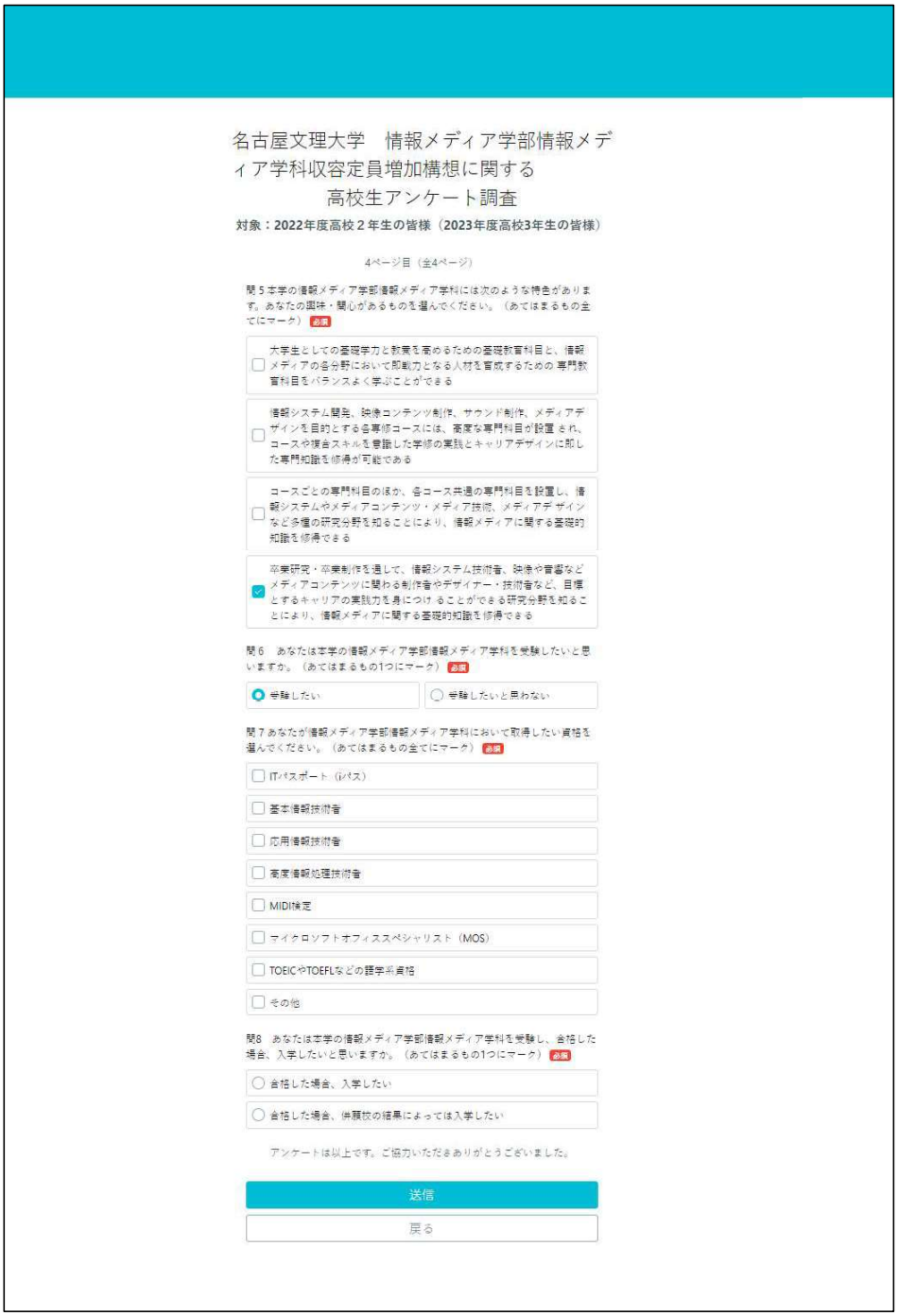
情報メディア学部 情報メディア学科

情報メディア学部 情報メディア学科では、
2024年４月に収容定員増加を予定しています。

次へ

戻る

【収容定員増加構想に関する高校生アンケート調査用紙(Web フォーム)（4/4)】



名古屋文理大学　情報メディア学部情報メディア学科収容定員増加構想に関する
高校生アンケート調査

対象：2022年度高校２年生の皆様（2023年度高校3年生の皆様）

4ページ目（全4ページ）

問５本学の情報メディア学部情報メディア学科には次のような特色があります。あなたの関心があるものを選んでください。（あてはまるもの全てにマーク）必須

- [ ] 大学生としての基礎学力と教養を高めるための基礎教育科目と、情報メディアの各分野において即戦力となる人材を育成するための専門教育科目をバランスよく学ぶことができる
- [ ] 情報システム開発、映像コンテンツ制作、サウンド制作、メディアデザインを目的とする各専修コースには、高度な専門科目が設置され、コースや複合スキルを意識した学修の実践とキャリアデザインに即した専門知識を修得が可能である
- [ ] コースごとの専門科目のほか、各コース共通の専門科目を設置し、情報システムやメディアコンテンツ・メディア技術、メディアデザインなど多種の研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる
- [x] 卒業研究・卒業制作を通して、情報システム技術者、映像や音響などメディアコンテンツに関わる制作者やデザイナー・技術者など、目標とするキャリアの実践力を身につけることができる研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる

問６　あなたは本学の情報メディア学部情報メディア学科を受験したいと思いますか。（あてはまるもの1つにマーク）必須

- (●) 受験したい
- ( ) 受験したいと思わない

問７あなたが情報メディア学部情報メディア学科において取得したい資格を選んでください。（あてはまるもの全てにマーク）必須

- [ ] ITパスポート（iパス）
- [ ] 基本情報技術者
- [ ] 応用情報技術者
- [ ] 高度情報処理技術者
- [ ] MIDI検定
- [ ] マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）
- [ ] TOEICやTOEFLなどの語学系資格
- [ ] その他

問８　あなたは本学の情報メディア学部情報メディア学科を受験し、合格した場合、入学したいと思いますか。（あてはまるもの1つにマーク）必須

- ( ) 合格した場合、入学したい
- ( ) 合格した場合、併願校の結果によっては入学したい

アンケートは以上です。ご協力いただきありがとうございました。

送信

戻る

資料4

名古屋文理大学
情報メディア学部　情報メディア学科
学生確保の見通し調査
【収容定員増加構想（３年次編入学）に関するアンケート調査】
報告書

令和５年６月１５日

株式会社高等教育総合研究所

目次

１．　「収容定員増加構想（３年次編入学）に関するアンケート調査」概要　2

２．　「収容定員増加構想（３年次編入学）に関するアンケート調査」集計結果　3

３．　「収容定員増加構想（３年次編入学）に関するアンケート調査」集計結果のポイント　6

４．　「収容定員増加構想（３年次編入学）に関するアンケート調査」集計結果の分析　12

添付資料　14

名古屋文理大学
「概要説明プリント」　15
「収容定員増加構想（３年次編入学）に関するアンケート調査用紙」　19

１.「収容定員増加構想（３年次編入学）に関するアンケート調査」概要

調査目的	名古屋文理大学が 2024（令和 6）年度に情報メディア学部情報メディア学科の収容定員増加構想に伴い、3 年次編入学（入学定員：2 名）を設けるにあたって、学生確保の見通しを第三者機関によりアンケート調査を用いて計ることを目的とする。
調査対象	2024（令和 6）年度に 3 年次編入学を受験する可能性が最も高い短期大学生、専門学校生等（2024 年 3 月卒業予定者）をアンケートの対象とした。当該学部学科の学生確保の基盤となる愛知県を中心に抽出した短期大学、専門学校等にアンケート調査実施を依頼し、6 校 399 件の回答を得た。
調査内容	● 問 1～3：回答者の基本情報（居住地、性別、在籍する学校） ● 問 4～5：卒業後の希望進路、興味・関心のある学問分野 ● 問 6：当該学部学科の特色に対する興味・関心 ● 問 7：当該学部学科への受験意欲 ● 問 8：当該学部学科への入学意欲 ● 問 9：当該学部学科を受験しない理由 以上、全 9 問で主に選択肢式。
wo	2023（令和 5）年 4 月～5 月
調査方法	アンケート調査実施の了承が得られた専門高等学校専攻科、短期大学、専門学校等にアンケート用紙及び概要説明プリント（必要部数）を送付。教職員から調査対象者に配布の上、アンケート調査用紙により回答いただいた。
回収件数	有効回答数 399 件

２.「収容定員増加構想（３年次編入学）に関するアンケート調査」集計結果

※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。

問 1　あなたのお住まいをお答えください。（あてはまるもの 1 つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	愛知県	321	80.5%
2	岐阜県	30	7.5%
3	三重県	41	10.3%
4	その他	6	1.5%
5	無回答	1	0.3%
合計		399	100.0%

問 2　あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの 1 つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	男性	82	20.6%
2	女性	315	78.9%
3	その他	2	0.5%
合計		399	100.0%

問 3　あなたが在籍する学校をお答えください。（あてはまるもの 1 つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	短期大学 2 年生	312	78.2%
2	専門学校 2 年生以上	44	11.0%
3	高等学校専攻科 2 年生	33	8.3%
4	その他	9	2.3%
5	無回答	1	0.3%
合計		399	100.0%

問 4　卒業後の希望進路についてお答えください。（あてはまるもの全てにマーク）

No	選択項目	回答数	回答率
1	大学（編入学）	31	7.8%
2	大学(1 年次入学)	3	0.8%
3	短期大学	3	0.8%
4	専門学校	5	1.3%
5	その他進学（大学院等）	8	2.0%
6	就職	362	90.7%
7	その他	17	4.3%

※複数回答項目のため、回答数は延べ。回答率は回答件数／回答者数（399 人）

問 5　あなたが関心のある学問分野をお答えください。（あてはまるもの全てにマーク）

No	選択項目	回答数	回答率
1	情報	64	16.0%
2	理学・工学	40	10.0%
3	教育・保育	142	35.6%
4	スポーツ・体育	60	15.0%
5	文学・歴史・心理	43	10.8%
6	経済・経営・ビジネス	20	5.0%
7	法学・政治	4	1.0%
8	社会・社会福祉・観光	36	9.0%
9	外国語・国際関係	44	11.0%
10	医学・歯学・薬学	19	4.8%
11	看護・医療	71	17.8%
12	栄養・家政	106	26.6%
13	芸術	49	12.3%
14	その他	31	7.8%

※複数回答項目のため、回答数は延べ。回答率は回答件数／回答者数（399 人）

問 6　本学の情報メディア学部情報メディア学科には以下のような特色があります。この中から魅力的だと感じる特色をお選びください。（あてはまるもの全てにマーク）

No	選択項目	回答数	回答率
1	大学生としての基礎学力と教養を高めるための基礎教育科目と、情報メディアの各分野において、即戦力となる人材を育成するための専門教育科目をバランスよく学ぶことができる	176	44.1%
2	情報システム開発、映像コンテンツ制作、サウンド制作、メディアデザインを目的とする各専修コースには、高度な専門科目が設置され、コースや複合スキルを意識した学習の実践とキャリアデザインに即した専門知識の修得が可能である	111	27.8%
3	コースごとの専門科目のほか、各コース共通の専門科目を設置。情報システムやメディアコンテンツ・メディア技術、メディアデザインなど多種の研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる	108	27.1%
4	卒業研究・卒業制作を通して、情報システム技術者、メディアコンテンツに関わる制作者やデザイナー・技術者など、目標とするキャリアの実践力を身につけることができる研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる	80	20.1%

※複数回答項目のため、回答数は延べ。回答率は回答件数／回答者数（399 人）

問 7　あなたは本学の情報メディア学部情報メディア学科 3 年次編入学試験を受験したいと思いますか。（あてはまるもの 1 つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	受験したい	16	4.0%
2	受験したいと思わない	359	90.0%
3	無回答	24	6.0%
合計		399	100.0%

問 8 は、問 7 で「1. 受験したい」とした 16 人が回答対象である。

問 8　あなたは本学の情報メディア学部情報メディア学科の編入学試験を受験し、合格した場合、入学したいと思いますか。（あてはまるもの 1 つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	入学したい	9	56.3%
2	併願校の結果によっては入学したい	7	43.8%
合計		16	100.0%

問 9 は、問 7 で「2. 受験したいと思わない」とした 359 人が回答対象である。

問 9　あなたが情報メディア学部情報メディア学科を「受験したいと思わない」と回答された理由をお答えください。（あてはまるもの全てにマーク）

No	選択項目	回答数	回答率
1	興味・関心のある分野ではないから	256	71.3%
2	興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから	14	3.9%
3	興味・関心のある分野だが、さらに詳細を知った上で検討したいから	29	8.1%
4	通学が不便そうだから	21	5.8%
5	学費が高いから	38	10.6%
6	その他	22	6.1%

※複数回答項目のため、回答数は延べ。回答率は回答件数／回答者数（359 人）

３．「収容定員増加構想（３年次編入学）に関するアンケート調査」集計結果のポイント

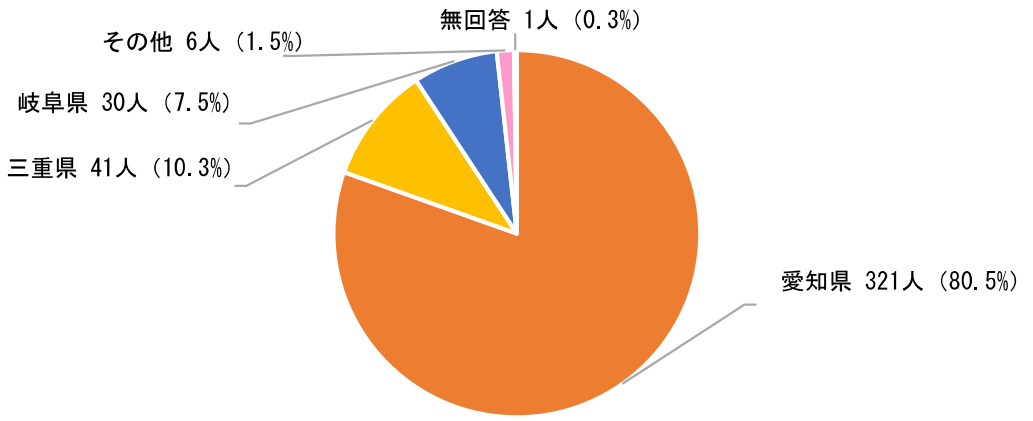
※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。

● 回答者の居住地は、当該学部学科が所在する愛知県が約 8 割を占める。

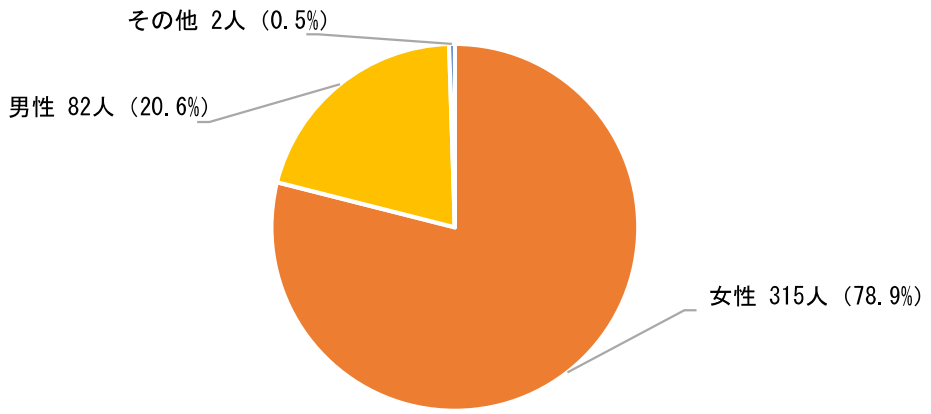
名古屋文理大学が 2024（令和 6）年度に構想している情報メディア学部情報メディア学科の入学定員増に係る「収容定員増加構想（3 年次編入学）に関するアンケート調査」において、有効回答 399 件の集計を行った。

その結果、回答者の居住地については、「愛知県」が 321 人（80.5%）で最も多く、次いで「三重県」が 41 人（10.3%）、「岐阜県」が 30 人（7.5%）、「その他」が 6 人（1.5%）、無回答が 1 人（0.3%）となった。回答者の性別については、「女性」が 315 人（78.9%）、「男性」が 82 人（20.6%）、「その他」が 2 人（0.5%）となった。

【グラフ】回答者の居住地について＜問 1 の結果より＞



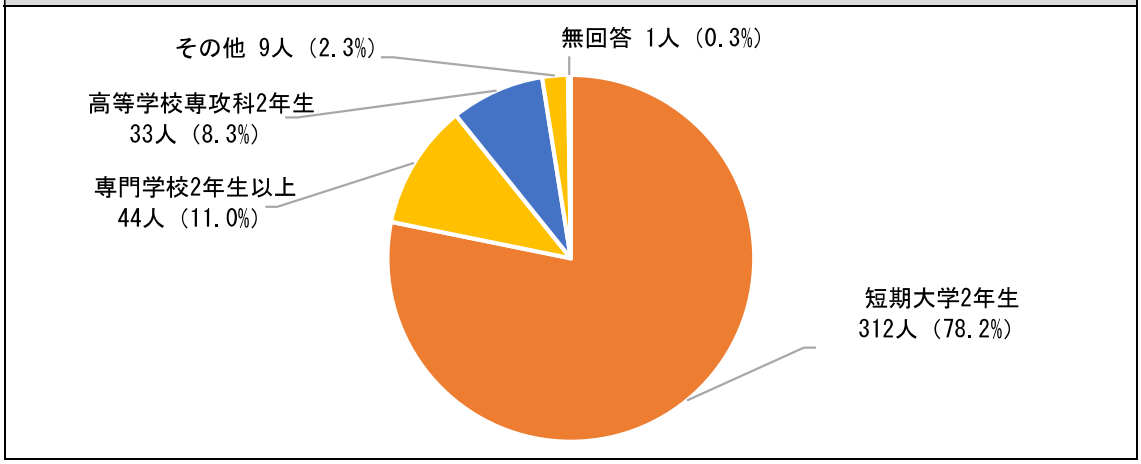
【グラフ】回答者の性別について＜問 2 の結果より＞



● 回答者の在籍する学校は、短期大学 2 年生が約 8 割を占める結果となった。

回答者の在籍する学校と学年については、大学 3 年次編入学の資格を有する（見込み）「短期大学 2 年生」が 312 人（78.2%）で最も多く、次いで「専門学校 2 年生以上」が 44 人（11.0%）、「高等学校専攻科 2 年生」が 33 人（8.3%）、「その他」が 9 人（2.3%）、無回答が 1 人（0.3%）となった。

【グラフ】回答者の在籍する学校について＜問 3 の結果より＞

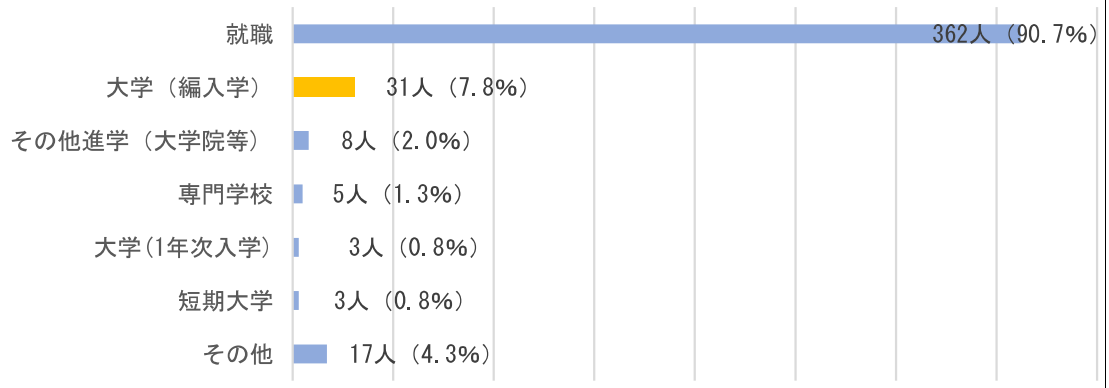


● 大学(編入学)を希望する者は 31 人、情報の分野に興味のある者は 64 人であった。

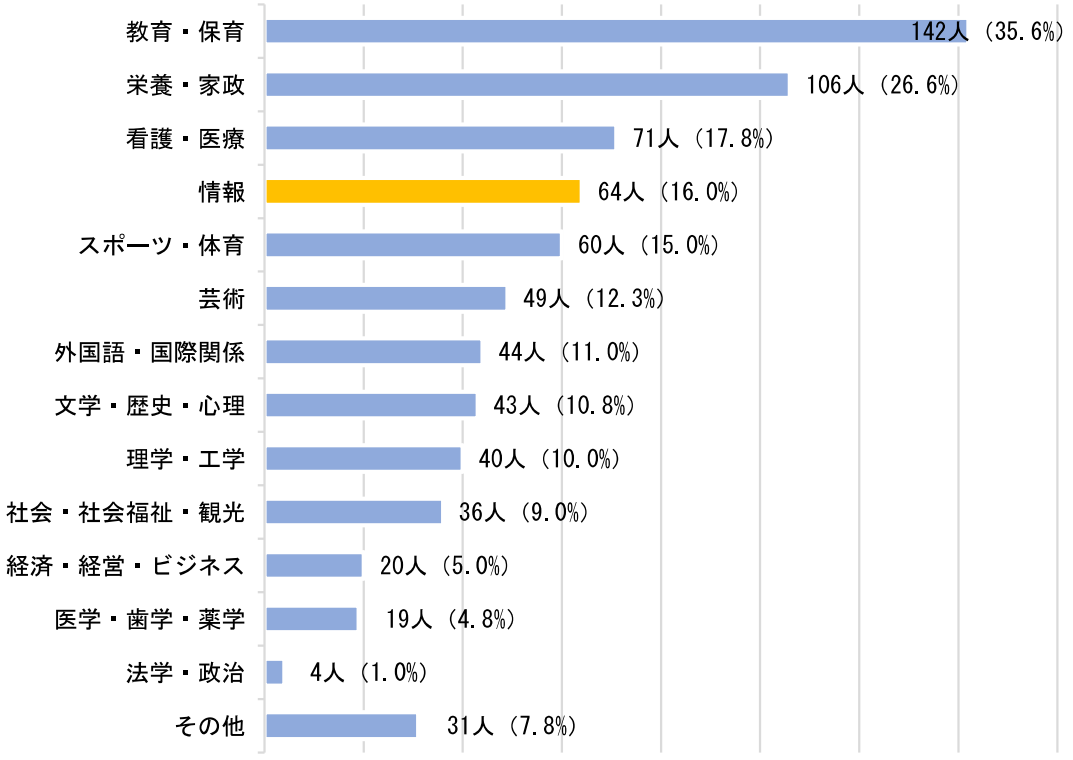
卒業後の希望進路については、「大学（編入学)」を希望する者は 31 人（7.8%）であり、その他の回答については「就職」が 362 人（90.7%）、「その他進学（大学院等）」が 8 人（2.0%）、「専門学校」が 5 人（1.3%）、「大学(1 年次入学）」が 3 人（0.8%）、「短期大学」が 3 人（0.8%）、「その他」が 17 人（4.3%）となった。

興味・関心のある学問分野については、当該学部学科に関連する学問分野の「情報」に対し、64 人（16.0%）の者が興味を示す結果であった。

【グラフ】卒業後の希望進路について＜問 4 の結果より＞



【グラフ】興味・関心のある学問分野について＜問 5 の結果より＞



● 当該学部学科の 4 つの特色、それぞれに興味・関心を示す。

当該学部学科の４つ特色の中で興味・関心のあるものについてたずねた質問では、回答の多い順に「大学生としての基礎学力と教養を高めるための基礎教育科目と、情報メディアの各分野において、即戦力となる人材を育成するための専門教育科目をバランスよく学ぶことができる」が 176 人（44.1%）、「情報システム開発、映像コンテンツ制作、サウンド制作、メディアデザインを目的とする各専修コースには、高度な専門科目が設置され、コースや複合スキルを意識した学習の実践とキャリアデザインに即した専門知識の修得が可能である」が 111 人（27.8%）、「コースごとの専門科目のほか、各コース共通の専門科目を設置。情報システムやメディアコンテンツ・メディア技術、メディアデザインなど多種の研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる」が 108 人（27.1%）、「卒業研究・卒業制作を通して、情報システム技術者、メディアコンテンツに関わる制作者やデザイナー・技術者など、目標とするキャリアの実践力を身につけることができる研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる」が 80 人（20.1%）であった。

【表】当該学部学科の特色に対する興味・関心について＜問 6 の結果より＞

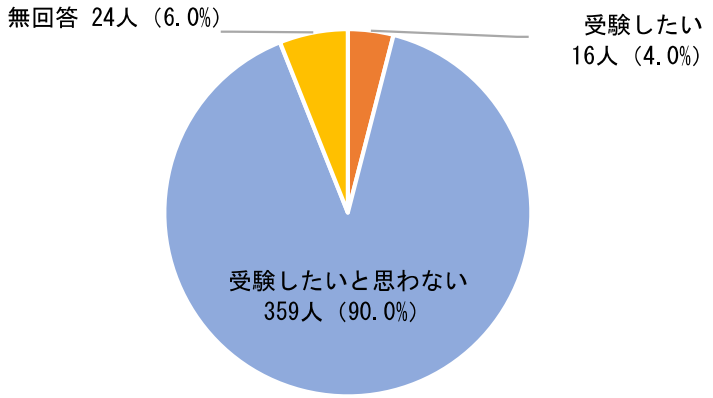
No	選択項目	回答数	回答率
1	大学生としての基礎学力と教養を高めるための基礎教育科目と、情報メディアの各分野において、即戦力となる人材を育成するための専門教育科目をバランスよく学ぶことができる	176	44.1%
2	情報システム開発、映像コンテンツ制作、サウンド制作、メディアデザインを目的とする各専修コースには、高度な専門科目が設置され、コースや複合スキルを意識した学習の実践とキャリアデザインに即した専門知識の修得が可能である	111	27.8%
3	コースごとの専門科目のほか、各コース共通の専門科目を設置。情報システムやメディアコンテンツ・メディア技術、メディアデザインなど多種の研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる	108	27.1%
4	卒業研究・卒業制作を通して、情報システム技術者、メディアコンテンツに関わる制作者やデザイナー・技術者など、目標とするキャリアの実践力を身につけることができる研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる	80	20.1%

● 予定している 3 年次編入学の入学定員 2 名を上回る 9 人が入学意欲を示す。

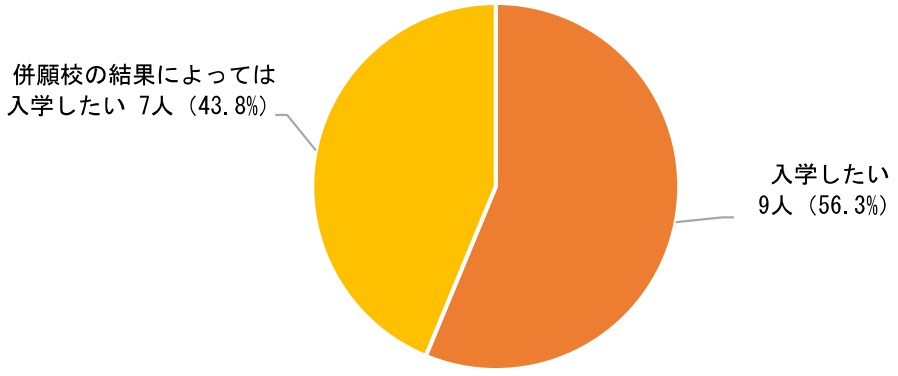
当該学部学科の概要を示し、受験・入学意欲について回答を求めた。その結果、16 人（4.0%）が当該学部学科を「受験したい」と回答した。「受験したい」と回答した 16 人に入学意欲を問う質問においては、強い入学意欲をもつと考えられる「入学したい」の回答は 9 人（上記 16 人の 56.3%）であった。また「併願校の結果によっては入学したい」と回答したのは 7 人（43.8%）であった。

当該学部学科の 3 年次編入学の入学定員は 2 名であり、それを充足する受験・入学意欲を得た。

【グラフ】当該学部学科への受験意欲について＜問 7 の結果より＞



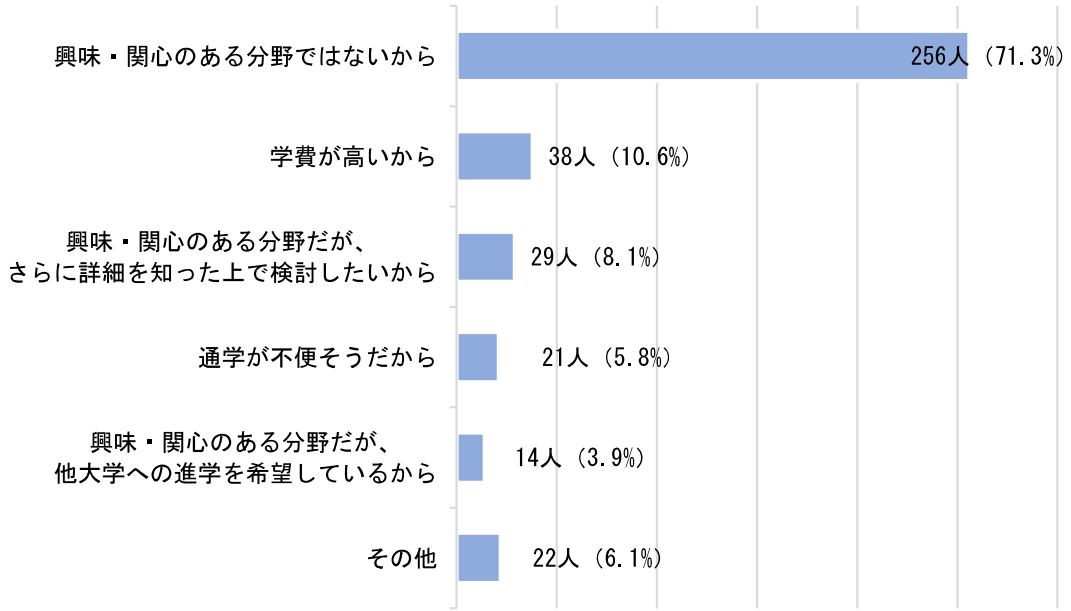
【グラフ】当該学部学科への入学意欲について＜問 8 の結果より＞



● 受験しない理由については、「興味・関心のある分野ではないから」が約 7 割。

問 7 で「受験したいと思わない」と回答した 359 人に、当該学部学科を受験しない理由についての質問では、「興味・関心のある分野ではないから」が 256 人（71.3%）で最も多く、次いで「学費が高いから」が 38 人（10.6%）、「興味・関心のある分野だが、さらに詳細を知った上で検討したいから」が 29 人（8.1%）、「通学が不便そうだから」が 21 人（5.8%）、「興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから」が 14 人（3.9%）、「その他」が 22 人（6.1%）であった。

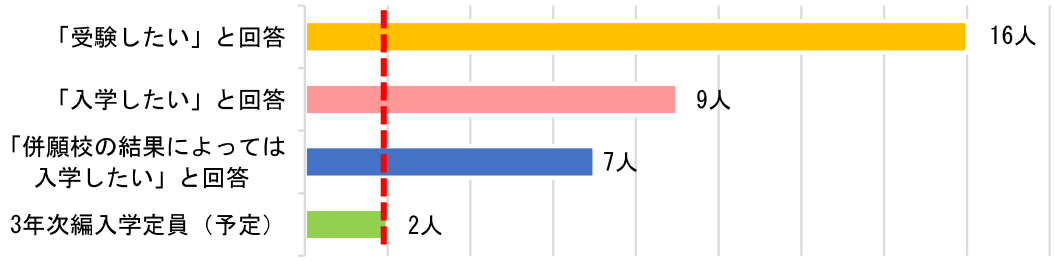
【グラフ】受験しない理由について＜問 9 の結果より＞



４．「収容定員増加構想（３年次編入学）に関するアンケート調査」集計結果の分析

アンケートの集計結果より当該学部学科への受験・入学意欲がある者の数は、以下の通りである。

【グラフ】当該学部学科への受験意欲・入学意欲について（全体集計）

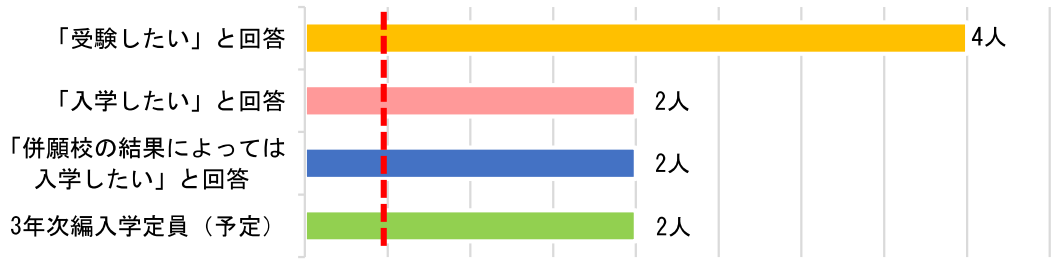


また、大学３年次編入学の資格を有する（見込み）学校に在籍する 389 人（問 3）のうち、当該学部学科への受験・入学意欲がある者の希望進路（問 4）、学問分野（問 5）、受験意欲（問 7）、入学意欲（問 8）のクロス集計結果は、以下の通りである。

【表】当該学部学科への受験・入学意欲について（クロス集計）

希望進路（問 4）		学問分野（問 5）		受験意欲（問 7）		入学意欲（問 8）	
選択項目	回答数	選択項目	回答数	選択項目	回答数	選択項目	回答数
大学（編入学）	31	情報	10	受験したい	4	合格した場合、入学したい	2
						合格した場合、併願校の結果によっては入学したい	2

【グラフ】当該学部学科への受験意欲・入学意欲について（クロス集計）



以上の結果より、名古屋文理大学が 2024（令和 6）年 4 月に構想する「情報メディア学部情報メディア学科」の収容定員増加（3 年次編入学）に係るアンケート調査では、全体では「受験したい」と回答した 16 人のうち、9 人が「合格した場合、入学したい」、クロス集計結果では、「受験したい」と回答した 4 人のうち、2 人が「合格した場合、入学したい」と強い入学意欲を示す回答であった。

予定する編入学の入学定員 2 名を充足する回答結果を得られたため、当該学部学科の学生確保の見通しは問題なしと判断できる。

以上

添付資料

名古屋文理大学

「概要説明プリント」

「収容定員増加構想（３年次編入学）に関するアンケート調査用紙」

【概要説明プリント　1/4】

名古屋文理大学

NAGOYA BUNRI

情報メディア学部 情報メディア学科

情報メディア学部 情報メディア学科では、

2024年４月に収容定員増加を予定しています。



【概要説明プリント　2/4】

情報メディア学部 情報メディア学科【概要】

収容定員増加時期	所在地	入学定員	取得学位
2024年4月	愛知県稲沢市稲沢町前田365	120名 / 3年次編入 2名 (収容定員484名)	学士（情報メディア学）

✓ 2024年4月より入学定員を100名から120名に増員、３年次編入学定員を2名を設けます。
✓ ３年次編入制度を設け、短期大学・専門学校の既習単位等を認定します。

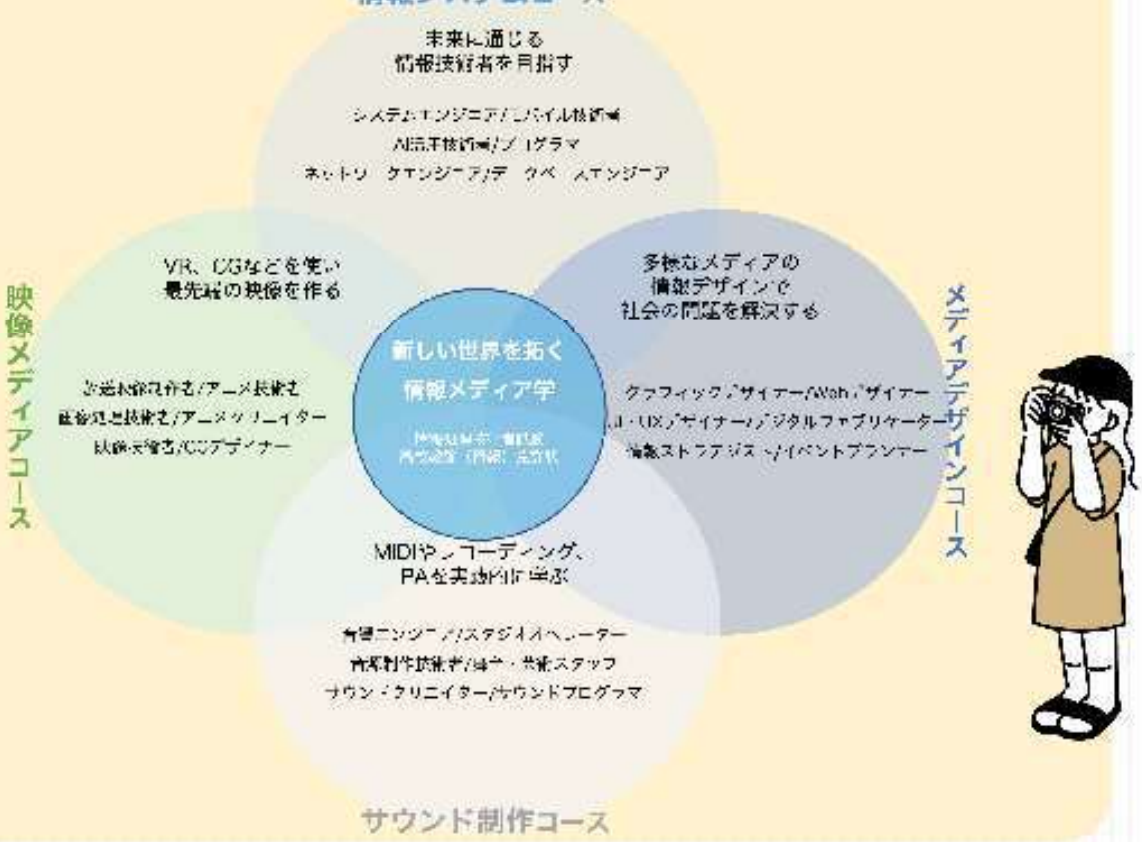
01

養成する人材像

情報メディア学部は、情報の持つ社会的役割を多面的に教育研究し、情報社会で不可欠な情報システウやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用能力、コミュニケーション能力、創作能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を養成します。

02

各コースについて



【概要説明プリント　3/4】

03

カリキュラムの特徴

- 大学生としての基礎学力と教養を高めるための基礎教育科目と、情報メディアの各分野において、即戦力となる人材を育成するための専門教育科目をバランスよく学ぶことができる
- 情報システム開発、映像コンテンツ制作、サウンド制作、メディアデザインを目的とする各専修コースには、高度な専門科目が設置され、コースや複合スキルを意識した学習の実践とキャリアデザインに即した専門知識の修得が可能である
- コースごとの専門科目のほか、各コース共通の専門科目を設置。情報システムやメディアコンテンツ・メディア技術、メディアデザインなど多種の研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる
- 卒業研究・卒業制作を通して、情報システム技術者、メディアコンテンツに関わる制作者やデザイナー・技術者など、目標とするキャリアの実践力を身につけることができる研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる

04

取得可能な資格と卒業後の進路



【取得可能な資格】

ITパスポート試験　/　基本情報技術者試験
→上記の資格を取得すると、対応する科目の単位が認定されます。
応用情報技術者試験 / 高度情報処理技術者試験 / 高等学校教諭一種免許状［情報］
MIDI検定 / 色彩検定 / MOS（マイクロソフトオフィス スペシャリスト） / TOEIC®
日本漢字能力検定 / マルチメディア検定 / CGエンジニア検定 / CGクリエイター検定
画像処理エンジニア検定 / Webデザイナー検定 / 日本語ワープロ検定
文書デザイン検定 / 情報処理技能検定[表計算、データベース] /
プレゼンテーション作成検定 / 文章入力スピード認定試験 / Pro Tools技術認定試験

【卒業後の進路】

情報通信業会をはじめ、様々な業種で活躍しています。2022年度就職率**94.0%**！
情報通信 / CG・映像・サウンド・クリエイティブ / 製造業 / サービス / 公務員・公的機関
教育・団体・・・・など

３年次編入初年度学費

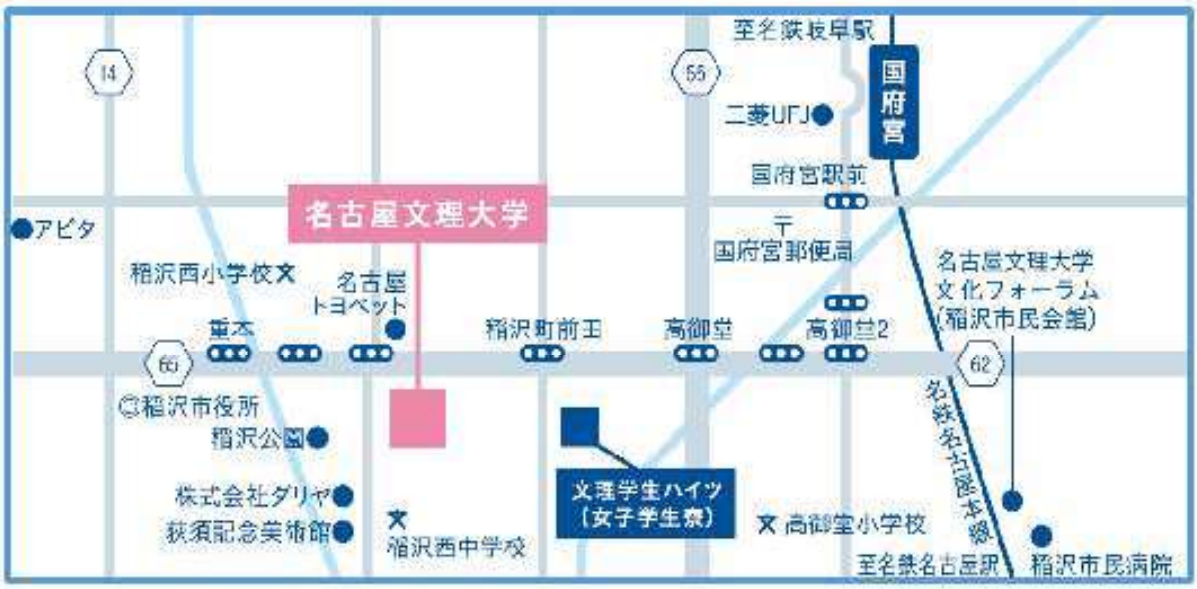
大学名	学部名	学科名	入学金	授業料	施設設備費	その他	編入学初年次合計
名古屋文理	情報メディア	情報メディア	200,000円	750,000円	200,000円	230,000円	1,380,000円
【以下、名古屋文理大学情報メディア学部情報メディア学科に類似する学部・学科一覧】							
名城	都市情報	都市情報	200,000円	835,000円	310,000円	–	1,345,000円
大同	情報学	情報デザイン	300,000円	930,000円	335,000円	–	1,565,000円

※その他には、実習費や教育充実費が含まれます。
※他大学の学費は大学ホームページより掲載。（2023年度）
※学費は予定であり、変更する可能性があります。

Access

▷名鉄「名鉄名古屋」駅から

名鉄名古屋本線、名鉄一宮・名鉄岐阜方面行きに乗車、特急11分・急行16分、「国府宮」駅下車。
※注意：「犬山経由名鉄岐阜行き」は「国府宮」を通りません。ご乗車にならないようご注意下さい。
JRを利用される方は、名古屋駅で名鉄電車への乗り換えが必要です



NAGOYA BUNRI

名古屋文理大学　情報メディア学部 情報メディア学科
〒492-8520
愛知県稲沢市稲沢町前田365　TEL: 0587-23-2400

＼大学ホームページはこちら／

【収容定員増加構想（３年次編入学）に関するアンケート調査用紙　1/2】

名古屋文理大学
収容定員増加構想（３年次編入学）に関するアンケート調査
（対象：2023 年度短期大学２年生・専門学校２年生以上（2024 年３月卒業予定）に在籍する皆様）

名古屋文理大学では、2024 年４月より、情報メディア学部情報メディア学科に３年次編入学定員を設けることを構想しています。
短期大学及び専門学校２年生以上（高等学校専攻科含む）に在籍し、2024 年３月に卒業予定の皆様から、ご意見をお聞きし、今後の構想内容に反映したいと考えております。なお、回答いただいた皆様から得られた情報は、統計資料及び文部科学省への提出書類の一部としてのみ活用いたします。本アンケートでは、個人が特定されることはございません。つきましては、別紙の概要をご覧いただいた上で、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。
※このアンケート調査は名古屋文理大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。
※概要及びアンケートに記載されている学則変更内容については予定であり、変更される可能性があります。

＜注意事項＞
鉛筆またはシャープペンシルで、濃くはっきりとマークしてください。正しく記入・マークされていない場合は、判別できないことがあります。
【良い例】 ●　【悪い例】 ⊖ ⊘ ○

問１　あなたのお住まいをお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

0 愛知県
0 岐阜県
0 三重県
0 その他　【その他の場合、内容をご記入ください】

問２　あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

0 男性
0 女性
0 その他

問３　あなたが在籍する学校をお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

0 短期大学２年生
0 専門学校２年生以上
0 高等学校専攻科２年生
0 その他　【その他の場合、内容をご記入ください】

問４　卒業後の希望進路についてお答えください。（あてはまるもの全てにマーク）

大学（編入学）	大学（１年次入学）	短期大学	専門学校
0	0	0	0
その他進学（大学院等）	就職	その他	
0	0	0	

問５　あなたが関心のある学問分野をお答えください。（あてはまるもの全てにマーク）

情報	理学・工学	教育・保育	スポーツ・体育	文学・歴史・心理
0	0	0	0	0
経済・経営・ビジネス	法学・政治	社会・社会福祉・観光	外国語・国際関係	医学・歯学・薬学
0	0	0	0	0
看護・医療	栄養・家政	芸術	その他	
0	0	0	0	

【収容定員増加構想（３年次編入学）に関するアンケート調査用紙　1/2】

以下の質問から、別紙の概要をお読みの上、ご回答をお願いいたします>

問６　本学の情報メディア学部情報メディア学科には以下のような特色があります。この中から魅力的だと感じる特色をお選びください。（あてはまるもの全てにマーク）

0 大学生としての基礎学力と教養を高めるための基礎教育科目と、情報メディアの各分野において、即戦力となる人材を育成するための専門教育科目をバランスよく学ぶことができる

0 情報システム開発、映像コンテンツ制作、サウンド制作、メディアデザインを目的とする各専修コースには、高度な専門科目が設置され、コースや複合スキルを意識した学習の実践とキャリアデザインに即した専門知識の修得が可能である

0 コースごとの専門科目のほか、各コース共通の専門科目を設置。情報システムやメディアコンテンツ・メディア技術、メディアデザインなど多種の研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる

0 卒業研究・卒業制作を通して、情報システム技術者、メディアコンテンツに関わる制作者やデザイナー・技術者など、目標とするキャリアの実践力を身につけることができる研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる

問７　あなたは本学の情報メディア学部情報メディア学科３年次編入学試験を受験したいと思いますか。（あてはまるもの１つにマーク）

0 受験したい（問８にお答えください）

0 受験したいと思わない（問９にお答えください）

［問８は、問７で「受験したい」と回答した方のみご回答ください。］

問８　あなたは本学の情報メディア学部情報メディア学科の編入学試験を受験し、合格した場合、入学したいと思いますか。（あてはまるもの１つにマーク）

0 入学したい
0 併願校の結果によっては入学したい

［問９は、問７で「受験したいと思わない」と回答した方のみご回答ください。］

問９　あなたが情報メディア学部情報メディア学科を「受験したいと思わない」と回答された理由をお答えください。（あてはまるもの全てにマーク）

0 興味・関心のある分野ではないから
0 興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから
0 興味・関心のある分野だが、さらに詳細を知った上で検討したいから
0 通学が不便そうだから
0 学費が高いから
0 その他

【その他の場合、内容をご記入ください】

アンケートは以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

著作権者の許諾が得られない書類等について

１（書類等の題名）

2023 年度河合塾第１回共通テスト模試志望動向（情報）【資料 5】

２（出典）

河合塾　株式会社 KEI アドバンス

３（その他の説明）

上記資料を用いて近隣大学の志望動向状況について説明を行った。

著作権者の許諾が得られない書類等について

１（書類等の題名）

リクルート進学総研マーケットレポート（2023年２月号）【資料６】

２（出典）

株式会社リクルート　リクルート進学総研

3（引用範囲）

・リクルート進学総研マーケットリポート2022　Vol.106　2023年２月号　１ページ目
https://souken.shingakunet.com/research/pdf/202302_souken_report.pdf

・【都道府県別：東海】18歳人口・進学率・地元残留率の動向2022
https://souken.shingakunet.com/research/2023/02/182022-7.html

４（その他の説明）

18歳人口の全国的、地域的動向を説明するため、上記資料を用いて説明を行った。

競合校の入学状況(令和3年度入学者)

大学名	学部名(学科名)	入学定員	受験者	入学者	定員超過率	備考
愛知工業大学	情報科学部	190	2,402	215	1.13	
大同大学	情報学部	305	2,893	307	1.01	
中部大学	工学部(情報工学科)	120	955	127	1.06	
名古屋学芸大学	メディア造形学部	270	1,505	288	1.07	
愛知工科大学	工学部(情報メディア学科)	85	480	109	1.28	
名古屋造形大学	造形学部造形学科	240	1,105	294	1.23	
愛知淑徳大学	人間情報学部	200	1,128	211	1.06	
	創造表現学部	295	2,265	313	1.06	

競合校の入学状況(令和４年度入学者)

大学名	学部名(学科名)	入学定員	受験者	入学者	定員超過率	備考
愛知工業大学	情報科学部	200	2,300	238	1.19	
大同大学	情報学部	305	2,458	348	1.14	
中部大学	工学部(情報工学科)	120	971	148	1.23	
名古屋学芸大学	メディア造形学部	270	1,732	298	1.10	
愛知工科大学	工学部(情報メディア学科)	85	344	87	1.02	
名古屋造形大学	造形学部造形学科	240	1,360	290	1.21	
愛知淑徳大学	人間情報学部	200	1,858	217	1.09	
	創造表現学部	295	1,036	318	1.08	

ア）オープンキャンパス

2023年入試向けオープンキャンパス参加状況

健康栄養学科

実施日	受験資格者	非対象者	参加者数	付添	小計
3/24(木)	27	1	28	8	36
6/12(日)	69	3	72	45	117
7/17(日)	41	14	55	29	84
7/30(土)	38	20	58	26	84
8/20(土)	42	41	83	32	115
9/4(日)	20	16	36	23	59
10/30(日)	14	8	22	9	31
合計	251	103	354	172	526

フードビジネス学科

実施日	受験資格者	非対象者	参加者数	付添	小計
3/24(木)	15	1	16	9	25
6/12(日)	28	1	29	14	43
7/17(日)	22	3	25	16	41
7/30(土)	21	16	37	18	55
8/20(土)	9	9	18	6	24
9/4(日)	11	3	14	8	22
10/30(日)	6	7	13	7	20
合計	112	40	152	78	230

情報メディア学科

実施日	受験資格者	非対象者	参加者数	付添	小計
3/24(木)	24	2	26	15	41
6/12(日)	48	5	53	38	91
7/17(日)	51	7	58	32	90
7/30(土)	37	31	68	37	105
8/20(土)	52	41	93	20	113
9/4(日)	33	21	54	25	79
10/30(日)	9	10	19	14	33
合計	254	117	371	181	552

全体

実施日	受験資格者	非対象者	参加者数	付添	小計
3/24(木)	66	4	70	32	102
6/12(日)	145	9	154	97	251
7/17(日)	114	24	138	77	215
7/30(土)	96	67	163	81	244
8/20(土)	103	91	194	58	252
9/4(日)	64	40	104	56	160
10/30(日)	29	25	54	30	84
合計	617	260	877	431	1308

イ）進学懇談会（高校教員対象大学説明会）

2022年度実施

5月31日名古屋会場（ミッドランドホール）

参加高校

私立　愛知工業大学名電高等学校	私立　名古屋大谷高等学校
私立　愛知みずほ大学瑞穂高等学校	私立　名古屋経済大学高蔵高等学校
愛知県立　安城高等学校	愛知県立　名古屋工科高等学校
私立　安城学園高等学校	名古屋市立　名古屋商業高等学校
愛知県立　惟信高等学校	愛知県立　名古屋聾高等学校
愛知県立　一宮商業高等学校	愛知県立　南陽高等学校
愛知県立　稲沢高等学校	愛知県立　日進西高等学校
愛知県立　佐屋高等学校	愛知県立　半田工科高等学校
私立　菊華高等学校	愛知県立　尾北高等学校
私立　啓明学館高等学校	愛知県立　御津高等学校
名古屋市立　北高等学校	愛知県立　緑丘高等学校
愛知県立　城北つばさ高等学校	名古屋市立　山田高等学校
私立　聖カピタニオ女子高等学校	名古屋市立　若宮商業高等学校
愛知県立　瀬戸工科高等学校	私立　多治見西高等学校（岐阜県）
愛知県立　瀬戸西高等学校	三重県立　いなべ総合学園高等学校
私立　大同大学大同高等学校	三重県立　桑名工業高等学校
私立　中部大学第一高等学校	三重県立　久居農林高等学校
私立　東邦高等学校	三重県立　四日市西高等学校
愛知県立　桃陵高等学校	私立　高田高等学校（三重県）
私立　豊田大谷高等学校	ヒューマンキャンパス高等学校名古屋学習センター（通信制）
愛知県立　中川商業高等学校	

６月１４日岐阜会場（じゅうろくプラザ）

参加高校

岐阜県立　池田高等学校	私立　大垣日大高等学校
岐阜県立　大垣桜高等学校	私立　誉高等学校
岐阜県立　大垣養老高等学校	愛知県立　一宮北高等学校
岐阜県立　岐阜商業高等学校	愛知県立　尾西高等学校
岐阜県立　不破高等学校	クラーク記念国際高等学校岐阜駅前キャンパス（通信制）
岐阜県立　瑞浪高等学校	

ウ）高校訪問

2022年度春期高校訪問

愛知県の候補校

（愛知県204校）

名古屋１
愛知商業
至学館
名古屋経済大市邨
愛工大名電
名古屋商業
旭陵
金城学院
市立中央
愛知産業大学工業
N（通信制）

名古屋２
飛鳥未来(通)
飛鳥未来きずな(通)
中央高等学院(通)
クラーク記念国際名古屋キャンパス(通)
クラーク記念国際単位制キャンパス(通)
KTCおおぞら高等学院(通)
愛知芸術高等専修学校（通）
第一高等学院(通)
同朋
東海学園

名古屋３
名古屋経済大高蔵
愛知みずほ大学瑞穂
名古屋女子大学
名古屋大谷
享栄
名古屋国際
名古屋工業
熱田
瑞陵

名古屋４
名古屋西
西陵
北
城北つばさ
山田
名城大付属
中村
松蔭
工芸

名古屋５
惟信
南陽
富田
市立工業
中川商業
大同大学大同
名古屋工科
名古屋南
桜台

名古屋６
東邦
愛知
名東
椙山女学園
愛知総合工科
緑丘
菊華
守山
名古屋

名古屋・豊明７
桜花学園
中京大中京
天白
若宮商業
鳴海
緑
星城
豊明

愛知１
春日井商業
高蔵寺
春日井西
春日井東
春日井南
春日井工科
中部大学春日丘
春日井

愛知２
一宮工科
一宮商業
木曽川
一宮起工科（全日）・(昼間定時制)
修文学院
大成
一宮南
一宮興道
一宮西

愛知３
一宮北
誠信
犬山
犬山南
古知野
尾北
丹羽
江南

愛知４
西春
新川
誉
小牧
小牧南

愛知５
津島東
津島
津島北
清林館
愛知５
愛知啓成
杏和
稲沢
尾西

愛知６
美和
愛西工科
稲沢東
佐屋
愛知黎明
海翔
五条

愛知７
日進西
栄徳
日進
三好
東郷
中部大学第一
杜若

愛知８
瀬戸
瀬戸工科
聖カピタニオ女子
瀬戸西
瀬戸北総合
聖霊
長久手
旭野

愛知９
大府東
大府
東浦
東海南
東海商業
横須賀
知多翔洋
阿久比

愛知１０
半田農業
半田商業
半田工科
半田東
半田
武豊
常滑
日本福祉大学付属
内海

愛知１１
安城
安城学園
安城南
安城東
安城農林
鶴城丘
西尾東
西尾
吉良

愛知１２
豊野
衣台
豊田北
松平
豊田大谷
豊田
豊田東
豊田西
ルネサンス豊田(通)
岩津
豊田南

愛知１３
岡崎学園
岡崎城西
岡崎商業
愛知産業大三河
光ヶ丘女子
岡崎東
岡崎西
岡崎
岡崎北
幸田

岐阜県の候補校

（岐阜県78校）

愛知１４
碧南工科
碧南
高浜
刈谷東
刈谷北
知立
知立東
愛知教育大学附属
刈谷工科

愛知１５
豊橋中央
豊橋西
豊橋南
豊橋工科
小坂井
豊川
成章
福江

愛知１６
御津
国府
蒲郡東
蒲郡
桜丘
豊橋東
豊丘
豊橋商業
市立　豊橋
藤ノ花女子
新城有教館
（黄柳野）

岐阜１
高田
岐阜東
各務原
各務原西
岐阜各務原
ぎふ国際(通)
啓晴高校(通)
KTCおおぞら(岐阜キャンパス)（通）
クラーク国際(岐阜駅前キャンパス)（通）
城南

岐阜２
清凌(通)
大垣日大
大垣西
大垣東
大垣桜
大垣商業
大垣南
大垣工業
大垣養老
海津明誠

岐阜３
羽島
羽島北
華陽フロンティア
岐阜聖徳学園
市立岐阜商業
岐阜工業
岐南工業
加納

岐阜４
岐阜城北
聖マリア女学院
済美
岐阜女子
県立岐阜商業
長良
岐山
鷺谷

岐阜５
本巣松陽
岐阜第一
岐阜農林
池田
揖斐
不破
山県

岐阜６
土岐紅陵
土岐商業
瑞浪
東濃フロンティア
中京
中津
中津商業
麗澤瑞浪
恵那
恵那農業

岐阜７
武義
関商工(工業・商業)
美濃加茂
加茂
加茂農林
関
関有知

三重県の候補校

三重県　（49校）

岐阜８
東濃
東濃実業
可児
可児工業
帝京大学可児
多治見西
多治見北
多治見
多治見工業

岐阜９
郡上
郡上北
吉城
高山西
飛騨高山(岡本校舎)
飛騨高山(山田校舎)
飛騨神岡
斐太
(益田清風)

三重１
桑名西
いなべ総合学園
桑名北
学法津田学園
朝明
暁
川越
桑名
桑名工業

三重２
海星
四日市工業
四日市農芸
四日市四郷
四日市商業
大橋学園
四日市メリノール学院
四日市西
四日市南
北星
四日市中央工業

三重３
白子
鈴鹿
神戸
稲生
飯野
亀山
高田
津東
津工業
セントヨゼフ女子学園
津商業
久居農林

三重４
三重
松阪
松阪商業
松阪工業
相可
皇學館
伊勢
宇治山田
宇治山田商業
伊勢学園高校
上野
伊賀白鳳

三重５
尾鷲
木本
水産
志摩
代々木

囲み・・・・　令和4年度出願のみ

赤字・・・・令和4年度入学者あり

青字・・・・在学生あり

訪問期間

６月３日(金)～７月４日(月)

ウ）高校訪問

2022年度秋期高校訪問

愛知県			
飛鳥未来(通)	名古屋経済大高蔵	西陵	春日井西
飛鳥未来きずな(通)	名古屋工業	北	誉
中央高等学院(通)	享栄	城北つばさ	小牧
クラーク記念国際名古屋キャンパス(通)	東邦	山田	小牧工科
クラーク記念国際単位制キャンパス(通)	愛知総合工科	惟信	岩倉総合
KTCおおぞら高等学院(通)	緑丘	南陽	誠信
愛知芸術高等専修学校（通）	守山	富田	犬山
第一高等学院(通)		大同大学大同	犬山南
		中川商業	古知野

愛知県			
一宮商業	杜若	大府東	岩津
一宮起工科（全日）・(昼間定時制)	豊野	大府	岡崎学園
修文学院	衣台	東浦	岡崎城西
大成	豊田大谷	知多翔洋	岡崎商業
一宮北	豊田	半田農業	愛知産業大三河
津島北	豊田東	半田商業	安城
清林館	ルネサンス豊田(通)	半田東	安城学園
杏和	栄徳	武豊	安城南
稲沢		常滑	安城農林
愛知啓成			
尾西			

岐阜県		岐阜県	
岐阜各務原	清凌(通)	羽島	東濃
ぎふ国際(通)	大垣日大	羽島北	東濃実業
啓晴高校(通)	大垣西	華陽フロンティア	帝京大学可児
KTCおおぞら(岐阜キャンパス)（通）	大垣桜	岐阜聖徳学園	多治見西
クラーク国際(岐阜駅前キャンパス)（通）	大垣商業	市立岐阜商業	武義
城南	海津明誠	岐阜工業	美濃加茂
済美	本巣松陽	岐南工業	加茂
岐阜女子	岐阜第一		加茂農林
県立岐阜商業	岐阜農林		
	池田		

三重県		
海星	鈴鹿	桑名西
四日市工業	神戸	いなべ総合学園
四日市農芸	亀山	桑名北
四日市四郷	高田	学法津田学園
四日市商業	津商業	朝明
四日市メリノール学院	久居農林	暁
四日市西		

（123校）

訪問期間

９月６日(火)～９月３０日(月）

ウ）高校訪問

2022年度冬期高校訪問

愛知県

[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
山田	豊田	天白	美和
名古屋西	豊田北	市立緑	清林館
名城大学附属	豊田南	熱田	津島
中村	豊野	名古屋南	津島東
惟信	日進西	愛知	大成
松蔭	東郷	名東	一宮北
同朋（アポ）	長久手	東邦	一宮南
東海学園（アポ）	旭野		木曽川

愛知県

[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
半田東	一宮興道	岡崎東	豊橋南
常滑	愛知啓成	岡崎西	豊橋西
阿久比	稲沢東	安城	豊丘
東海南	杏和	安城東	小坂井
横須賀		安城南	国府
碧南		西尾東	蒲郡東
星城 （アポ）			
知立			
愛知教育大付属			

[redacted]	[redacted]
春日井南	尾北
春日井東	丹羽
高蔵寺	江南
春日井	岩倉総合
市立北	新川
小牧南	西春
瀬戸	
瀬戸西	

岐阜県

[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
長良	大垣西	美濃加茂	多治見西
鷲谷	大垣日大	加茂	多治見
加納	大垣南	関	中京(アポ)
岐山	大垣東	武義	瑞浪
岐阜東	本巣松陽	可児	中津
各務原西	岐阜聖徳学園		恵那
	羽島北		

優先度B

赤字…・西尾張地区奨学制度対象校

三重県

[redacted]	[redacted]
四日市西	松阪
海星	宇治山田
四日市南	皇學館
暁	伊勢
桑名西	津東
川越	セントヨゼフ女子
神戸	高田

訪問期間
12月１日（木）～12月20日（火）

資料11

エ）キャンパス見学会

2022年度本学見学（体験）

日程	エリア	会場
5月7日（土）	本学	啓明学館高校　大学見学
5月19日（木）	名古屋	名城大学附属高校　体験授業
6月15日（水）	名古屋	クラーク記念国際高校名古屋キャンパス
6月16日（木）	名古屋	名城大学附属高校　大学見学
6月21日（火）	岐阜	岐阜総合学園高校(情報メディア体験)
8月22日（月）	名古屋	中央高等学院　大学見学
9月28日（水）	一宮	尾西高校情報メディア体験
10月28日（金）	大垣	大垣桜高校（大学見学）
12月6日（火）	東濃	東濃実業高校　　大学見学
3月10日（金）	本学	佐屋高校バス見学

オ）進学相談会

資料12

2022年度進学相談会

日程	エリア	会場
4月11日（月）	名古屋	ウインクあいち
4月13日（水）	津島	津島市文化会館
4月14日（木）	豊橋	穂の国豊橋芸術劇場
4月18日（月）	四日市	四日市市総合体育館
4月19日（火）	一宮	一宮iビル
4月20日（水）	名古屋	同朋高校
4月20日（水）	名古屋	吹上ホール
4月20日（水）	高山	高山市民文化会館
4月21日（木）	豊田	名鉄トヨタホテル
4月22日（金）	岐阜	じゅうろくプラザ
4月25日（月）	飯田	飯田シルクホテル
4月25日（月）	大垣	大垣商業高校
4月26日（火）	多治見	多治見市産業文化センター
4月27日（火）	武豊	武豊高校
4月28日（木）	恵那	恵那農業高校
4月28日（木）	名古屋	南陽高校
4月28日（木）	瑞浪	中京高校
5月10日（火）	可児	可児市福祉センター
5月12日（木）	土岐	土岐商業高校
5月12日（木）	多治見	東濃フロンティア高校（セラミックMINO）
5月12日（木）	江南	誠信高校
5月13日（金）	大垣	クインテッサホテル大垣
5月13日（金）	瀬戸	瀬戸北総合高校
5月15日（日）	岐阜	じゅうろくプラザ
5月18日（水）	岐阜	池田高校
5月20日（金）	岐阜	岐阜城北高校（岐阜市文化センター）
5月20日（金）	名古屋	若宮商業高校
5月20日（金）	新城	新城有教館高校
5月20日（金）	大垣	大垣桜高校
5月21日（土）	名古屋	名城大学附属高校（本学体験）
5月22日（日）	名古屋	ウインクあいち
5月23日（月）	愛西	佐屋高校
5月23日（月）	愛西	佐屋高校
5月25日（水）	名古屋	啓明学館高校

5月25日（水）	大府	大府東高校
5月27日（金）	半田	グランシティ半田
5月29日（日）	豊橋	ロワジールホテル豊橋
5月30日（月）	岐阜	岐阜総合学園高校
5月30日（月）	岐阜	岐阜総合学園高校
６月1日（水）	四日市	四日市農芸高校
６月1日（水）	小牧	小牧高校
６月2日（木）	稲沢	稲沢東高校
６月2日（木）	名古屋	愛工大名電高校
６月2日（木）	犬山	犬山市民交流センター
６月2日（木）	春日井	春日井市総合体育館
6月3日（金）	知多	知多翔洋高校
6月3日（金）	伊勢	三重県営サンアリーナ
6月3日（金）	津島	津島市文化会館
6月5日（日）	四日市	プラトンホテル四日市
6月６日（月）	西尾	西尾コンベンションホール
6月７日（火）	岐阜	不破高校
6月７日（火）	名古屋	ウインクあいち
6月８日（水）	久居	久居農林高校
6月８日（水）	浜松	えんてつホール
6月８日（水）	一宮	木曽川高校
6月８日（水）	大垣	大垣養老高校
6月9日（木）	岐阜	富田高校
6月9日（木）	一宮	一宮iビル
６月9日（木）	小牧	北名古屋市総合体育館
6月10日（金）	岐阜	啓晴高校
６月11日（土）	岐阜	岐阜聖徳学園高校
６月13日（月）	本巣	岐阜第一高校
６月13日（月）	亀山	亀山高校
６月13日（月）	豊田	豊田東高校
6月15日（水）	稲沢	稲沢高校
6月15日（水）	一宮	一宮iビル
6月15日（水）	小牧	誉高校
6月16日（木）	豊田	豊野高校
6月17日（金）	岐阜	岐阜女子高校
6月17日（金）	稲沢	愛知啓成高校
6月17日（金）	稲沢	愛知啓成高校
6月22日（水）	桑名	いなべ総合学園高校
6月22日（水）	四日市	四日市四郷高校

6月23日（木）	岐阜	県立岐阜商業高校
6月23日（木）	豊橋	豊丘高校
6月29日（水）	豊明	豊明市民会館
6月30日（木）	一宮	一宮起工科高校
6月30日（木）	名古屋	名古屋商業高校
7月1日（金）	浜松	アクトシティ浜松
7月4日（月）	瀬戸	瀬戸北総合高校
7月4日（月）	一宮	尾西高校
7月5日（火）	長久手	栄徳高校
7月６日（水）	常滑	常滑高校
7月６日（水）	桑名	桑名西高校
7月６日（水）	蒲郡	蒲郡商工会議所
7月７日（木）	知多	知多翔洋高校
7月７日（木）	名古屋	鳴海高校
7月７日（木）	安城	安城高校
7月７日（木）	安城	アンフォーレ（安城）
7月８日（金）	中津川	にぎわいプラザ
7月11日（月）	江南	誠信高校
7月12日（火）	桑名	津田学園高校
7月12日（火）	名古屋	同朋高校
7月13日（水）	尾鷲	尾鷲高校（オンライン）
7月13日（水）	多治見	多治見市産業文化センター
7月13日（水）	大垣	大垣桜高校
7月14日（木）	吉良	一色高校
7月15日（金）	大垣	大垣桜高校
7月19日（火）	尾鷲	尾鷲高校
7月20日（水）	新城	新城市商工会館
7月21日（木）	藤枝	藤枝順心高校
7月21日（木）	安城	安城高校
7月27日（水）	豊橋	豊丘高校
8月23日（火）	大垣	大垣養老高校
9月３日（土）	名古屋	啓明学館高校（大学展）
9月8日（木）	高浜	高浜高校
9月8日（木）	岡崎	人間環境大学附属岡崎高校
9月14日（水）	岐阜	じゅうろくプラザ
9月15日（木）	清須	新川高校
9月24日（土）	名古屋	ウインクあいち（大学展）
9月25日（日）	名古屋	ウインクあいち（大学展）
9月28日（水）	一宮	木曽川高校

9月２９日（木）	稲沢	稲沢高校
10月4日（水）	岐阜	岐阜城北高校
10月6日（木）	名古屋	名古屋市立　北高校
10月6日（木）	稲沢	稲沢東高校
10月7日（金）	名古屋	西陵高校
10月12日（水）	大垣	大垣養老高校
10月19日（水）	稲沢	稲沢高校
10月21日（金）	一宮	一宮iビル
10月２６日（水）	岐阜	池田高校
10月27日（木）	名古屋	緑丘高校
10月27日（木）	稲沢	稲沢高校
10月27日（木）	稲沢	稲沢高校
10月28日（金）	津島	津島北高校
10月31日（月）	美濃加茂	加茂高校
11月2日（水）	豊橋	桜丘高校
11月４日（金）	一宮	修文学院高校
11月９日（水）	名古屋	名城大学附属高等学校
11月１０日（木）	津島	津島市文化会館
11月11日（金）	稲沢	愛知啓成高校
11月16日（水）	羽島	羽島高校
11月18日（金）	知多半島	東浦高校
11月28日（月）	名古屋	飛鳥未来高校名古屋キャンパス　ウインクあいち
12月2日（金）		中央高等学院名古屋本校（オンライン）
12月2日（金）	大垣	大垣商業高校
12月6日（火）	東濃	東濃実業高校
12月6日（火）	岐阜	岐阜城北高校
12月7日（水）	名古屋	城北つばさ高校
12月7日（水）	東海市	東海南高校
12月9日（金）	半田	半田会場（半田赤レンガ）
12月9日（金）	名古屋	飛鳥未来高校名古屋キャンパス　名古屋国際センター
12月12日（月）	関	関商工高校
12月１４日（水）	亀山	亀山高校
12月14日（水）	四日市	四日市四郷高校
12月15日（木）	瀬戸	瀬戸工科高校
12月15日（木）	一宮	修文学院高校
12月15日（木）	一宮	尾西高校
12月19日（月）	津島	津島市文化会館
12月19日（月）	愛西	佐屋高校
12月20日（火）	一宮	一宮iビル

12月20日（火）	各務原	岐阜各務野高校
12月20日（火）	大垣	大垣養老高校
12月20日（火）	大垣	大垣桜高校
12月21日（水）	名古屋	吹上ホール
12月22日（木）	津島	津島市文化会館
1月18日（水）	岩倉	岩倉総合高校
1月25日（木）	西尾	鶴城丘高校
1月25日（木）	岐阜	岐阜工業高校
2月2日（木）	大垣	ソフトピアジャパン
2月2日（木）	豊田	豊田工科高校
2月3日（金）	犬山	犬山国際観光センター
2月15日（水）	四日市	四日市商業高校
2月15日（水）	瑞浪	瑞浪高校
2月21日（火）	小牧	名鉄小牧ホテル
2月27日（月）	豊田	豊田東高校
3月3日（金）	名古屋	名城大学附属高校
3月7日（火）	日進	中部大学第一高校
3月7日（火）	岡崎	岡崎商業高校
3月9日（木）	豊明	豊明高校
3月14日（火）	名古屋	西陵高校
3月14日（火）	稲沢	稲沢東高校
3月16日（木）	名古屋	大同大学大同高校
3月16日（木）	名古屋	愛知総合工科高校
3月16日（木）	犬山	犬山南高校
3月16日（木）	一宮	一宮工科高校
3月16日（木）	江南	古知野高校
3月17日（金）	名古屋	緑丘高校
3月17日（金）	名古屋	名古屋工科高校
3月17日（金）	名古屋	若宮商業高校
3月20日（月）	豊田	ルネサンス豊田高校（吹上ホール）
3月22日（水）	津	津工業高校（三重県総合文化センター）

カ）出前講義　　資料13

2022年度模擬授業

日程	会場
5月9日（月）	古知野高校
5月25日（水）	岩倉総合高校
6月3日（金）	名古屋市立　北高校
6月6日（月）	佐屋高校
6月13日（月）	佐屋高校
6月16日（木）	本巣松陽高校
6月29日（水）	古知野高校
7月1日（金）	クラーク記念国際高校岐阜駅前キャンパス
7月5日（火）	佐屋高校
7月8日（金）	緑丘高校
7月12日（火）	佐屋高校
7月12日（火）	緑丘高校
8月19日（金）	啓明学館高校
8月19日（金）	啓明学館高校
9月5日（月）	尾北高校
9月6日（火）	尾北高校
9月15日（木）	南陽高校
9月27日（火）	中津高校（オンライン）教員対象
9月27日（火）	済美高校（教員対象）
9月28日（水）	済美高校（教員対象）
10月3日（月）	尾西高校
10月5日（水）	多治見西高校
10月5日（水）	多治見西高校
10月6日（木）	揖斐高校
10月19日（水）	池田高校
10月19日（水）	岐阜各務野高校
10月21日（金）	名城大学附属高校
10月26日（水）	同朋高校
10月27日（木）	緑丘高校
10月28日（金）	津島北高校
11月2日（水）	春日井南高校
11月10日（木）	KTCおおぞら高等学院名古屋キャンパス
11月14日（月）	瀬戸北総合高校
11月14日（月）	美和高校
11月16日（水）	瑞浪高校

11月18日（金）	岐阜女子高校
11月21日（月）	菊華高校
11月24日（木）	稲沢東高校
12月9日（金）	岐阜各務野高校
12月15日（木）	尾北高校
12月15日（木）	尾北高校
12月15日（木）	豊田東高校
12月16日（金）	四日市西高校
1月19日（木）	名城大学附属高校
1月20日（金）	名城大学附属高校
1月23日（月）	宇治山田高校
1月25日（木）	岐阜各務野高校
1月25日（木）	名古屋市立　中央高校
2月28日（火）	KTCおおぞら高等学院岡崎キャンパス
3月2日（木）	KTCおおぞら高等学院岡崎キャンパス
3月3日（金）	KTCおおぞら高等学院岡崎キャンパス
3月9日（木）	愛知みずほ大学瑞穂高校
3月14日（火）	安城学園高校

資料14

就職の状況（過去5年間）

【学部】

学部	学科	令和4年度					令和3年度					令和2年度					令和1年度					平成30年度				
		卒業者数（人）	就職希望者数	就職者数	就職率（%）	求人社数	卒業者数（人）	就職希望者数	就職者数	就職率（%）	求人社数	卒業者数（人）	就職希望者数	就職者数	就職率（%）	求人社数	卒業者数（人）	就職希望者数	就職者数	就職率（%）	求人社数	卒業者数（人）	就職希望者数	就職者数	就職率（%）	求人社数
健康生活学部	健康栄養学科	84	84	83	98.8%	11307	79	79	78	98.7%	9469	前期1名 80	80	80	100.0%	10102	72	70	69	98.6%	12037	99	98	98	100.0%	12687
	フードビジネス学科	65	64	63	98.4%	11209	49	49	48	98.0%	9374	62	59	58	98.3%	9991	63	61	61	100.0%	11940	75	74	74	100.0%	12014
健康生活学部計		149	148	146	98.6%	22516	128	128	126	98.4%	18843	142	139	138	99.3%	20093	135	131	130	99.2%	23977	174	172	172	100.0%	24701
情報メディア学部	情報メディア学科	117	115	110	95.7%	11287	102	102	97	95.1%	9451	97	90	86	95.6%	10078	前期2名 94	90	86	95.6%	12096	前期1名 80	75	75	100.0%	12193
情報メディア学部計		117	115	110	95.7%	11287	102	102	97	95.1%	9451	97	90	86	95.6%	10078	94	90	86	95.6%	12096	80	75	75	100.0%	12193
合計		266	263	256	97.3%	33803	230	230	223	97.0%	28294	239	229	224	97.8%	30171	229	221	216	97.7%	36073	254	247	247	100.0%	36894

① 就職率は就職希望者に対し、実際に就職した就職者の割合を記載すること。

② 学部、研究科について記載すること（通信教育は記載不要）。ただし、通信教育課程のみの大学の場合は、この表に準じて記載すること。

資料15

大学等卒業者及び高校卒業者の就職状況調査

	令和4年4月1日	令和3年4月1日	令和2年4月1日	平成31年4月1日	平成30年4月1日
大学卒 就職率	95.8%	96.0%	98.0%	97.6%	98.0%

※文部科学省・厚生労働省の資料より

情報メディア学科 就職率

	令和4年4月1日	令和3年4月1日	令和2年4月1日	平成31年4月1日	平成30年4月1日
就職率	95.7%	95.1%	95.6%	95.6%	100.0%

資料16

名古屋文理大学
情報メディア学部　情報メディア学科
人材需要の見通し調査
【収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査】
報告書

令和５年６月１５日

株式会社高等教育総合研究所

目次

１．　「収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査」概要　2

２．　「収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査」集計結果　3

３．　「収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査」集計結果のポイント　9

４．　「収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査」集計結果の分析　14

添付資料　16

名古屋文理大学
「概要説明プリント」　17
「収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査用紙」　21
「収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査(Web フォーム)」　23

１.「収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査」概要

調査目的	名古屋文理大学が 2024（令和 6）年度に情報メディア学部情報メディア学科の収容定員増加構想（1 年次入学定員：100 名から 120 名、3 年次編入学定員：0 名から 2 名）における人材需要の見通しを第三者機関によりアンケート調査を用いて計ることを目的とする。
調査対象	当該学部学科の卒業生の採用が期待される愛知県を中心に、これまでの就職実績等も考慮して抽出した企業計 1,779 件を対象とした。
調査内容	● 問 1～3：回答企業の基本情報（本社所在地、業種、従業員数） ● 問 4：当該学部学科に対する社会的ニーズ ● 問 5：当該学部学科の魅力を感じる特色 ● 問 6・7：当該学部学科の卒業生に対する採用の意向・採用可能人数 ● 問 8：本学に対する期待・要望 以上、全 8 問で主に選択肢式。一部記述を含む。 （問 9 は、貴施設・貴法人名称をたずねる質問であるため、省略する）
調査時期	2023（令和 5）年 3 月～5 月
調査方法	調査対象先の人事・採用担当者宛に依頼状・アンケート調査用紙 1 部、概要説明プリント、返送用封筒（各 1 部）を送付した。ご協力いただける場合は、WEB 調査またはアンケート調査用紙により回答いただいた。
回収件数	有効回答数 196 件（アンケート用紙：72 件、WEB 回答：124 件） 配布 1,779 件に対し、回収率 11.0％

２.「収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査」集計結果

※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。

問１　貴施設・貴法人の本社（本部）所在地をご回答ください。（あてはまるもの１つにマーク）

選択項目	回答数	構成比	選択項目	回答数	構成比	選択項目	回答数	構成比
北海道	0	0.0%	石川県	0	0.0%	岡山県	1	0.5%
青森県	0	0.0%	福井県	1	0.5%	広島県	0	0.0%
岩手県	0	0.0%	山梨県	0	0.0%	山口県	0	0.0%
宮城県	0	0.0%	長野県	0	0.0%	徳島県	0	0.0%
秋田県	0	0.0%	岐阜県	7	3.6%	香川県	0	0.0%
山形県	0	0.0%	静岡県	4	2.0%	愛媛県	0	0.0%
福島県	0	0.0%	愛知県	133	67.9%	高知県	0	0.0%
茨城県	0	0.0%	三重県	5	2.6%	福岡県	1	0.5%
栃木県	0	0.0%	滋賀県	0	0.0%	佐賀県	0	0.0%
群馬県	0	0.0%	京都府	1	0.5%	長崎県	0	0.0%
埼玉県	0	0.0%	大阪府	4	2.0%	熊本県	1	0.5%
千葉県	0	0.0%	兵庫県	1	0.5%	大分県	0	0.0%
東京都	28	14.3%	奈良県	0	0.0%	宮崎県	0	0.0%
神奈川県	9	4.6%	和歌山県	0	0.0%	鹿児島県	0	0.0%
新潟県	0	0.0%	鳥取県	0	0.0%	沖縄県	0	0.0%
富山県	0	0.0%	島根県	0	0.0%			
合計							196	100.0%

問２　貴施設・貴法人の業種について、ご回答ください。（あてはまるもの１つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	情報通信業	69	35.2%
2	農・林・漁・鉱業	1	0.5%
3	飲食店・宿泊サービス業	4	2.0%
4	運輸業	2	1.0%
5	建設業	4	2.0%
6	製造業	26	13.3%
7	電気・ガス・水道業	1	0.5%
8	卸売・小売業	28	14.3%
9	金融業・保険業	6	3.1%
10	不動産業・物品賃貸業	3	1.5%
11	学術研究	0	0.0%
12	専門・技術サービス業	27	13.8%
13	教育・学習支援	0	0.0%
14	医療・福祉	0	0.0%
15	生活・娯楽等	0	0.0%
16	サービス業	14	7.1%
17	その他	11	5.6%
合計		196	100.0%

問 3　貴施設・貴法人の従業員数について、ご回答ください。（あてはまるもの１つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	50 名未満	32	16.3%
2	50 名～100 名未満	27	13.8%
3	100 名～500 名未満	86	43.9%
4	1,000 名以上	45	23.0%
5	無回答	6	3.1%
合計		196	100.0%

※「500 名～1,000 名未満」の選択肢がないため、無回答に１件が含まれる。（自由記述より判明）

問 4　本学の情報メディア学部情報メディア学科は、社会的ニーズがあると思いますか。（あてはまるもの１つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	ニーズは極めて高い	86	43.9%
2	ニーズはある程度高い	99	50.5%
3	ニーズはあまりない	9	4.6%
4	ニーズはまったくない	2	1.0%
合計		196	100.0%

問 5　本学の情報メディア学部情報メディア学科には以下のような特色があります。この中から魅力的だと感じる特色をお選びください。（あてはまるものすべてマーク）

No	選択項目	回答数	回答率
1	大学生としての基礎学力と教養を高めるための基礎教育科目と、情報メディアの各分野において、即戦力となる人材を育成するための専門教育科目をバランスよく学ぶことができる	122	62.2%
2	情報システム開発、映像コンテンツ制作、サウンド制作、メディアデザインを目的とする各専修コースには、高度な専門科目が設置され、コースや複合スキルを意識した学習の実践とキャリアデザインに即した専門知識の修得が可能である	88	44.9%
3	コースごとの専門科目のほか、各コース共通の専門科目を設置。情報システムやメディアコンテンツ・メディア技術、メディアデザインなど多種の研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる	83	42.3%
4	卒業研究・卒業制作を通して、情報システム技術者、メディアコンテンツに関わる制作者やデザイナー・技術者など、目標とするキャリアの実践力を身につけることができる研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる	55	28.1%

※複数回答項目のため、回答数は延べ。回答率は回答件数／回答者数（196 人）

問 6　貴施設・貴法人では、本学の情報メディア学部情報メディア学科を卒業した学生を採用したいと思いますか。（あてはまるもの１つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	採用したい	170	86.7%
2	採用したいと思わない	24	12.2%
3	無回答	2	1.0%
合計		196	100.0%

問 7 は、問 6 で「1. 採用したい」とした 170 件が回答対象である。

問 7　採用する場合の採用可能人数をお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	1 人	35	20.6%
2	2 人	20	11.8%
3	3 人	11	6.5%
4	4 人	4	2.4%
5	5 人以上	12	7.1%
6	人数は未定	88	51.8%
合計		170	100.0%

問 8　本学の情報メディア学部情報メディア学科に対して期待される点やご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

※以下、回答内容を掲載。順不同。

No	回答内容
1	相手に対し、何が必要か、何を提供すれば良いか考えるか、創造力を育てられるかを期待します。貴校の「キャリアの実践力を身につける」ことで実現できると期待しています。
2	SNS を使った広告運用ができる学生だと良い。
3	IT エンジニアとしてのスキル・資格として、基本情報通信技術者資格を持った人材を増やしてほしい。理由としては、業務となると、大学での知識、資格の知識をベースにして取り組むことが多くなるため、その土台をしっかりとさせていれば、あとは業務知識を学んでいけばよく、成長スピードが速いことが期待できる。
4	システム導入、映像コンテンツや、SNS 等を活用した企業 PR、業務効率化の構築で活躍していただきたい。
5	ラインやツイッターなどのサイトで、求人アプリを作成できるような学生がいればありがたい。
6	IT 技術者を採用したい当社にとって、IT の基礎知識やスキルを身に着けている学生を採用できるのはありがたいことです。即戦力とはいかないかもしれませんが、業務を通して、ともに成長していければと思います。ぜひ、立体的に取り組める学生さんの育成をお願いします。
7	情報リテラシーに関する基礎知識を備えおられる学生を希望いたします。
8	偏差値をあげてほしい。（採用できなくなりました）企業研究をもっと（離職率高め）
9	弊社としては、こういった分野の求人はしていないが、業種によっては、ほしい人財になるのではと思います。会社側がどこまでを求めてくるかはわからないが、専門知識のある人は希少価値と言えます。

10	問６は、貴校だから採用したいという判断は出来かねます。理由としては「人」を重視しているからです。
11	情報システムの分野における人財を求めていますので、ぜひ専門的な学修を進めていただき、ご活躍を期待したいです。
12	IT 人財の採用需要は高く、弊社でも社内システムは全て社内で制作しており、情報システム開発、デザインからハード、ソフトまで携わる機会が非常に高く、そのような人財を期待しています。
13	情報通信業界以外でも活躍の場を広げていただきたい。
14	変わりゆく時代の中で、情報メディア学を学んだ学生は、即戦力になりうると思います。期待できる。
15	現在、ドローンやレーザーを用いた測量も行っておりますので、興味がある学生さんがいらっしゃいましたら、ぜひ当社 HP を見ていただけますと幸いです。今回このようなアンケート調査を実施いただき、ありがとうございました。よろしくお願い申し上げます
16	生産管理要員として、当社のＩＴ化を推進する人財を要望します。
17	メディアを専門とする部署へ配属できるわけではありませんが、その分野に詳しい方であれば、将来的に本部各部出活躍いただけるのではないかと考えます。（システム部、デジタル推進部など）
18	基礎学力
19	学部に至る情報にまつわるコミュニケーション、コミュニケーションの本質についても歴史を知っていて欲しい。
20	機器を制御する要素を多く取り入れてほしい。
21	技術力への特化座学での知識のみでなくコーディングができること 資格取得基本情報技術者試験
22	弊社は技術系派遣会社となりますが、年々システムエンジニアの需要が高まっていることを感じております。実際毎年システムエンジニアの採用枠を拡大しておりますが、それでも尚人材不足の状況となっております。是非とも情報メディア学科の卒業生様に弊社ソフトウェア開発部においてご活躍頂きたいと考えております。
23	DX の展開に伴い、DX ビジネスを推進する人材育成に期待します。IT 関連知識だけでなくＵＩ・ＵＸデザイン、データサイエンティストなどＤＸやデジタルビジネスの実現を担う人材が求めています。是非、次世代の DX を主導する人材の輩出をお願いします。
24	情報技術知識を持った学生の育成に期待します。
25	特に、ソフトウェア開発に興味のある学生さんが増えると弊社としても幸いです。
26	問 3 の従業員数についてですが、500-1000 名未満が選択肢になかったので 500 名未満にさせていただきました。
27	エンジニアとしての実務は、かなり多岐に渡るものです。学生にとっては、ずっとスクリーンに向かっている印象が強いかもしれませんが、決してそうではありません。個人のスキルに頼っているわけでもなく、全てがきっちりとシステム化されているわけでもありません。様々な姿がある事を知って欲しいと思います。
28	近隣企業として御校学生が弊社で活躍されることに期待しております。
29	情報システム関連の学習を重点的に実施して欲しい。
30	IT エンジニア・プログラマー科目を充実させて頂きたいです。C、C#、C++、JAVA など学んでおくことで、就職領域の選択肢が増えると思います。いまのカリキュラム・選択コースですと、ニーズの薄い領域に対して浅く広い印象です。
31	SE 人材の採用に繋がることを期待しています。今後ともよろしくお願いします。
32	学生がコミュニケーション能力が身に着けられるような授業や環境 複数人で何かを作成するといった経験
33	AI 分野で活躍するエンジニアを期待したい

34	現在、IT 関係で活躍のできる人材の採用・育成に力を入れており、IT パスポートや基本情報技術者試験の資格をすでに取得している学生に関しては、2 年目で IT 事業部へキャリアアップすることを前提に採用するといった取り組みも今年より開始いたしました。業務効率改善のために能動的に協力してくださる方がエントリーしてくださったら嬉しいと思います。
35	業務のシステム化や効率化に伴うシステムツールの運用、情報処理能力の発揮の面において、ぜひご活躍頂きたいです。
36	プログラミングの知識、経験、また論理的思考を身に着けていただきたい。
37	他校の情報系学部出身で技術として活躍している社員が男女問わずいるので、御校学生にも技術での活躍を期待しております。
38	基本情報技術者試験合格レベルの学びへの意欲と大学生としての一般的（基礎的）な教養や経験があれば理想的だなと考えています。
39	金融業界において、自社内の業務効率化のみならず、お客様に対する改善提案等、DX・IT 対応は必須であり、これらの知識・スキルを有する方に入社いただき、先導していただきたいと考えております。
40	弊社には御校の卒業生が在籍しており、非常に優秀である。現在、グループリーダーとして、後輩の育成にも尽力しており、とても期待できる人材であるため、御校には引き続き、良い人材の教育に力を入れて欲しい。
41	就職希望の学生様がみえましたら、マイナビよりエントリーをお願い致します。
42	システム開発のみでなくシステム導入・構築・保守・運用などのサービスにも興味を持ってくれるとありがたいです。
43	弊社では、お取引先企業における業務システムの開発を行っており、メディア系よりも従来からの情報システムにおけるプログラミングや設計技術、および周辺のネットワーク、インフラ等のスキルを持った人材を必要としています。
44	座学だけでなく、実際にプログラミング言語を用いた実践的なシステム開発の講義があると実務に役立つと思います。
45	弊社は流通小売・自動車業界の為、学生が御校で学ばれた技術を直接活かせる機会は、それほど多くはありません。ですが、基礎教育科目で培った基本的なスキルは多く活かしてご活躍いただけます。それにプラスで、「映像・クリエイティブな考え」そして「技術」を習得された御校の学生は弊社にマッチすると考えております。
46	2024 卒求人につきまして、社内 SE の募集を行っております。求人受付 NAVI およびキャリタス UC にて、求人票をお送りしておりますのでご査収の程よろしくお願いいたします。
47	弊社はここ最近の動画視聴型業界研究会に参加させていただき、名古屋文理大学の学生さんからの応募は増えてきております。情報メディアということでぜひ IT 企業である弊社に入社してほしいという気持ちはあるのですが、筆記試験の点数が足りず、落選してしまうことが多いです。弊社の筆記試験は専門的な問題ではなく、数学、漢字、英語など基本的な問題でございます。名古屋文理大学の学生さんの採用実績はまだありませんので、ぜひそちらにも力を入れていただければ幸いです。
48	今現在では、卒業生が活躍できそうな採用枠がありませんが、将来的には期待したい。
49	学習用又は健康製作上又は PR 用 VR コンテンツの製作・学校用プログラミングコンテンツの製作・SNS を利用した販促活動の推進用コンテンツの製作・プロジェクションマッピングを利用した PR 用コンテンツの製作など
50	近年のコロナ感染の影響もあり他人との接触が極端に減少し、大学生が卒業後、どの様な仕事をしたいか、どの様な業種で働きたいかという指針を持ちにくくなっていると思われます。従って大学教育としては、専門的な知識・技術もさることながら、時代は変化しているものの、社会に出て他人とのコミュニケーションをとれる様に、また自分の意見を明確に持ち、それを人に伝える、人との付き合いを円滑にするための常識・マナーも是非持てる様にご指導をお願いしたいと思います。
51	ビジネスマナーや、ベンダ資格（LPIC や Java プログラマ）など

52	当社は、食品スーパーのため、卒業生様の能力を生かせる職場がございません。ただし、貴大学のアルバイトさんは就労していました。
53	手前勝手な思いではありますが、N/W 技術に関する知識がもう少し充実していれば、更なる強みになると思われます。
54	専門分野は、専門学校の方が、即戦力となる場合も見受けられますが、基礎学力やコミュニケーション能力においては大学生が順応しやすいように感じます。資格が全てではないですが、資格取得を目標として進める点も増やしていくことができたら社会に出たとき、さらに即戦力となるかと存じます。
55	弊社はソフトウェア会社の為、特に情報システムコースでプログラミングを学ばれている方には学生時代に学んだことが活かせる場面が多くあると考えております。パンフレットに記載されている【取得可能な資格】の中でも基本情報技術者試験などの情報処理技術者の国家資格を取得されている方だと早い時期から活躍できる可能性が高い為、学生の方には資格取得や技術の習得に向けて意欲的に取り組んでいただけると良いと思います。
56	ご卒業生に関しまして、IT 企業で活躍いただいております。 活躍中の先輩社員を同席して学内説明会を実施させていただきたく思います。
57	（問 6 で「採用したいと思わない」としたのは現在担当部署に求人が無い為です） これからの時代に必要なスキルを習得することができる学科であり、企業からの需要は高いのではないでしょうか。弊社のような中小企業では即戦力で活躍頂ける人材だろうと思います。
58	当社は新聞とテレビ、ラジオ、ウェブの４媒体を持つ地方メディアです。メディアの多様化が進む中、「届けたい人に正確な情報を届ける」ためのメディア企業に携わる、エンジニアやメディアデザイナーの卵を求めています。
59	基本情報技術者試験の合格
60	弊社業務の中でも情報系学生やプログラミング専攻の学生需要が年々高まってきております。今後も貴学の情報メディア学部からそういった人材の採用ができればと考えております。
61	特に入社前の専門性は求めていないため、弊社と上手くマッチングできる学生さんが見えた場合には、採用させていただきたいです。
62	問題発見～解決するチカラを養って欲しいです
63	主にシステム開発など専門分野を強化いただけると弊社としての需要は高いです。
64	IT 企業にとって「基本情報技術者」は、無免許運転と同等と考えています。大学生活の中でそれを取得できると言うのは大変良いことだと感じました。弊社では「資格手当」というものが存在し、一時金ではなく毎月支給となります。基本情報は毎月 5,000 円、応用情報は毎月 10,000 円、高度情報は毎月 30,000 円です。入社すぐに給与が UP するのでモチベーションアップにも繋がります。弊社に入社いただけた際には、他の子より 1 歩進み、活躍されることを期待しています。
65	弊社は毎年システムエンジニア職を募集しているため、IT 業界の基礎知識やプログラミング技術をお持ちの学生様は、理解が早く、プロジェクトに配属後も非常に期待をしております。今後、ぜひ弊社のご案内をさせていただく機会をいただけますと幸いです。
66	IT 分野の基礎知識。アルゴリズムの理解、プログラムの基礎知識
67	コースごとに専門的知識を身に付けられる他、共通で学べる専門科目もあるとのことで、幅広い知識を身に付けられることで学生の将来の可能性を広げることができると考えます。また、各コースに応じた資格も取得が可能となっており、興味のある分野に学生が挑戦できる環境であるため、自ら挑戦する力が身に付けられるのではないかと感じます。 今後情報メディアは業界にとって需要がある分野であるため、学生自身が幅広く学び、その中で知識の幅が豊かになっていくことを期待しております。
68	情報通信業を含む各業界では、情報メディア（特に IT を専門とする技術者）の採用・育成が喫緊の課題になっている。その点に貢献する今回の貴学の構想には期待が大きい。

３．「収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査」集計結果のポイント

※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。

● 本学が位置する愛知県を本社所在地とする企業が、全体の約7割となった。

名古屋文理大学が 2024（令和 6）年度に構想している情報メディア学部情報メディア学科の入学定員増に係る「収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査」において、有効回答 196 件の集計を行った。

その結果、本社所在地は、「愛知県」が 133 件（67.9%）、「東京都」が 28 件（14.3%）、「神奈川県」が 9 件（4.6%）、「岐阜県」が 7 件（3.6%）、「三重県」が 5 件（2.6%）、「静岡県」・「大阪府」が 4 件（2.0%）、「福井県」・「京都府」・「兵庫県」・「岡山県」・「福岡県」・「熊本県」が 1 件（0.5%）となった。

【表】回答企業の本社所在地について＜問１の結果より＞

No	選択項目	回答数	構成比
1	愛知県	133	67.9%
2	東京都	28	14.3%
3	神奈川県	9	4.6%
4	岐阜県	7	3.6%
5	三重県	5	2.6%
6	静岡県	4	2.0%
7	大阪府	4	2.0%
8	福井県	1	0.5%
9	京都府	1	0.5%
10	兵庫県	1	0.5%
11	岡山県	1	0.5%
12	福岡県	1	0.5%
13	熊本県	1	0.5%
合計		196	100.0%

※回答のあった都道府県のみを記載

● 回答企業の業種は「情報通信業」が最も多く、全体の 35.2%であった。

企業の業種については、「情報通信業」が 69 件（35.2%）と最も多く、次いで「卸売・小売業」が 28 件（14.3%）、「専門・技術サービス業」が 27 件（13.8%）、「製造業」が 26 件（13.3%）、「サービス業」が 14 件（7.1%）、「金融業・保険業」が 6 件（3.1%）、「飲食店・宿泊サービス業」・「建設業」が 4 件（2.0%）、「不動産業・物品賃貸業」が 3 件（1.5%）、「運輸業」が 2 件（1.0%）、「農・林・漁・鉱業」・「電気・ガス・水道業」が 1 件（0.5%）、「その他」が 11 件（5.6%）の順となった。

【表】回答企業の業種について＜問 2 の結果より＞

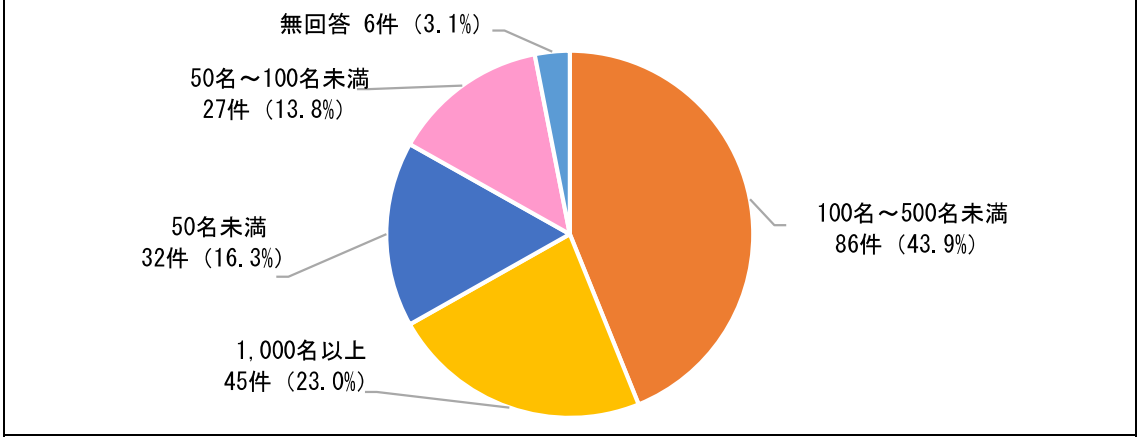
No	選択項目	回答数	構成比
1	情報通信業	69	35.2%
2	卸売・小売業	28	14.3%
3	専門・技術サービス業	27	13.8%
4	製造業	26	13.3%
5	サービス業	14	7.1%
6	金融業・保険業	6	3.1%
7	飲食店・宿泊サービス業	4	2.0%
8	建設業	4	2.0%
9	不動産業・物品賃貸業	3	1.5%
10	運輸業	2	1.0%
11	農・林・漁・鉱業	1	0.5%
12	電気・ガス・水道業	1	0.5%
13	その他	11	5.6%
合計		196	100.0%

※回答のあった業種のみを記載

● 従業員数の規模「100 名～500 名未満」の企業が 43.9%となった。

企業の従業員数については、「100 名～500 名未満」が 86 件（43.9%）と最も多く、次いで「1,000 名以上」が 45 件（23.0%）、「50 名未満」が 32 件（16.3%）、「50 名～100 名未満」が 27 件（13.8%）、無回答が 6 件（3.1%）の順となった。

【グラフ】回答企業の従業員数について＜問 3 の結果より＞

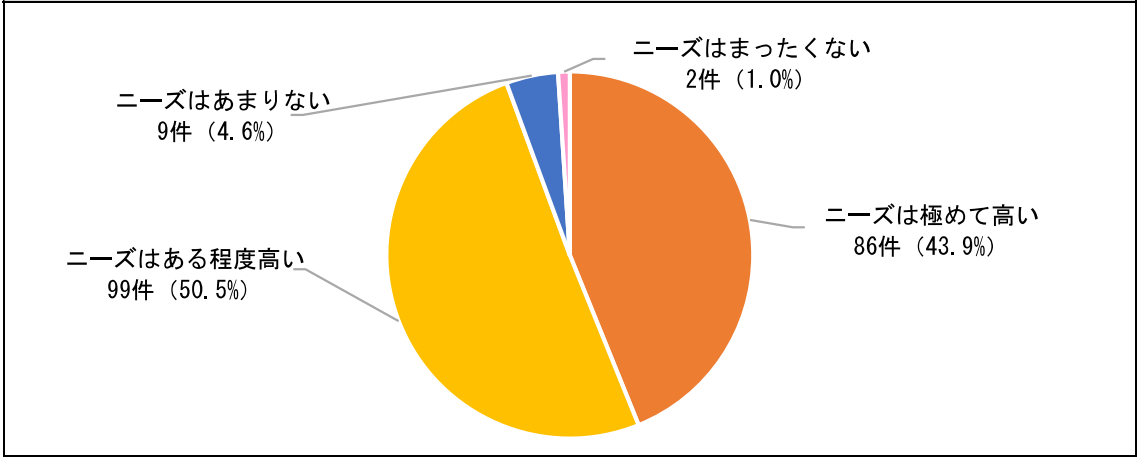


＜参考＞「500 名～1000 名未満」の選択肢の記載がなかったため、無回答に 1 件含まれる（自由記述の記載より判明分）。

● 「ニーズは極めて高い」、「ニーズはある程度高い」との回答が占める割合が、94.4%と社会的に高く求められている結果となった。

当該学部学科に対する社会的ニーズについてたずねた質問では、「ニーズは極めて高い」86 件（43.9%）、「ニーズはある程度高い」99 件（50.5%）の合計が 185 件（94.4%）となった。

【グラフ】当該学部学科に対する社会的ニーズについて＜問 4 の結果より＞



● 当該学部学科の 4 つの特色、それぞれに魅力を感じる結果となった。

当該学部学科の特色の中で興味・関心のあるものをたずねた質問では、回答の多い順に「大学生としての基礎学力と教養を高めるための基礎教育科目と、情報メディアの各分野において、即戦力となる人材を育成するための専門教育科目をバランスよく学ぶことができる」が 122 件（62.2%）、「情報システム開発、映像コンテンツ制作、サウンド制作、メディアデザインを目的とする各専修コースには、高度な専門科目が設置され、コースや複合スキルを意識した学習の実践とキャリアデザインに即した専門知識の修得が可能である」が 88 件（44.9%）、「コースごとの専門科目のほか、各コース共通の専門科目を設置。情報システムやメディアコンテンツ・メディア技術、メディアデザインなど多種の研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる」が 83 件（42.3%）、「卒業研究・卒業制作を通して、情報システム技術者、メディアコンテンツに関わる制作者やデザイナー・技術者など、目標とするキャリアの実践力を身につけることができる研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる」が 55 件（28.1%）であった。

【表】当該学部学科の魅力を感じる特色について＜問 5 の結果より＞

No	選択項目	回答数	回答率
1	大学生としての基礎学力と教養を高めるための基礎教育科目と、情報メディアの各分野において、即戦力となる人材を育成するための専門教育科目をバランスよく学ぶことができる	122	62.2%
2	情報システム開発、映像コンテンツ制作、サウンド制作、メディアデザインを目的とする各専修コースには、高度な専門科目が設置され、コースや複合スキルを意識した学習の実践とキャリアデザインに即した専門知識の修得が可能である	88	44.9%
3	コースごとの専門科目のほか、各コース共通の専門科目を設置。情報システムやメディアコンテンツ・メディア技術、メディアデザインなど多種の研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる	83	42.3%
4	卒業研究・卒業制作を通して、情報システム技術者、メディアコンテンツに関わる制作者やデザイナー・技術者など、目標とするキャリアの実践力を身につけることができる研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる	55	28.1%

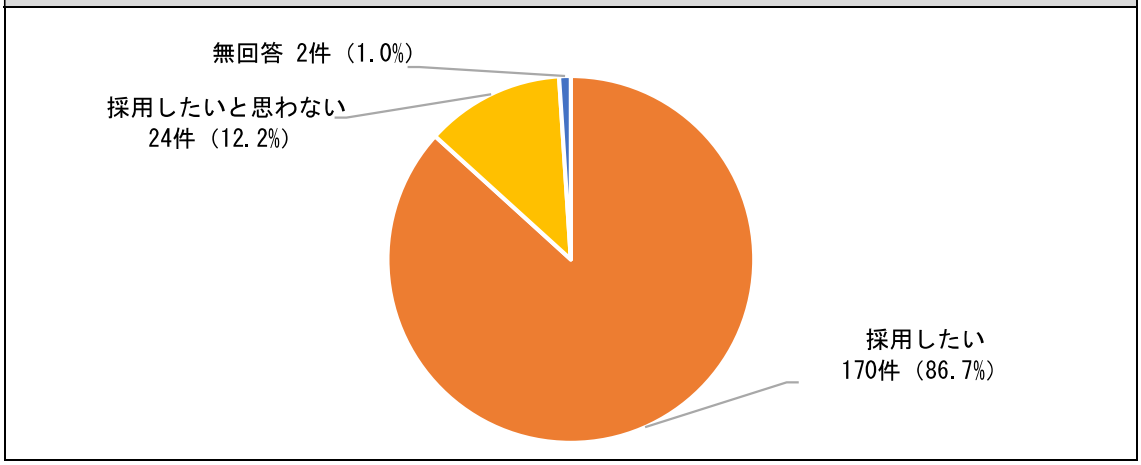
● **採用可能人数は、予定している 1 年次入学定員+3 年次編入学定員=122 人を大きく上回る 272 人であった。**

当該学部学科の卒業生を「採用したい」と 170 件（86.7%）が回答し、約 9 割の企業が採用意欲を示した。

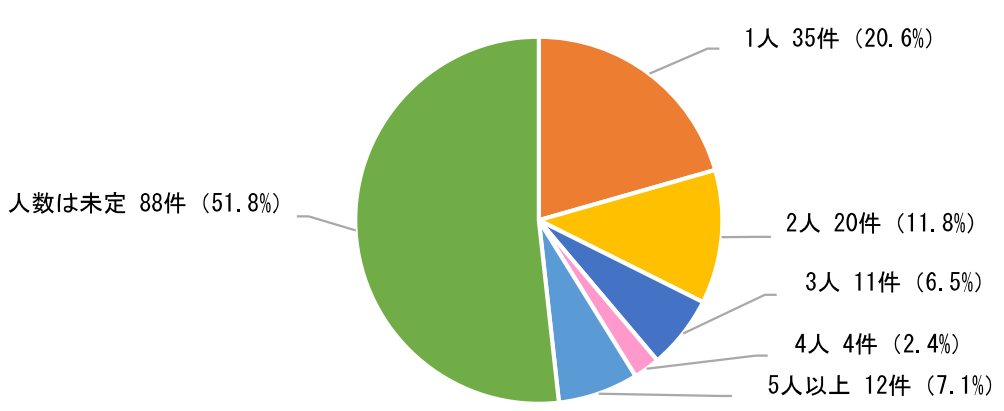
また、この 170 件から示された具体的な採用可能人数は、「1 人」が 35 件（20.6%）、「2 人」が 20 件（11.8%）、「3 人」が 11 件（6.5%）、「4 人」が 4 件（2.4%）、「5 人以上」が 12 件（7.1%）、「人数は未定」が 88 件（51.8%）となり、合計 272 人（「5 人以上」は 5 人、「人数は未定」は 1 人として集計）となった。

これは、当該学部学科の 1 年次入学定員の 120 名、3 年次編入学定員 2 名であり、合計 122 名を十分に上回る回答を得た結果となった。

【グラフ】当該学部学科の卒業生に対する採用の意向について＜問 6 の結果より＞



【グラフ】採用可能人数について＜問 7 の結果より＞



４．「収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査」集計結果の分析

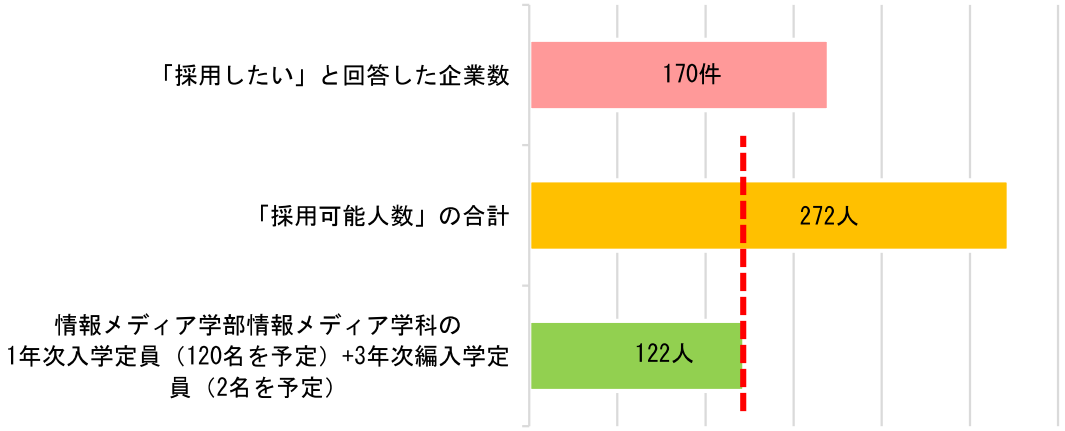
当該学部学科の卒業生を採用したいと思うと回答した企業 170 件（問 6）の採用可能人数の結果（問 7）は、以下の通りである。

【表】採用可能人数について＜問 7 の結果より＞

No	選択項目	回答数	採用可能人数
1	1 人	35	35 人
2	2 人	20	40 人
3	3 人	11	33 人
4	4 人	4	16 人
5	5 人以上	12	60 人
6	人数は未定	88	88 人
合計		170	272 人

※5 人以上は 5 人、人数は未定は 1 人として集計

【グラフ】当該学部学科の卒業生の採用の意向・採用可能人数について



また、業種別（問 2）の当該学部学科に対する社会的ニーズ（問 4）及び、採用の意向（問 6）のクロス集計した結果は、以下の通りである。

【表】業種別の当該学部学科に対する社会的ニーズ及び、採用の意向について

No	業種	業種別企業数（問 2）	社会的ニーズについて（問 4）				採用の意向について（問 6）	
			ニーズは極めて高い	ニーズはある程度高い	ニーズはあまりない	ニーズはまったくない	採用したい	採用しない
1	情報通信業	69	43	24	1	1	67	1
2	卸売・小売業	28	11	16	1	0	23	5
3	専門・技術サービス業	27	11	13	2	1	23	4
4	製造業	26	8	17	1	0	19	6
5	サービス業	14	3	9	2	0	10	4
6	金融業・保険業	6	2	4	0	0	6	0
7	飲食店・宿泊サービス業	4	1	3	0	0	4	0
8	建設業	4	1	2	1	0	3	1
9	不動産業・物品賃貸業	3	1	2	0	0	3	0
10	運輸業	2	1	1	0	0	2	0
11	農・林・漁・鉱業	1	0	1	0	0	1	0
12	電気・ガス・水道業	1	0	1	0	0	1	0
13	その他	11	4	6	1	0	8	3
合計		196	86	99	9	2	170	24

以上の結果より、名古屋文理大学が 2024（令和 6）年 4 月に構想する「情報メディア学部情報メディア学科」の収容定員増加に係るアンケート調査では、卒業生を採用したいと 170 件の企業が回答した。各企業が回答した採用可能人数に、件数を乗じた合計は 272 人となった。

これは、予定する入学定員の 120 名を大きく上回る回答結果であるため、当該学部学科の人材需要の見通しは問題なしと判断できる。

以上

添付資料

名古屋文理大学

「概要説明プリント」

「収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査用紙」

「収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査(Web フォーム)」

【概要説明プリント（1/4)】

名古屋文理大学

NAGOYA BUNRI

情報メディア学部 情報メディア学科

情報メディア学部 情報メディア学科では、

2024年４月に収容定員増加を予定しています。



【概要説明プリント（2/4)】

情報メディア学部 情報メディア学科【概要】

収容定員増加時期	所在地	入学定員	取得学位
2024年4月	愛知県稲沢市稲沢町前田365	120名 / 3年次編入 2名 (収容定員484名)	学士（情報メディア学）

2024年4月より入学定員を100名から120名に増員、３年次編入学定員を2名を設け、収容定員の増加を予定しています。

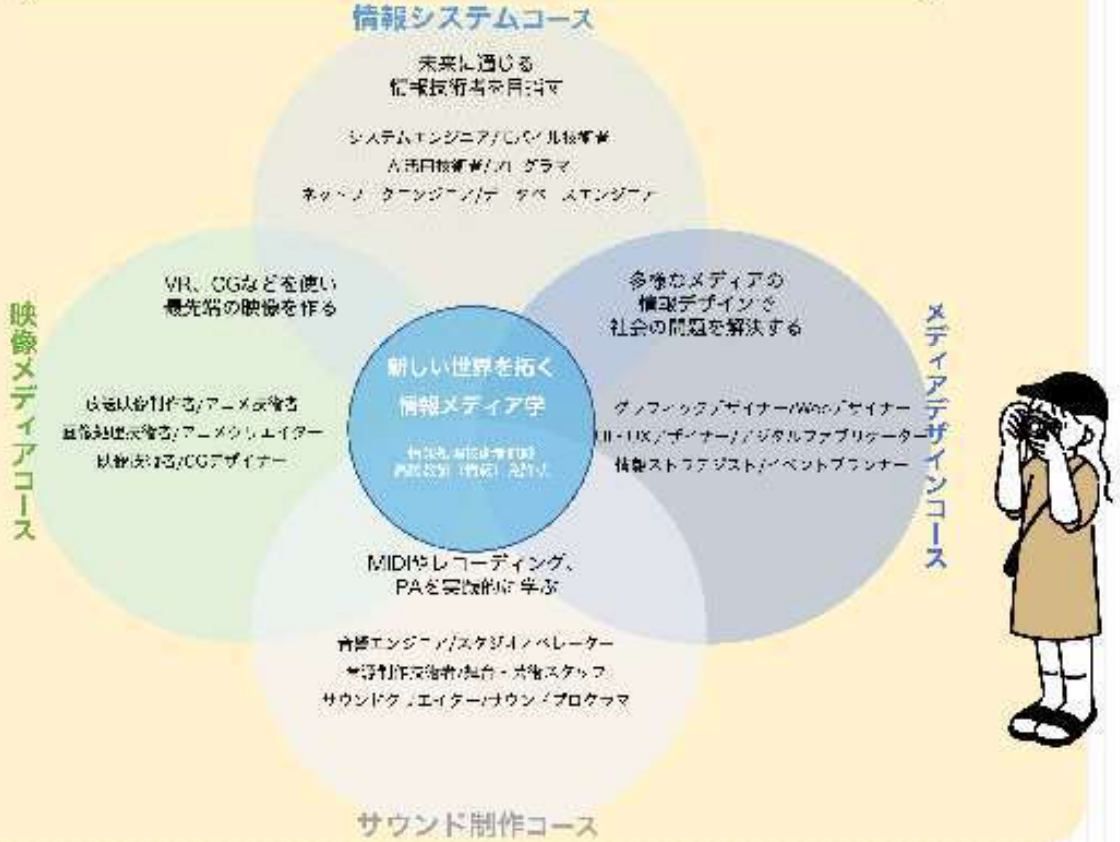
01

養成する人材像

情報メディア学部は、情報の持つ社会的役割を多面的に教育研究し、情報社会で不可欠な情報システウやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用能力、コミュニケーション能力、創作能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を養成します。

02

各コースについて



【概要説明プリント（3/4)】

03

カリキュラムの特徴

- 大学生としての基礎学力と教養を高めるための基礎教育科目と、情報メディアの各分野において、即戦力となる人材を育成するための専門教育科目をバランスよく学ぶことができる
- 情報システム開発、映像コンテンツ制作、サウンド制作、メディアデザインを目的とする各専修コースには、高度な専門科目が設置され、コースや複合スキルを意識した学習の実践とキャリアデザインに即した専門知識の修得が可能である
- コースごとの専門科目のほか、各コース共通の専門科目を設置。情報システムやメディアコンテンツ・メディア技術、メディアデザインなど多種の研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる
- 卒業研究・卒業制作を通して、情報システム技術者、メディアコンテンツに関わる制作者やデザイナー・技術者など、目標とするキャリアの実践力を身につけることができる研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる

04

取得可能な資格と卒業後の進路



【取得可能な資格】

ITパスポート試験 / 基本情報技術者試験

→上記の資格を取得すると、対応する科目の単位が認定されます。

応用情報技術者試験 / 高度情報処理技術者試験 / 高等学校教諭一種免許状［情報］

MIDI検定 / 色彩検定 / MOS（マイクロソフトオフィス スペシャリスト） / TOEIC®

日本漢字能力検定 / マルチメディア検定 / CGエンジニア検定 / CGクリエイター検定

画像処理エンジニア検定 / Webデザイナー検定 / 日本語ワープロ検定

文書デザイン検定 / 情報処理技能検定[表計算、データベース] /

プレゼンテーション作成検定 / 文章入力スピード認定試験 / Pro Tools技術認定試験

【卒業後の進路】

情報通信業会をはじめ、様々な業種で活躍しています。2022年度就職率**94.0%**！

情報通信 / CG・映像・サウンド・クリエイティブ / 製造業 / サービス / 公務員・公的機関

教育・団体・・・・など

初年度学費

大学名	学部名	学科名	入学金	授業料	施設設備費	その他	初年次合計
名古屋文理	情報メディア	情報メディア	200,000円	750,000円	200,000円	230,000円	1,380,000円
【以下、名古屋文理大学情報メディア学部情報メディア学科に類似する学部・学科一覧】							
名城	都市情報	都市情報	200,000円	835,000円	310,000円		1,345,000円
愛知淑徳	人間情報	人間情報	200,000円	760,000円	-	435,000円	1,395,000円
人間環境	環境科学	データサイエンス	200,000円	700,000円	-	430,000円	1,330,000円
大同	情報学	情報デザイン	300,000円	890,000円	315,000円		1,505,000円

※その他には、実習費や教育充実費が含まれます。※他大学の学費は大学ホームページより掲載。

Access

▷名鉄「名鉄名古屋」駅から

名鉄名古屋本線、名鉄一宮・名鉄岐阜方面行きに乗車、特急11分・急行16分、「国府宮」駅下車。
※注意：「犬山経由名鉄岐阜行き」は「国府宮」を通りません。ご乗車にならないようご注意下さい。
JRを利用される方は、名古屋駅で名鉄電車への乗り換えが必要です



＼大学ホームページはこちら／

NAGOYA BUNRI

名古屋文理大学　情報メディア学部 情報メディア学科
〒492-8520
愛知県稲沢市稲沢町前田365　TEL: 0587-23-2400

【収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査用紙(1/2)】

名古屋文理大学
情報メディア学部情報メディア学科　収容定員増加構想に関する人材需要アンケート調査
＜対象：人事・採用ご担当者様＞

名古屋文理大学では、2024年4月より、情報メディア学部情報メディア学科の3年次編入学2名を設けるとともに、入学定員を100名から120名に増員することを構想しています。本学では、このアンケート調査を通して、将来的に卒業生の採用をご検討いただく皆様から様々なご意見をお聞きし、構想内容の充実を図っていきたいと考えています。本アンケートから得た情報は、構想に係る統計資料及び文部科学省への提出書類の一部としてのみ活用します。つきましては、別紙の概要をご覧いただいた上で、アンケート調査へのご協力をよろしくお願いいたします。
※アンケート調査は、名古屋文理大学から委託された第三者機関が実施しています。
※概要及びアンケートに記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

＜注意事項＞
鉛筆またはシャープペンシルで、濃くはっきりとマークしてください。正しく記入・マークされていない場合は、判別できないことがあります。
【良い例】 ●　【悪い例】 ⊖ ⊘ ○

問1　貴施設・貴法人の本社（本部）所在地をご回答ください。（あてはまるもの1つにマーク）

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県			
0	0	0	0	0	0	0			

問2　貴施設・貴法人の業種について、ご回答ください。（あてはまるもの1つにマーク）

情報通信業	農・林・漁・鉱業	飲食店・宿泊サービス業	運輸業	建設業
0	0	0	0	0
製造業	電気・ガス・水道業	卸売・小売業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業
0	0	0	0	0
学術研究	専門・技術サービス業	教育・学習支援	医療・福祉	生活・娯楽等
0	0	0	0	0
サービス業	その他	【その他の場合、内容を記入してください】		
0	0			

問3　貴施設・貴法人の従業員数について、ご回答ください。（あてはまるもの1つにマーク）

50名未満	50名～100名未満	100名～500名未満	1,000名以上
0	0	0	0

＜以下の質問から、別紙の概要をお読みの上、ご回答をお願いいたします＞

問4　本学の情報メディア学部情報メディア学科は、社会的ニーズがあると思いますか。（あてはまるもの1つにマーク）

ニーズは極めて高い	ニーズはある程度高い	ニーズはあまりない	ニーズはまったくない
0	0	0	0

【収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査用紙(2/2)】

問5　本学の情報メディア学部情報メディア学科には以下のような特色があります。この中から魅力的だと感じる特色をお選びください。（あてはまるものすべてマーク）

0 大学生としての基礎学力と教養を高めるための基礎教育科目と、情報メディアの各分野において、即戦力となる人材を育成するための専門教育科目をバランスよく学ぶことができる

0 情報システム開発、映像コンテンツ制作、サウンド制作、メディアデザインを目的とする各専修コースには、高度な専門科目が設置され、コースや複合スキルを意識した学習の実践とキャリアデザインに即した専門知識の修得が可能である

0 コースごとの専門科目のほか、各コース共通の専門科目を設置。情報システムやメディアコンテンツ・メディア技術、メディアデザインなど多種の研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる

0 卒業研究・卒業制作を通して、情報システム技術者、メディアコンテンツに関わる制作者やデザイナー・技術者など、目標とするキャリアの実践力を身につけることができる研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得できる

問6　貴施設・貴法人では、本学の情報メディア学部情報メディア学科を卒業した学生を採用したいと思いますか。（あてはまるもの１つにマーク）

0 採用したい（問7へ）

0 採用したいと思わない

［問7は、問6で「採用したい」と回答した方のみご回答ください。］

問7　採用する場合の採用可能人数をお答えください。

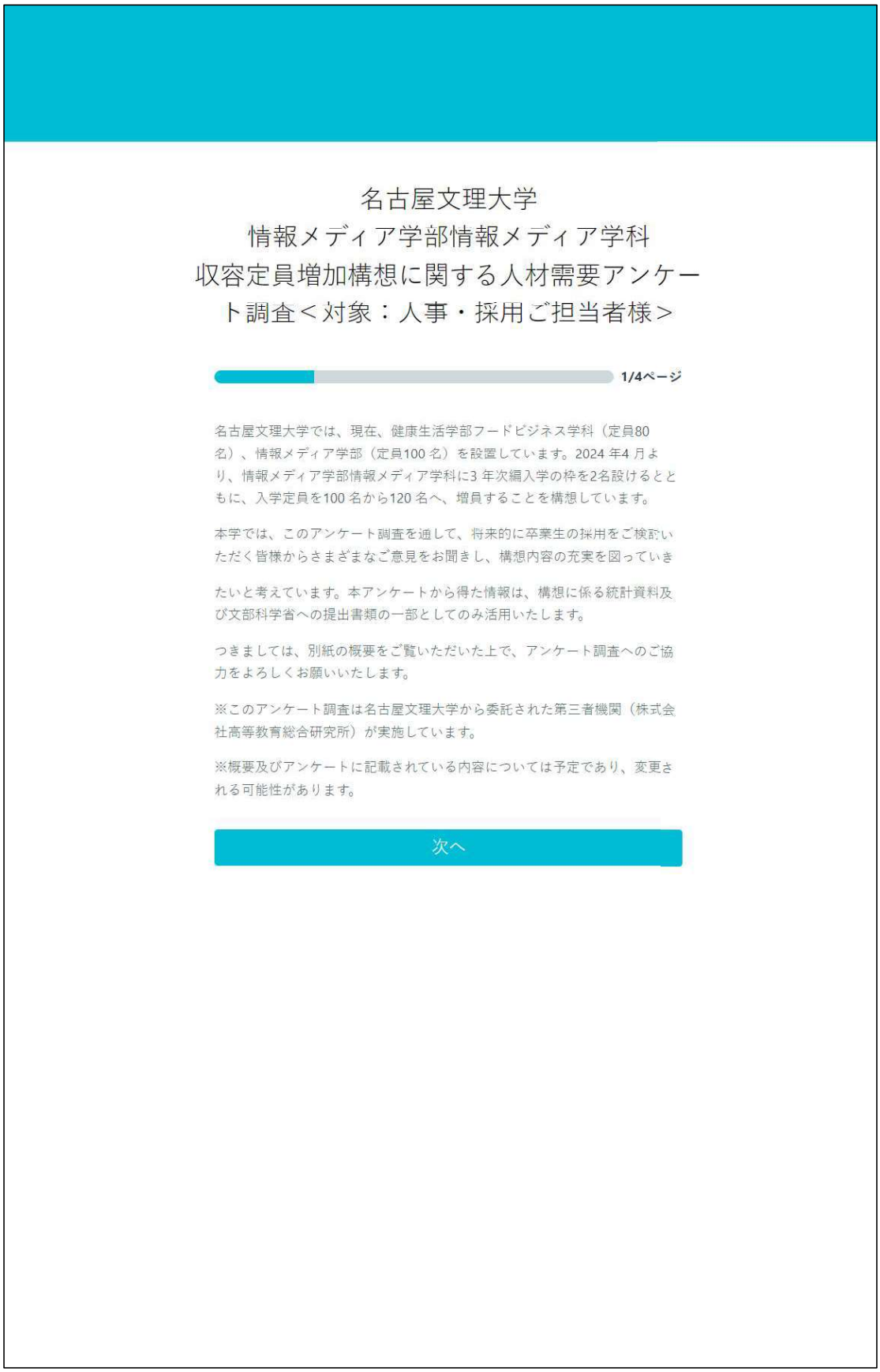
0 1人
0 2人
0 3人
0 4人
0 5人以上
0 人数は未定

問8　本学の情報メディア学部情報メディア学科に対して、期待される点やご要望がありましたらご自由にお書きください。

問9　差し支えなければ、貴施設・貴法人名をお教えください。
※どの施設・法人にご返送いただいたかを把握するためのお伺いであり、アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業・団体が識別できる情報として公表されることはございません。

アンケートは以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

【収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査(Web フォーム）（1/4)】



名古屋文理大学
情報メディア学部情報メディア学科
収容定員増加構想に関する人材需要アンケート調査＜対象：人事・採用ご担当者様＞

1/4ページ

名古屋文理大学では、現在、健康生活学部フードビジネス学科（定員80名）、情報メディア学部（定員100 名）を設置しています。2024 年4 月より、情報メディア学部情報メディア学科に3 年次編入学の枠を2名設けるとともに、入学定員を100 名から120 名へ、増員することを構想しています。

本学では、このアンケート調査を通して、将来的に卒業生の採用をご検討いただく皆様からさまざまなご意見をお聞きし、構想内容の充実を図っていきたいと考えています。本アンケートから得た情報は、構想に係る統計資料及び文部科学省への提出書類の一部としてのみ活用いたします。

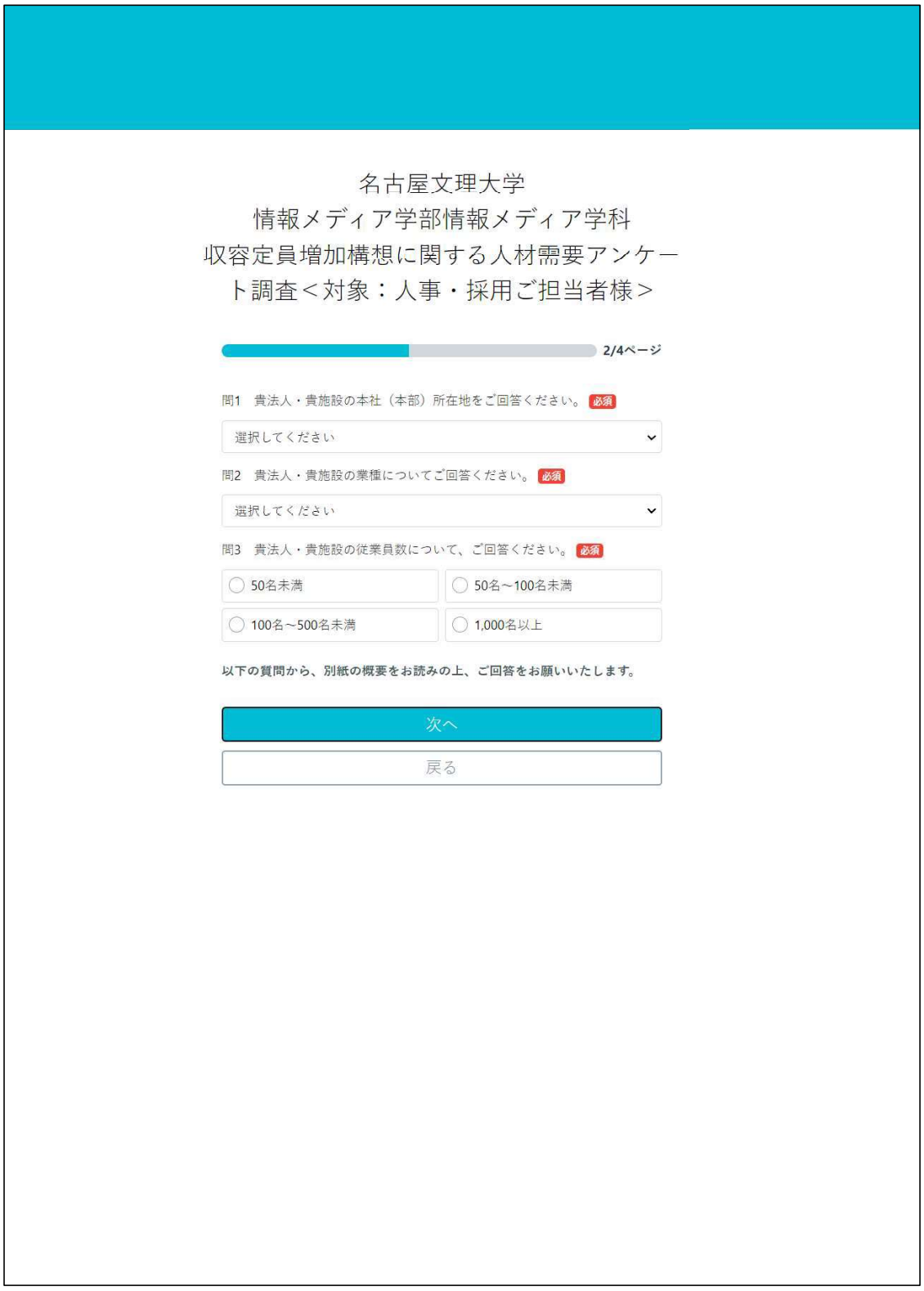
つきましては、別紙の概要をご覧いただいた上で、アンケート調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

※このアンケート調査は名古屋文理大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※概要及びアンケートに記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

次へ

【収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査(Web フォーム)（2/4)】



名古屋文理大学
情報メディア学部情報メディア学科
収容定員増加構想に関する人材需要アンケート調査＜対象：人事・採用ご担当者様＞

2/4ページ

問1　貴法人・貴施設の本社（本部）所在地をご回答ください。 必須

選択してください

問2　貴法人・貴施設の業種についてご回答ください。 必須

選択してください

問3　貴法人・貴施設の従業員数について、ご回答ください。 必須

○ 50名未満　○ 50名～100名未満
○ 100名～500名未満　○ 1,000名以上

以下の質問から、別紙の概要をお読みの上、ご回答をお願いいたします。

次へ

戻る

【収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査(Web フォーム)（3/4)】

名古屋文理大学
情報メディア学部情報メディア学科
収容定員増加構想に関する人材需要アンケート調査＜対象：人事・採用ご担当者様＞

3/4ページ





次へ

戻る

【収容定員増加構想についての人材需要アンケート調査(Web フォーム)（4/4)】



名古屋文理大学
情報メディア学部情報メディア学科
収容定員増加構想に関する人材需要アンケート調査＜対象：人事・採用ご担当者様＞

4/4ページ

問4　本学の情報メディア学部情報メディア学科は、社会的ニーズがあると思われますか。 必須

- ニーズは極めて高い
- ニーズはある程度高い
- ニーズはあまりない
- ニーズはまったくない

問5　本学の情報メディア学部情報情報メディア学科は社会的ニーズがあると思われますか。 必須

- 大学生としての基礎学力と教養を高めるための基礎教育科目と、情報メディアの各分野において即戦力となる人材を育成するための専門教育科目をバランスよく学べる
- 情報システム開発、映像コンテンツ制作、サウンド制作、メディアデザインを目的とする各専修コースには、高度な専門科目が設置され、また、コースや複合スキルを意識した学修の実践とキャリアデザインに即した専門知識を修得することができる
- コースごとの専門科目のほか、各コース共通の専門科目を設置し、情報システムやメディアコンテンツ・メディア技術、メディアデザインなど多種の研究分野を知ることにより、情報メディアに関する基礎的知識を修得することができる選択肢3
- 卒業研究・卒業制作を通して、情報システム技術者、映像や音響などメディアコンテンツに関わる制作者やデザイナー・技術者など、目標とするキャリアの実践力を身につけることができる

問 6 貴法人・貴施設では、本学の情報メディア学部情報メディア学科を卒業した学生を採用したいと思われますか。 必須

- 採用したい
- 採用したいと思わない

問8　本学の情報メディア学部情報メディア学科に対して期待される点やご要望がありましたら、ご自由にお書きください。 任意

問9　差し支えなければ、貴法人・貴施設名をお教えください。 任意

送信

戻る

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　　長　　の　　氏　　名　　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
－	学長	ｶｹﾞﾔﾏ　ﾀｶｼ 景山　節 ＜平成24年4月＞		理学博士		名古屋文理大学学長 名古屋文理大学短期大学部学長 （平成24年4月～令和6年3月）

（注）　高等専門学校にあっては校長について記入すること。